

積善遺跡 (No. 440)

鎌倉市十二所字積善944番1、945番7、10地点

例 言

1. 本報は鎌倉市十二所字積善 944 番 1、945 番 7、10 地点に所在する遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は個人住宅建築にかかる建築範囲約 47 m²を対象とし、平成 27 年 8 月 18 日から 11 月 12 日にかけて実施した。
3. 現地における調査体制は以下の通りである。

調査担当者：後藤健

調査員：岡田慶子・吉田麻子・伊丹まどか・渡辺美佐子・松吉里永子

作業員：秋田公佑・岩田濃・鈴木順治・南齋敬資・松山豊司・吉澤功

4. 本報告作成は以下の分担により行った。

遺物実測：岡田慶子・岩崎卓治・菊川泉

遺物図版作成：後藤健・岡本夏菜・清水由加里・吉田桂子

遺構図版作成：後藤健

観察表：岡本夏菜・清水由加里

遺構写真：後藤健・須佐仁和

遺物写真：須佐仁和

写真図版作成：後藤健・清水由加里

執筆：後藤健

5. 発掘に関わる出土品などの資料は鎌倉市教育委員会が管理・保管している。

6. 本報告の遺物図版の縮尺は以下の通りである。

遺物実測図 1/3（一部 1/4） 銭 1/1（近代遺構出土銭 1/2） 各挿図にはスケールを表示してある。

7. 遺物は可能な限り復元して実測した。紙面の都合からすべての実測図を掲載していない。遺物に関する詳細は観察表にまとめて記載。

・復元実測の遺物に関しては、計測値に () を付して表記している。

・木製品のうち器形から用途を確実に判別できないものは「…状」として提示してある。

・文章中の「かわらけ」はロクロ成形のかわらけを指し、手づくね成形のかわらけは「手づくね」と記載している。

- ・ロクロ成形かわらけの底径は回転糸切りの外径部分で、手づくね成形かわらけの底径は、器面が接地した箇所で計測している。

- ・陶磁器に関しては、常滑は中野晴久氏、瀬戸製品に関しては藤澤良祐氏、磁器は山本信夫氏の編年に基づいて分類した。破片のため不明なものについては割愛した。

8. 発掘調査及び報告書作成に関しては次の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。（敬称略・五十音順）

伊丹まどか、汐見一夫、藤沢良祐、中野晴久

目 次

本文目次

第一章 調査地点の位置と歴史的環境

第1節 歴史的環境

第2節 調査の方法と経緯

第3節 堆積土層

第二章 発見された遺構と遺物

第1節 第1面の遺構・遺物

第2節 第2面の遺構・遺物

第3節 第2a面の遺構・遺物

第4節 第3面の遺構・遺物

第5節 第3a面の遺構と遺物

第6節 第3b面の遺構と遺物

第7節 第4面の遺構・遺物

第8節 第4a面の遺構・遺物

第9節 第5面の遺構・遺物

第10節 第6面の遺構・遺物

第11節 その他の遺物

第三章 考察とまとめ

第1節 検出した遺構と遺物

第2節 周囲の調査例との比較

積善遺跡の自然科学分析

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡

図2 調査位置とグリッド配置図

図3 調査区北、西壁セクション図

図4 調査区東、南壁セクション図

図5 第1面全体図 (S=1/60)

図6 第1面遺構14

図7 第1面出土遺物

図8 第2面全体図 (S=1/60)

図9 第2、2a面出土遺物

図10 第2a面全体図 (S=1/60)

図11 第3面全体図 (S=1/60)

図12 遺構70全体図 (S=1/60)

図13 第3面出土遺物

図14 第3a面全体図 (S=1/60) 2

図15 3面遺構103

図16 第3a・3b面出土遺物

図17 第3b面全体図 (S=1/60)

図18 第4面全体図 (S=1/60)

図19 第4面東南部遺構分布図 (S=1/40)

図20 第4面遺構180～184

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 図 21 第 4 面出土遺物 (1) | 図 30 第 5 面全体図 (S=1/60) |
| 図 22 第 4 面出土遺物 (2) | 図 31 遺構 249 (S=1/30) |
| 図 23 第 4 面出土遺物 (3) | 図 32 第 5 面遺構出土遺物 (1) |
| 図 24 第 4a 面全体図 (S=1/60) | 図 33 第 5 面遺構出土遺物 (2) |
| 図 25 溝 212 平面図 (S=1/30) | 図 34 5 面出土遺物 |
| 図 26 第 4a 面遺構出土遺物 (1) | 図 35 第 6 面全体図 (S=1/60) |
| 図 27 第 4a 面遺構出土遺物 (2) | 図 36 遺構 249 および出土遺物 |
| 図 28 第 4a 面遺構出土遺物 (3) | 図 37 試掘時・攪乱出土中世遺物 |
| 図 29 第 4a 面出土遺物 | |

表目次

- | | |
|---------------|----|
| 表 1 出土遺物観察表 | 55 |
| 表 2 出土遺物集計表 | 71 |
| 表 3 出土自然遺物観察表 | 75 |

図版目次

- | | | | |
|--------|----|---------|----|
| 写真図版 1 | 80 | 写真図版 10 | 89 |
| 写真図版 2 | 81 | 写真図版 11 | 90 |
| 写真図版 3 | 82 | 写真図版 12 | 91 |
| 写真図版 4 | 83 | 写真図版 13 | 92 |
| 写真図版 5 | 84 | 写真図版 14 | 93 |
| 写真図版 6 | 85 | 写真図版 15 | 94 |
| 写真図版 7 | 86 | 写真図版 16 | 95 |
| 写真図版 8 | 87 | 写真図版 17 | 96 |
| 写真図版 9 | 88 | | |

第一章 調査地点の位置と歴史的環境

第1節 歴史的環境（図1）

本調査地点はJR鎌倉駅からほぼ真東方へ約2.6km、鎌倉市街地の北東部の十二所地区の滑川上中流域の左岸に位置する。所在は鎌倉市十二所字積善944番1、945番7、10である。十二所周辺は、東側および北側は横浜市の金沢区と栄区、南側が逗子市の池子や沼間などに隣接し、西側は積善の谷戸にあたり、その南方へは鎌倉・逗子ハイランドの住宅地が広がる。遺跡が所在する一帯は、西から明石谷、二ツ橋、泉水、御所之内など字名を残した谷戸が滑川にそって開析している。調査地点は積善の谷戸の開口部、尾根の先端部にあたる。東側の尾根はハイランドへの道路造成の際に崩されているが、尾根の端部は県道に接して一部が残存しており、やぐらも残存しているため、本来は尾根を背にした景観であった。すぐ西側には滑川が流れており、谷と川に囲まれたやや狭い空間である。調査地点は現在は県道よりも約1.2mほど高く、地形的にもさほど平坦ではない。

調査地点前を通る県道金沢・鎌倉線は六浦道と呼ばれ、鎌倉から朝比奈切通を抜けて六浦・金沢を結び、さらに東京湾を経て上総国へ通じるルートで、鎌倉幕府創設以前より存在したとみられる当時の主要交通路であった。調査地点周辺には御所之内の古地名がある足利公方屋敷跡、明王院の西側の谷戸の梶原景時邸、明石谷の大江広元邸など、御家人クラスの屋敷跡であるという伝承地が複数存在しており、こうした伝承から十二所周辺は有力御家人が居館を構えていた可能性は高く、鎌倉時代の初期より開発が進められていた地域と想定される。

本調査地点の滑川を挟んだ北側には明王院五大堂がある。明王院は飯盛山寛喜寺明王院五大堂と号し、真言宗、京都仁和寺の末で、1235年の創建。初代の別当は定豪で、開基は藤原頼経である。その東側一帯は丈六の地名が残り、建暦二年(1212)に第三代将軍の源実朝が「君恩報徳」のために創建した大慈寺の跡地と推定されている。旧境内推定地からは大慈寺銘の軒先瓦が出土しており、瓦当製作技法や瓦当文様から推測して創建期瓦と推定されている、『新編相模国風土記稿』には丈六堂と記載があり、江戸時代末期までは堂があったと考えられる。関東大震災以前には畑の中に「やしまの立石」という堂前苑池の立石があったという。

永仁元(1293)年におきた大地震では、大慈寺は埋没、火災にあったことが記されており、周囲の尾根が崩落したことがうかがわれる。大慈寺の近隣と推定できる本調査地点もこの地震による影響を当然受けていると想定される。

調査地の北東側、宇佐小路の南の谷には藤沢清浄光寺の末寺である岩殿山光触寺がある。開山は一遍智真と伝わり、創建は鎌倉時代にまで遡るようである。明石谷一帯は明王院の坊舎になる一心院の旧跡と伝えられている。光触寺には、室町末期の描風ではあるが江戸時代の作とされている古図が伝わる。光触寺境内を中心に描いたものであるが、調査地付近についても描かれている。北側には五大堂、常楽寺とあり、常楽寺は大慈寺域内の丈六堂の訛言とされる。調査地周辺は積善との名が記されるのみで、西隣の谷には泉守寺とあるが積善には特に何も書かれていない。

十二所村の近世資料(一)に収録されている「十二所村要図」では、谷戸のやや奥に「積善院趾？」とあり、『五大堂事蹟備考』に梶原谷の南方に積善院という寺院があったということが詳細は不明である。谷戸の先端で本調査地付近には「えんめいじ 地藏堂趾」とある。延命寺は『新編相模国風土記稿』に「地

蔵堂、一ハ積善谷ノ山続キニテ、字長林坊ト唱フル地ニアリテ延命寺ノ号アリ」との記載がある。積善谷には複数の寺院が存在していたことが示唆されるが、創建年代や廃絶年代などは残念ながら不明である。少なくとも一定期間は宗教的な空間としての利用がなされていたことが示唆されるのみである。

周囲には西南には公方屋敷やぐら、西南の谷戸には東泉水やぐら、調査地のすぐ東南にもやぐらがあり、東の光触寺付近にもやぐらが多数存在している。ハイランドへの道路造営で尾根を切り崩した際に多数の五輪塔などが発見されたといい、それらは県道脇の公園に隣接する一角に保管されている。

なお発掘調査が行われた事例はさほど多くはない（図1）。近接地域では地点3において13世紀末葉～14世紀前葉頃と推測される礎石建物・土坑・ピットなどが検出されている。礎石建物跡は、東沿いを走る現在の県道にほぼ平行・直交するような主軸方位をもつため、六浦道を軸方位に定められたような地割が存在していた可能性が指摘されている。第2面では東西方向の薬研堀溝が検出されているが、同様に県道に直交した主軸である。

地点4では4面の中世生活面が検出されている。1面は14世紀代に属し、竪穴、土坑、ピットなどが検出されている。2面は14世紀前半で、井戸2基に土坑、ピット。3面は土坑、石敷、ピットなどが検出された。4面は13世紀末～14世紀前葉で、柱穴列や土坑、かわらけ溜りが確認されている。

地点5では2面の中世生活面が検出されている。1面は14世紀代に属し土坑、ピットが検出。1面から2面の間には焼土炭化物がみられ、14世紀前半の火災が想定される。2面は13世紀後半～14世紀前葉堅固な地業がほどこされており、かわらけ溜り、土坑、竪穴状建物、ピットが確認され、武士居館が想定されている。また13世紀後葉の生活面がさらに2面は存在することが深堀によって確認されている。

地点7は4面の中世生活面が検出されている。1面は15世紀中葉で、井戸、石敷、礎石、据甕などが発見され、2面では14世紀前半の溝、井戸、泥岩列、掘建柱建物跡が確認された。いずれも寺院との関連が想定されている。3面は13世紀後半の土坑、ピットが確認、4面では13世紀中ごろの掘立柱、建物、板壁建物、囲炉裏が検出され、町屋的な様相を示している。

地点13は中世面は1面のみで、15世紀に属し、礎石建物、溝状遺構、石組井戸などが検出されている。

部分的な調査例からはまだ不明な点が多いが、居館的な空間や寺院的な空間が存在することが明らかになっている。周囲のやぐらなどが比較的多数存在する点からも宗教的な空間としての側面も色濃いことは確かであるが、今後の調査の進展でさらなる周辺地域の様相の解明が期待される。

引用・参考文献

小丸俊雄 1962「十二所村の近世資料(一)」『鎌倉』8号

下中邦彦 1984『日本歴史地名体系14 神奈川県地名』平凡社

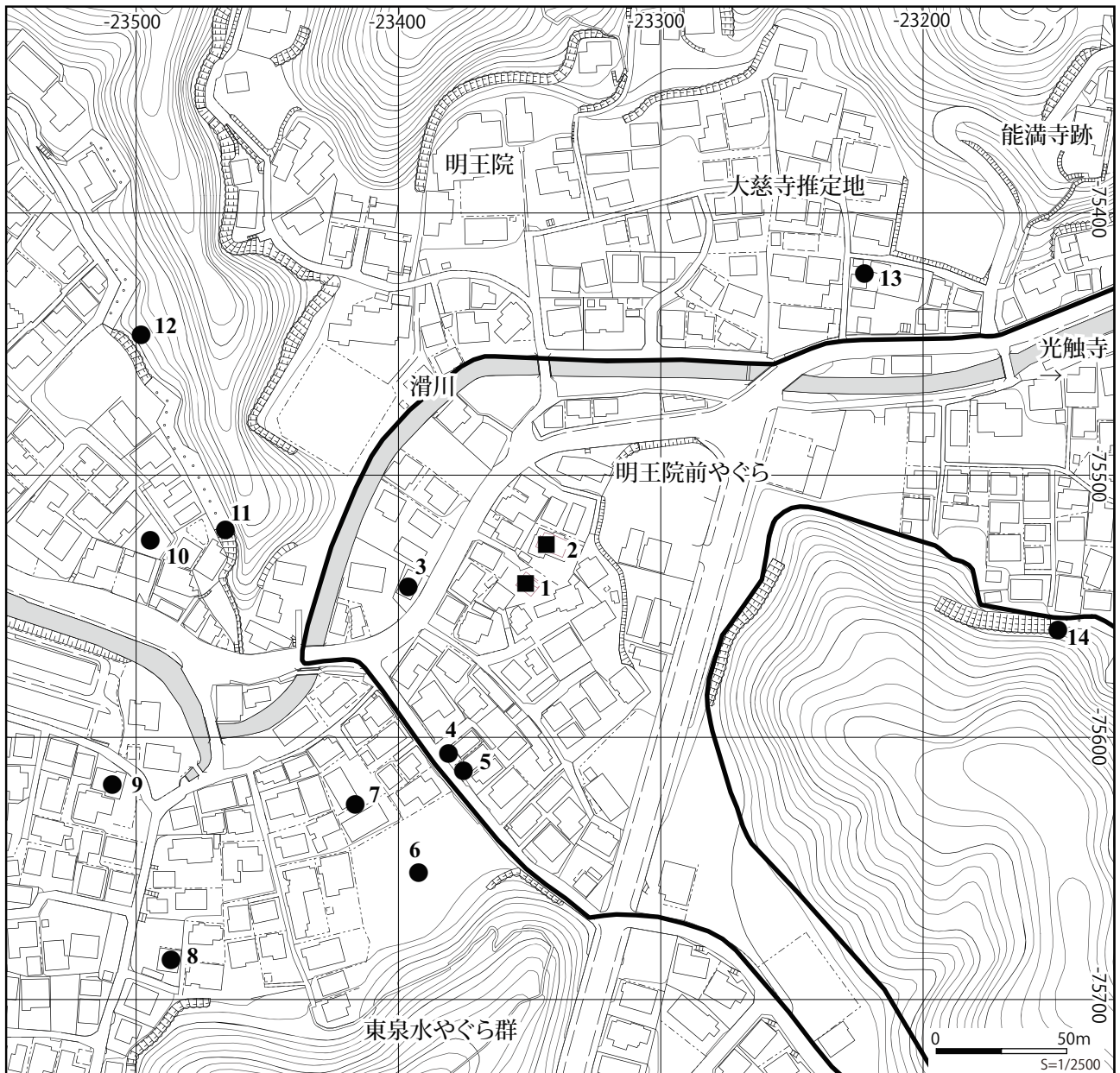
十二所文化部同人編 1980『十二所地誌新稿』十二所文化部同人

鈴木良昭 2016「異説・明王院五大堂考-創建とその所在位置をめぐって-」『鎌倉』121号

貫達人・川副武胤 1980『鎌倉廃寺事典』有隣堂

馬淵和雄 1994「武士の都鎌倉—その成立と構想をめぐって—」網野善彦・石井進編『中世の風景を読む2』新人物往来社

三浦勝男編 1992『鎌倉の古絵図1』鎌倉市教育委員会



No.	名称	住所	調査者	調査	刊行	文献
1	積善遺跡	十二所字積善 944 番 1、945 番 7、10	後藤	2015	2019	本報告
2	積善遺跡	十二所字積善 944 番 6、7、10	後藤	2016	2019	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』36
3	積善遺跡	十二所二ツ橋 4-3	原	2004	2011	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』27-1-
4	積善遺跡	十二所積善 952-8	原	1997	1999	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』15-1-
5	積善遺跡	十二所積善 952-6	原	1996	1998	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』14-2-
6	川越重頼邸跡	浄明寺五丁目 306 番イロ・309 番 6・7・310	齋木・降矢	2013		未報告
7	川越重頼邸跡	浄明寺五丁目 305 番イ外	齋木・降矢	2002	2006	『川越重頼邸跡』遺跡調査会 40 集
8	川越重頼邸跡	浄明寺五丁目 318 番 1 の一部	森	2009	2018	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』35-3-18
9	川越重頼邸跡	浄明寺五丁目 423 番 1 外	伊丹	2010	2018	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』35-1-4
10	公方屋敷跡	浄明寺 4-297-12 外				未報告
11	公方屋敷やぐら	浄明寺 271-1	田代	1988	1990	『昭和 63 年度鎌倉市内急傾斜地崩落対策事業に伴う発掘調査報告書』
12	公方屋敷やぐら	浄明寺 271-1	田代	1988	1990	『昭和 63 年度鎌倉市内急傾斜地崩落対策事業に伴う発掘調査報告書』
13	大慈寺跡・五大堂 明王院旧境内遺跡	十二所字二ツ橋 70 番 2 外 2 筆	土肥・土肥	2018	2019	『神奈川県鎌倉市 大慈寺・五大堂明王院旧境内遺跡』睦合文化財株式会社
14	明王院門前	十二所明石谷 922	田代・宗臺	1996	1998	『中世石窟遺構の調査 II』東国歴史考古学研究所

図 1 調査地点と周辺の遺跡

第2節 調査の方法と経緯

本発掘調査は個人住宅の建築築に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が実施した。建築計画では基礎工事として柱状改良工事を施すため、平成27年2月12日～13日かけて鎌倉市教育委員会が埋蔵文化財の確認調査を実施した。地表下2.0mまで掘削した結果、地表下40cmで中世遺構面が検出され、以下に地表下60cm、80cm、130cm、170cmでも中世遺構面と推定される堆積層の確認がなされた。複数の中世遺構面の存在が予測される結果を得たことから、建築計画実施に先立って本格的な発掘調査を実施する必要ありとの判断がなされた。

以上の手続きより、平成27年8月18日～11月12日の約3ヶ月をかけて現地での調査を実施した。

調査は重機による表土除去後、47㎡の調査区全体を掘り進める形での調査を行なった。作業を進めるなかで大きく6面におよぶ中世遺構面を確認することができた。遺構面についてはそれぞれ写真と図



図2 調査位置とグリッド配置図

面による記録を行い、順次掘り下げていった。地表下約 1.2m にて黄褐色粘質土となり、排水溝を 30cm ほど掘削したが、以下は断面観察の限り黒青色粘質土層が続き、遺物などの出土も確認できなくなった。そのため、この黒青色粘質土を中世基盤層と判断し、そこまでの掘削で留めた。次年度におこなった字積善 944 番 6、7、10 地点でも同様の状況を確認することができた。

第 3 節 堆積土層（図 3、4）

本調査地点では上述の通り大きく 6 面におよぶ中世の遺構面を確認した。基本となる土層の堆積状況を述べておく。

現地表面はおよそ海拔 22.05 ～ 22.15 m となる。表土は 15 ～ 20cm ほど堆積しており、それを取り除いた状態で遺構を確認した。全体としては残存状況が一様ではなく、相当部分が掘削されてしまっている箇所もあるが、遺構を検出したため第 1 面とした。

第 1 面は小粒の泥岩碎片を多く含む暗褐色粘質土の整地層である。生活面として取り扱う。海拔 21.69 ～ 21.85 m である。層厚は 5 ～ 10cm 程度である。

第 2 面は小粒の泥岩碎片を多く含む暗褐色粘質土の整地層であり、泥岩による強固な地業がなされている箇所もみられる。検出レベルはおよそ海拔 21.63 ～ 21.76 m である。層厚は 5cm 程となる。第 2 a 面は第 2 面の泥岩地業層を取り除いた面であり、残存範囲は調査区中央部から東の南半で、確認レベルはおよそ海拔約 21.63 ～ 21.74 m である。層厚は約 5cm である。

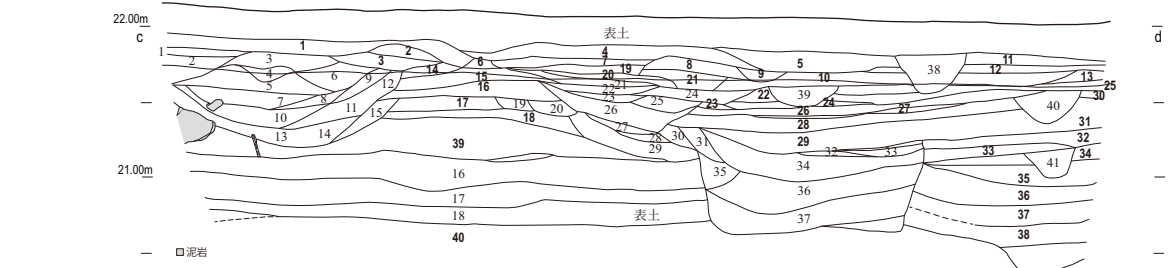
第 3 面は第 2 a 面を構成する泥岩塊や砂層を取り除いた状態で、およそ海拔 21.61 ～ 21.69 m である。西南部とそれ以外の土の差が明瞭であり、全体的に炭化物が多く混入した層となる。西南部は黄褐色土によって構成されており、判断が難しいが下層での発掘状況などを勘案し、第 4 面に属すると判断した。第 3 面については炭化物を多量に含む暗褐色粘質土が薄く堆積している状況が確認されたため、それぞれ第 3 a 面、第 3 b 面とした。第 3 a 面はほぼ炭化物で構成された層である。一部細かい破碎泥岩を面的に敷き詰めた個所が見られ、遺構面と判断した。検出レベルはおよそ海拔 21.54 ～ 21.62 m である。層厚は約 5cm である。第 3 b 面は上層部の破壊によってほぼ中央部のみ残存している。炭化物を多量に含んだ層であり、検出レベルはおよそ海拔 21.50 ～ 21.56 m である。層厚は 5cm 以下である。

第 4 面は、やや赤みを帯びる黄褐色土による整地層で、検出レベルは海拔 21.52 ～ 21.67 m である。基本的な土層に大きな差はないものの、玉砂利敷などが検出されたため、15cm ほど下の層を遺構面と認識し、第 4 a 面とした。およそ海拔 21.40 ～ 21.52 m である。赤味の強い黄褐色土によって地業されており、泥岩の碎片を多く含む。層厚は約 30cm となる。

第 5 面は黄褐色粘質土によって構成されるが、直上に破碎した泥岩を平面的にやや広くほどこした整地層である。検出レベルはおよそ海拔 21.14 ～ 21.22 m である。

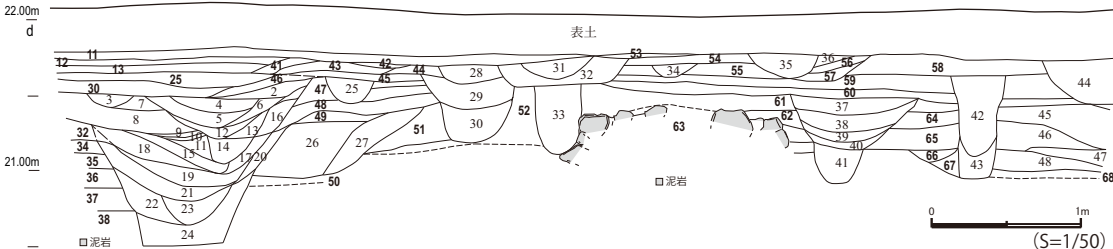
第 6 面はごく一部の検出で不明な点も多いが、第 5 面の泥岩下から井戸が検出されたこともあり、遺構面とした。海拔 20.9 m 程度の締まりがあり褐鉄を含む黄褐色粘質土層である。以下 20 ～ 30cm で黒色粘質土に変化するが、整地されたような堆積状況ではない。また第 6 面以下では中世遺物の出土も確認できなかったため、これを中世の基盤層と判断した。

以下に調査区四周の土層断面図を掲載しておく。土層断面では確認することができたが、平面的には不明瞭で確認できなかった遺構も存在している。



- 1 赤褐色粘質土 泥岩塊やや少。炭化物、かわらけ片少。
- 2 暗茶褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒少。炭化物、かわらけ片。
- 3 赤褐色粘質土 泥岩塊多し。炭化物、かわらけ片や少。
- 4 赤褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒塊や多し。炭化物、かわらけ片少。
- 5 黄褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒多し。炭化物、かわらけ片少。
- 6 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒多し。炭化物少、かわらけ片や多し。
- 7 暗褐色粘質土 泥岩塊多し。炭化物、かわらけ片少。
- 8 暗褐色粘質土 泥岩塊多し。炭化物少、かわらけ片や少。
- 9 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩塊や多し。炭化物、かわらけ片少。
- 10 赤褐色粘質土 泥岩粒塊多し。炭化物や少、かわらけ片や少。
- 11 暗褐色粘質土 泥岩粒多し。炭化物、かわらけ片少。
- 12 暗褐色粘質土 泥岩粒塊多し。炭化物少、かわらけ片や少。
- 13 暗褐色粘質土 泥岩塊や少。炭化物、かわらけ片。
- 14 暗褐色粘質土 縮まりやや弱い。泥岩塊や少。炭化物、かわらけ片。
- 15 黒褐色粘質土 縮まり弱い。炭層。泥岩粒少。炭化物多し、かわらけ片少。
- 16 黄褐色粘質土 泥岩塊層。
- 17 暗褐色粘質土 泥岩粒多し。炭化物少、かわらけ片や多し。
- 18 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩塊や多し。炭化物少、かわらけ片や少。
- 19 暗茶褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物多し。かわらけ片や多し。焼土粒。
- 20 暗褐色粘質土 泥岩塊多し。炭化物少かわらけ片少。
- 21 赤褐色粘質土 泥岩塊少。炭化物多し。かわらけ片少。
- 22 赤褐色粘質土 縮まり弱い。泥岩粒多し。炭化物多し。炭と茶色土ブロック。
- 23 黄褐色粘質土 泥岩塊少。炭化物少、かわらけ片や少。
- 24 暗褐色粘質土 泥岩粒や少。炭化物、かわらけ片少。
- 25 暗褐色粘質土 泥岩粒張床。かわらけ片。
- 26 暗茶褐色粘質土 縮まりやや弱い。泥岩粒少。炭化物、かわらけ片少。炭と茶色土ブロック。
- 27 黒褐色粘質土 縮まりなし。炭層。泥岩粒少。炭化物多し、かわらけ片少。
- 28 黒褐色粘質土 縮まりなし。粘着炭層。泥岩粒少。炭化物多し。(土壌資料庫 59)
- 29 暗褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物や少。かわらけ片少。
- 30 暗褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物、かわらけ片。
- 31 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭層。泥岩粒少。炭化物多し。
- 32 黒褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩塊や多し。炭化物、かわらけ片少。
- 33 暗褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭層。泥岩塊や多し。炭化物少、かわらけ片や多し。
- 34 暗褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭化物少、かわらけ片。
- 35 黄褐色粘質土 砂岩片少。炭化物少、かわらけ片や少。
- 36 黄赤褐色粘質土 砂岩片少。炭化物少。
- 37 黄褐色粘質土 泥岩大型粒多し(土壌資料庫 79)。
- 38 青灰色粘質土 縮まり弱い。
- 39 暗褐色粘質土 縮まりややあり。粘着炭層。炭化物多し、かわらけ片や少。褐鉄多し。
- 40 青灰色粘質土

- 遺構
- 1 暗褐色粘質土 泥岩塊少。炭化物や多し、かわらけ片少。遺構 35。
- 2 赤褐色粘質土 泥岩塊多し。炭化物や少、かわらけ片少。遺構 35。
- 3 赤褐色粘質土 泥岩粒塊多し。炭化物少、かわらけ片や多し。遺構 35。
- 4 暗褐色粘質土 粘性なし。砂層。遺構 70。
- 5 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩層。炭化物や少、かわらけ片少。遺構 70。
- 6 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒塊少。炭化物多し、かわらけ片や少。遺構 70。
- 7 黒褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩層。炭化物多し、かわらけ片や多し。炭層。遺構 70。
- 8 暗褐色粘質土 泥岩塊少。炭化物多し、かわらけ片少。遺構 70。
- 9 黒褐色粘質土 泥岩塊や多し。炭化物、かわらけ片。遺構 70。
- 10 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。泥岩塊多し。炭化物多し、かわらけ片や多し。遺構 70。
- 11 黒褐色粘質土 縮まり弱い。泥岩塊少。炭化物、かわらけ片。遺構 70。
- 12 暗茶褐色粘質土 炭化物、かわらけ片。遺構 70。
- 13 暗褐色粘質土 縮まりなし。泥岩塊少。砂岩塊少。炭化物多し、かわらけ片少。遺構 184。
- 14 暗褐色粘質土 縮まり弱い。炭化物、かわらけ片。遺構 184。
- 15 黒褐色粘質土 縮まりややあり。炭化物、かわらけ片。遺構 184。
- 16 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒少。炭化物や多し、かわらけ片少。褐鉄多し。遺構 213。
- 17 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒塊少。炭化物多し、かわらけ片少。褐鉄多し。遺構 213。
- 18 暗褐色粘質土 縮まり弱い。泥岩塊多し。炭化物少。遺構 213。
- 19 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩層。炭化物多し、かわらけ片少。
- 20 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭層。泥岩粒少。炭化物多し、かわらけ片や多し。遺構 122。
- 21 黄褐色粘質土 泥岩塊や少。炭化物や多し、かわらけ片や少。遺構 103。
- 22 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。泥岩粒少。炭化物多し、かわらけ片や多し。遺構 103。
- 23 暗褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭化物多し、かわらけ片少。遺構 103。
- 24 暗褐色粘質土 泥岩粒塊少。炭化物、かわらけ片少。遺構 103。
- 25 黄褐色粘質土 縮まりややあり。炭化物多し。茶色土ブロック。遺構 103。
- 26 暗褐色粘質土 炭層。炭化物多し。遺構 103。
- 27 黒褐色粘質土 炭層。炭化物多し、かわらけ片少。遺構 103。
- 28 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭層。泥岩粒少。炭化物多し。遺構 181。
- 29 暗褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭化物や少。褐鉄多し。遺構 181。
- 30 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭層。泥岩粒。炭化物多し、かわらけ片少。遺構 180。
- 31 黒褐色粘質土 縮まりなし。粘着炭層。泥岩粒。炭化物、かわらけ片多し。遺構 183。
- 32 黒褐色粘質土 縮まりなし。泥岩。遺構 183。
- 33 暗褐色粘質土 縮まりなし。粘着炭層。炭化物多し。遺構 183。
- 34 黒褐色粘質土 縮まりなし。粘着炭層。炭化物多し、かわらけ片少。遺構 183。
- 35 黒褐色粘質土 縮まりなし。粘着炭層。炭化物多し、かわらけ片や少。遺構 183。
- 36 黒褐色粘質土 縮まりなし。粘着炭層。泥岩粒。炭化物多し、かわらけ片少。遺構 183。
- 37 青灰色粘質土 縮まりやや弱い。かわらけ片。遺構 183。
- 38 暗褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物少、かわらけ片や少。遺構 7。
- 39 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒や少。炭化物や多し、かわらけ片少。遺構 99。
- 40 暗褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物、かわらけ片少。遺構 64。
- 41 暗褐色粘質土 縮まり弱い。炭化物多し。遺構 165。



- 41 暗褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物、かわらけ片少。
- 42 暗褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物、かわらけ片少。
- 43 暗茶褐色粘質土 泥岩粒塊や多し。炭化物、かわらけ片少。
- 44 暗褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物、かわらけ片少。
- 45 暗褐色粘質土 泥岩塊少。炭化物少、かわらけ片。
- 46 暗褐色粘質土 泥岩粒塊少。炭化物、かわらけ片少。
- 47 黒褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩塊多し。炭化物少。
- 48 黒褐色粘質土 縮まりややあり。砂岩粒。炭化物や多し、かわらけ片少。
- 49 暗褐色粘質土 縮まりややあり。砂岩粒や多し。炭化物、かわらけ片少。
- 50 赤褐色粘質土 泥岩粒少。褐鉄多し。
- 51 暗褐色粘質土 縮まりややあり。砂岩粒や少。炭化物多し。褐鉄多し。
- 52 黄褐色粘質土 砂岩粒多し。炭化物や少。
- 53 暗茶褐色粘質土 縮まりやや弱い。泥岩塊。炭化物多し。
- 54 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭層。泥岩粒少。炭化物や多し、かわらけ片少。
- 55 暗褐色粘質土 泥岩粒塊少。炭化物、かわらけ片や少。
- 56 暗褐色粘質土 粘着炭層。泥岩塊多し。
- 57 黒褐色粘質土 粘着炭層。炭化物や多し。
- 58 暗褐色粘質土 泥岩塊多し。炭化物少。
- 59 暗褐色粘質土 泥岩塊多し。炭化物や少。
- 60 暗褐色粘質土 泥岩粒。炭化物少。
- 61 赤褐色粘質土 砂岩片多し。炭化物少。
- 62 赤褐色粘質土 砂岩片多し。炭化物や少。
- 63 赤褐色粘質土 砂岩粒多し。炭化物少。
- 64 暗赤褐色粘質土 泥岩粒塊や多し。炭化物多し。
- 65 暗褐色粘質土 縮まりやや弱い。砂岩片少。炭化物少。
- 66 暗赤褐色粘質土 縮まりややあり。砂岩片や多し。炭化物少。
- 67 暗赤褐色粘質土 砂岩片や多し。炭化物や多し。
- 68 暗赤褐色粘質土 縮まり弱い。砂岩片。炭化物多し、かわらけ片。褐鉄。

- 遺構
- 1 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩塊少。炭化物、かわらけ片や多し。
- 2 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒や多し。炭化物、かわらけ片少。
- 3 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩塊多し。炭化物少。
- 4 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒少。炭化物少。
- 5 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物少。
- 6 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物や少。
- 7 暗褐色粘質土 縮まり弱い。炭層。泥岩塊少。炭化物や多し、かわらけ片少。
- 8 黒褐色粘質土 縮まり弱い。炭層。泥岩塊や少。炭化物、や多し。
- 9 暗茶褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭層。炭化物や少、かわらけ片少。
- 10 黒褐色粘質土 縮まり弱い。炭層。炭化物多し。
- 11 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物多し。茶色土ブロック。
- 12 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物少。茶色土ブロック。
- 13 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物多し。
- 14 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物多し。
- 15 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物多し。茶色土ブロック。
- 16 黒褐色粘質土 縮まりややあり。炭層。炭化物多し。茶色土ブロック。
- 17 暗褐色粘質土 縮まりややあり。炭層。炭化物少。
- 18 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物多し。茶色土ブロック。
- 19 暗褐色粘質土 縮まりややあり。炭層。泥岩、砂岩片。炭化物多し、かわらけ片少。茶色土ブロック。
- 20 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物多し。
- 21 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物多し。
- 22 暗褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物少。炭化物多し、かわらけ片少。
- 23 黒褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物多し(土壌資料庫 30)。
- 24 黒褐色粘質土 縮まりなし。炭層。炭化物多し、かわらけ片少。
- 25 黒褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩塊多し。炭化物少。遺構 92。
- 26 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒少。炭化物、かわらけ片少。遺構 213。
- 27 暗褐色粘質土 縮まりやや弱い。泥岩粒塊や多し。炭化物、かわらけ片少。褐鉄や多し。遺構 213。
- 28 暗茶褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物、かわらけ片や少。遺構 152。
- 29 暗褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩塊や多し。炭化物多し、かわらけ片少。遺構 175。
- 30 黒褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩塊多し。炭化物や多し。遺構 151。
- 31 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。泥岩粒少。炭化物や多し。遺構 13。
- 32 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。泥岩粒。炭化物や多し。遺構 150。
- 33 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。炭層。泥岩層。炭化物、かわらけ片や多し。遺構 204。
- 34 黒褐色粘質土 縮まりやや弱い。泥岩粒。炭化物、かわらけ片少。遺構 139。
- 35 黒褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物多し、かわらけ片少(土壌資料庫 60)。遺構 10。
- 36 黒褐色粘質土 炭化物多し。
- 37 赤褐色粘質土 泥岩塊や少。炭化物、かわらけ片少。褐鉄や多し。
- 38 赤褐色粘質土 泥岩塊少。炭化物や少、かわらけ片少。褐鉄や多し。
- 39 赤褐色粘質土 縮まりややあり。泥岩粒少。炭化物、かわらけ片少。
- 40 暗赤褐色粘質土 泥岩粒少。砂岩片や多し。炭化物多し、かわらけ片や多し。
- 41 黒褐色粘質土 縮まりなし。砂岩粒大。炭化物多し、かわらけ片少。遺構 221。
- 42 暗褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物や少。遺構 11。
- 43 暗褐色粘質土 縮まりややあり。砂岩片多し。炭化物や少。
- 44 暗褐色粘質土 泥岩粒少。炭化物や多し、かわらけ片少。遺構 14。
- 45 暗褐色粘質土 泥岩粒や多し。炭化物や多し、かわらけ片少。
- 46 暗赤褐色粘質土 泥岩粒塊や多し。炭化物多し。
- 47 暗赤褐色粘質土 砂岩片や多し。炭化物や多し。
- 48 暗赤褐色粘質土 縮まり弱い。砂岩片や多し。炭化物や多し。

図4 調査区東、南壁セクション図

第二章 発見された遺構と遺物

第1節 第1面の遺構・遺物

第1面はおよそ海拔 21.69 ～ 21.85 mである。近現代の削平により良好に残存しているわけではないが、泥岩地業の存在などより中世遺構面として取り扱う。遺構はピット 11 穴・土坑 2 基、溝 1 条である。掘立柱建物址のプランなどは明確にはしえない。第1面で発見した遺構は、遺構の切り合いから時期差は認められない。

遺物は、かわらけ・青磁・白磁・常滑・瀬戸・備前・火鉢・石製品・銅銭・鉄製品・自然遺物が出土している。

遺構	色覆土	レ上端 レベル	最上端 最大径	レ底面 レベル	遺構	色覆土	レ上端 レベル	最上端 最大径	レ底面 レベル	遺構	色覆土	レ上端 レベル	最上端 最大径	レ底面 レベル	遺構	色覆土	レ上端 レベル	最上端 最大径	レ底面 レベル
1	暗黄褐色	21.83	0.36	21.81	6	暗黄褐色	21.73	0.32	21.66	11	暗褐色	21.73	0.38	21.52	近	暗褐色	21.86	0.50	21.70
2	暗褐色	21.86	0.29	21.82	7	暗褐色	21.70	0.29	21.57	12	黒褐色	21.86	0.90	21.76	近	暗褐色	21.85	0.45	21.72
3	黒褐色	21.80	0.33	21.57	8	暗褐色	21.66	0.34	21.63	13	黄褐色	21.72	0.69	21.56	近	暗褐色	21.85	0.32	21.72
4	暗黄褐色	21.73	0.53	21.64	9	暗褐色	21.71	0.49	21.62	14	暗褐色	21.78	1.93	21.48	近	暗褐色	21.85	0.61	21.52
5	暗褐色	21.67	0.34	21.61	10	黒褐色	21.76	0.38	21.53	近	暗褐色	21.87	0.47	21.72					

ピット

調査区南東部に数基のピットが集中するが、建物のプランなどは不明である。ピットの覆土は基本的に暗褐色粘質土で、粘性、締まりとも強い。泥岩粒はやや多く含まれ、炭化物やかわらけ片などの混入は少ない。

遺構 10 (図 5)

楕円形を呈するピット。遺構覆土：黒褐色粘質土。粘性あり。締りややあり。泥岩 1cm 以下やや多い。炭化物、かわらけ片少。出土遺物 (図 7)：1 は鉄釘。

土坑

検出したのは 2 基のみで、規模もさほど大きなものではない。

遺構 12 (図 5)

細長い形態を呈する土坑。北側は試掘坑によって削平。遺構覆土：黒褐色粘質土。粘性あり。締りややあり。泥岩粒やや多い。炭化物、かわらけ片少。

遺構 13 (図 5)

隅丸方形を呈するピット。遺構覆土：黄褐色。粘質土。粘性あり。締りややあり。泥岩粒多い。炭化物ほぼなし。出土遺物 (図 7)：2 はかわらけ。

溝

調査区西側で 1 条検出されている。

遺構 14 (図 5、6)

北東から南西方向にかけて走る溝。上部はやや削平されている可能性あり。遺構覆土：暗褐色粘質土。粘性、締りあり。泥岩粒やや普通。炭化物少。かわらけ片細粒含む。底部は黒色粘質土に泥岩塊を含み、

かわらけ多い。出土遺物（図7）：3～4は瀬戸で、3は碗形鉢、4は挿鉢か。5～6は常滑片口鉢Ⅱ類。7～8は瓦質火鉢。9は砥石。10～11は基石か。12は鉄釘。13は銅銭。14は土器質火鉢で溝の底面直上より出土。

1面遺構外出土遺物（図7）

1面の遺構面精査時に面上で検出した遺物。15はかわらけ。16は瀬戸の縁釉小皿。

1面構成土出土遺物（図7）

1面より2面検出までの間の堆積より出土した遺物。17～20はかわらけ。21は鉄製の掛金か。

近代遺構

1面西北部には隅丸方形をなす坑が数基検出。泥岩で底部を固めるような構造をとる例もあった。骨片が出土しており、近現代の墓壙と推定される。

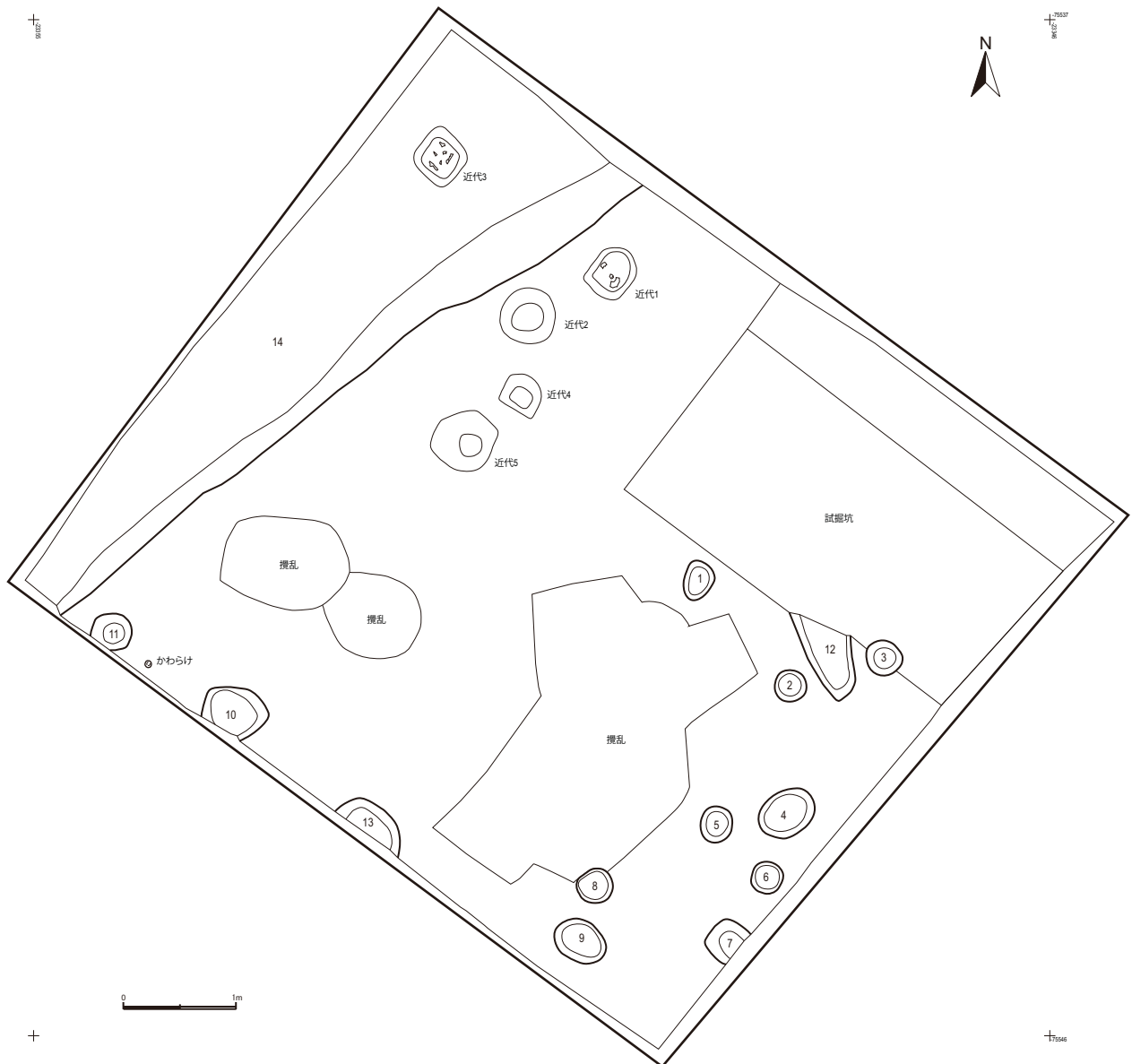
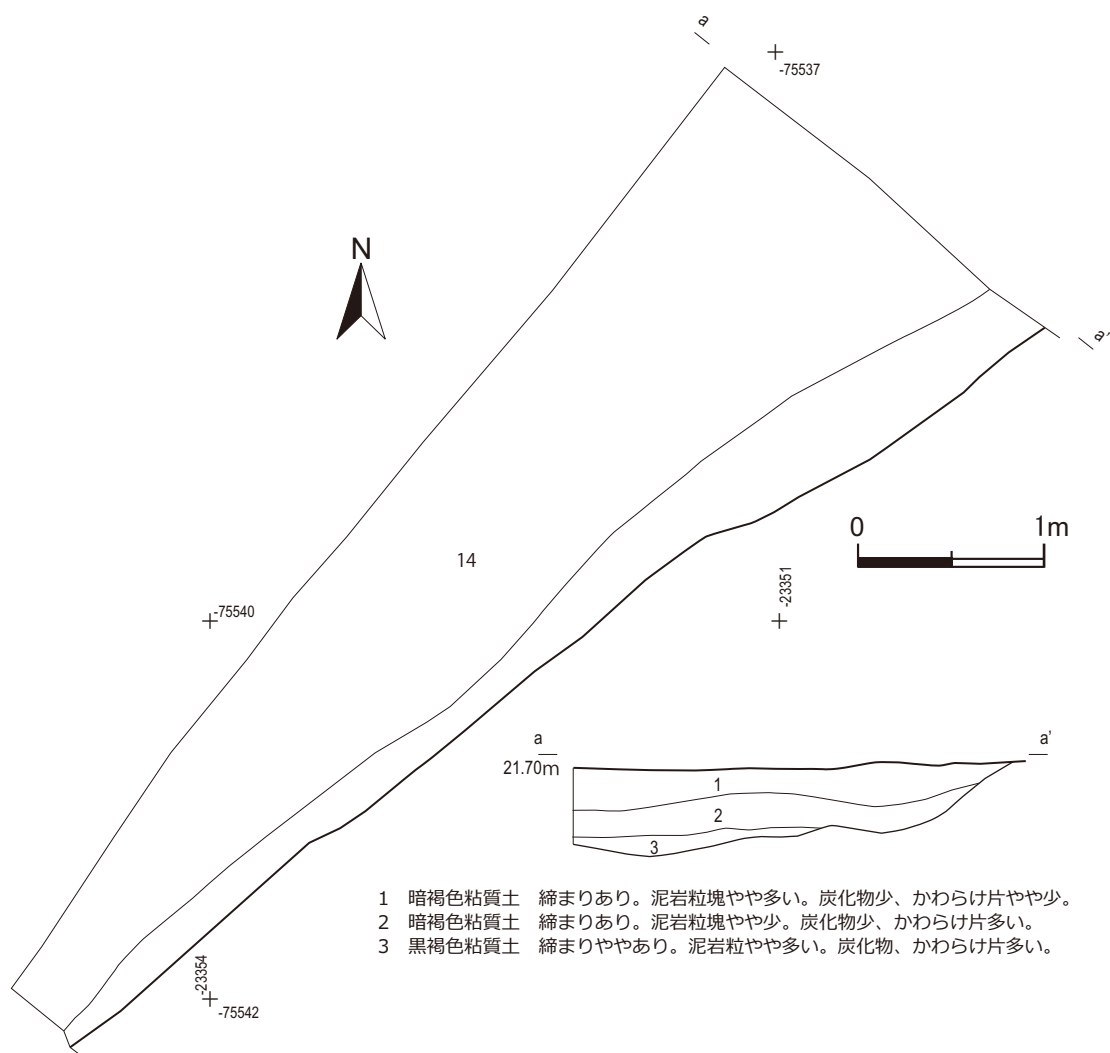


図5 第1面全体図（S=1/60）

近代遺構 1 暗褐色粘質土。粘性、縮りあり。泥岩ほぼなし。人骨片混入か。

近代遺構 2 暗褐色粘質土。粘性、縮りあり。泥岩やや多い。炭化物少。かわらけ片やや多い。



- 1 暗褐色粘質土 締まりあり。泥岩粒塊やや多い。炭化物少、かわらけ片やや少。
- 2 暗褐色粘質土 締まりあり。泥岩粒塊やや少。炭化物少、かわらけ片多い。
- 3 黒褐色粘質土 締まりややあり。泥岩粒やや多い。炭化物、かわらけ片多い。

図6 第1面遺構14

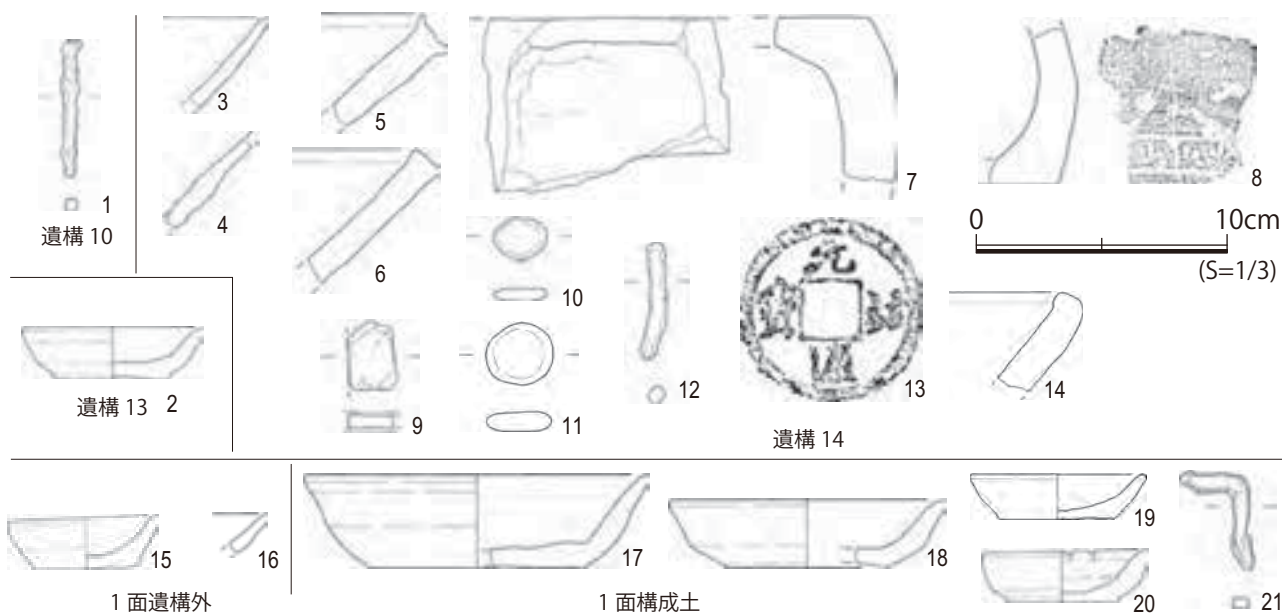


図7 第1面出土遺物

- 近代遺構 3 暗褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。罫子出土。人骨片混入か。
- 近代遺構 4 暗褐色粘質土。粘性、縮りあり。泥岩やや多い。炭化物少。かわらけ片やや多い。
- 近代遺構 5 暗褐色粘質土。粘性、縮りあり。泥岩粒少。炭化物、かわらけ片少。

第2節 第2面の遺構・遺物

第2面はおよそ海拔21.63～21.76mである。遺構はピット20穴・土坑6基である。掘立柱建物址などのプランは不明瞭である。遺構の切りあいより第2面で発見した遺構は、少なくとも2時期の時間差があると考えられる。調査区西側は1面の溝により削平されている。中央より北はかなり強固な泥岩による地業がほどこされている。下の面では北部に溝があり、それを埋めて整地するために地面を新しく構築し直したと想定される。東北隅からは安山岩が1点検出され礎石の可能性もある。南側はやや削平

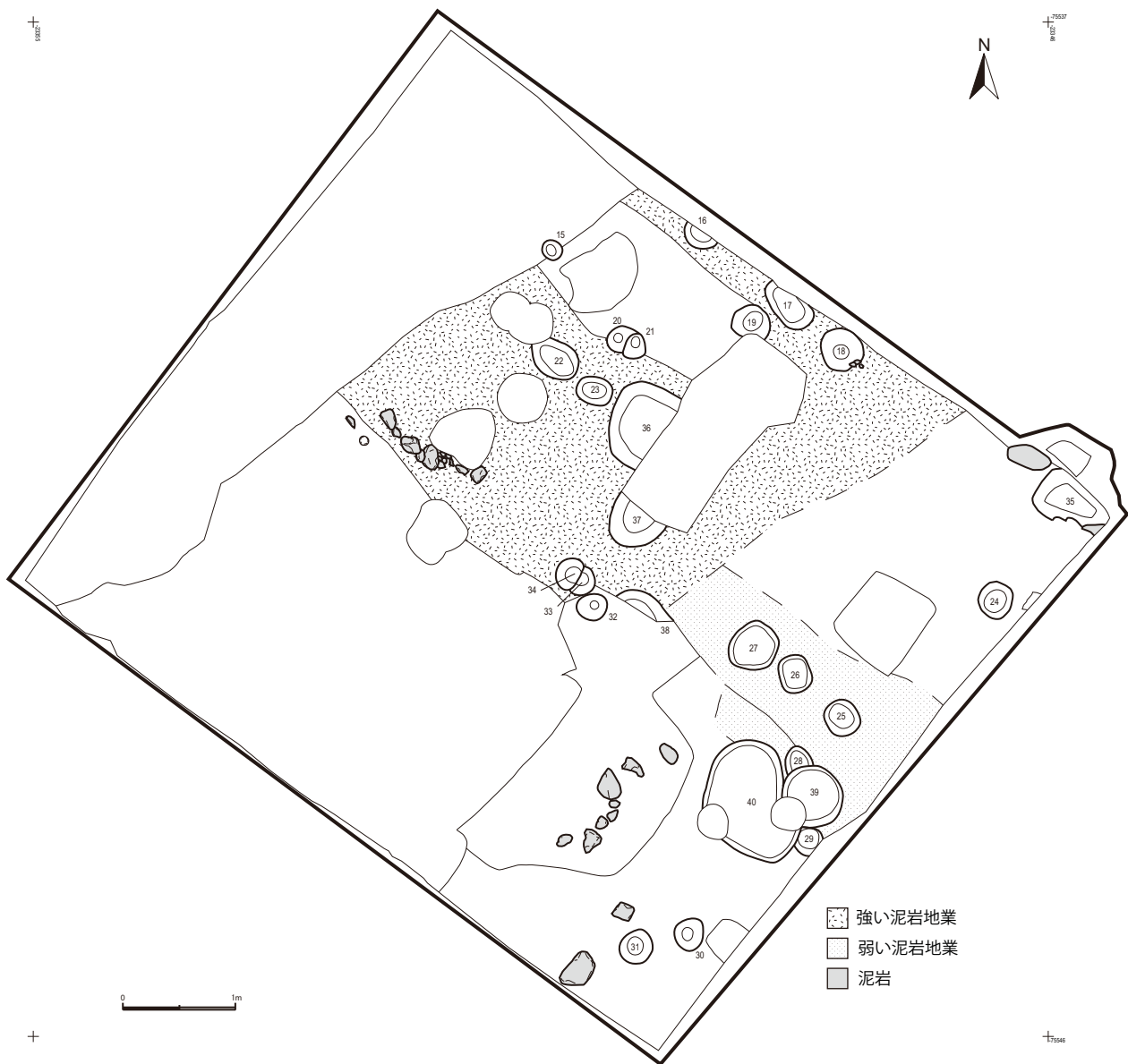


図8 第2面全体図 (S=1/60)

を受けている可能性もあるが、総じて泥岩の地業は強くなく、南に向かってやや下がっているようである。西南部は土の状況が異なり、赤褐色粘質土を基本とする。下層の調査状況より、この箇所は第4面とした。したがって遺構の詳細は第4面で詳述する。

遺物は、かわらけ・手づくねかわらけ・青磁・常滑・瀬戸・瓦器・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・銅銭が出土している。

遺構	色調	覆土	レベル	上端	最大	上端	レベル	底面
15	暗褐色		21.71	0.19		21.56		
16	黒褐色		21.82	0.31		21.71		
17	黒褐色		21.82	0.51		21.65		
18	暗褐色		21.79	0.39		21.55		
19	赤褐色		21.80	0.35		21.63		
20	赤褐色		21.81	0.25		21.72		
21	赤褐色		21.83	0.24		21.70		
22	暗褐色		21.80	0.44		21.61		
23	暗褐色		21.83	0.32		21.76		
24	暗褐色		21.66	0.32		21.60		
25			21.76	0.33		21.68		
26	暗褐色		21.46	0.33		21.71		
27	暗褐色		21.79	0.47		21.71		
28	黒褐色		21.74	0.20		21.69		
29	暗褐色		21.68	0.25		21.64		
30	暗褐色		21.66	0.31		21.55		
31	暗褐色		21.65	0.32		21.55		
32	暗褐色		21.66	0.27		21.46		
33	暗褐色		21.73	0.27		21.64		
34	暗褐色		21.80	0.30		21.72		
35	暗褐色		21.72	0.67		21.53		
36	黒褐色		21.81	0.74		21.63		
37	黒褐色		21.82	0.36		21.69		
38	暗褐色		21.78	0.56		21.66		
39	黒褐色		21.77	0.55		21.66		
40	黒褐色		21.69	1.13		21.65		

ピット

やや小規模なものが主体。建物のプランなどは不明瞭。平面円形または楕円形を呈する。覆土は基本的に暗褐色粘質土で粘性、締まりあり。泥岩粒、炭化物、かわらけ碎片などは少ない。遺構 20、21 の覆土は赤褐色粘質土で色調が他の覆土とは異なっている。

遺構 24 (図 8)

円形を呈するピット。遺構覆土:暗褐色粘質土。粘性あり。締りやや弱い。泥岩 1cm 粒少。炭化物少。かわらけ片少。ざらざらな感じ。出土遺物 (図 9): 1 はかわらけ。

遺構 29 (図 8)

円形を呈するピット。遺構覆土:暗褐色粘質土。粘性あり。締りややあり。泥岩粒やや多い。炭化物、かわらけ片少。焼土ブロック含む。

土坑

数は少なく、やや小規模なものがほとんどである。覆土は基本的に黒褐色粘質土で、締まりはやや弱い。泥岩粒は多めに含み、炭化物やかわらけ片は少量。

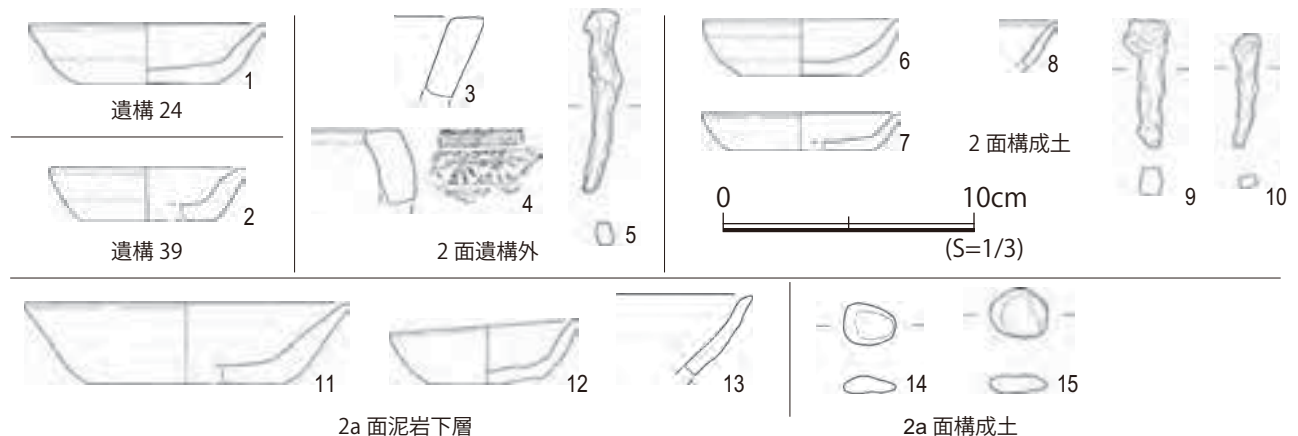


図 9 第 2、2a 面出土遺物

遺構 39 (図 8)

円形を呈する土坑。遺構覆土：黒褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。泥岩粒、泥岩塊含む。炭化物やや少。かわらけ片やや多い。遺構 28 を切る。出土遺物 (図 9) : 2 はかわらけ。

2面遺構外出土遺物 (図 9)

2面の遺構面精査時に面上で検出した遺物。3～4は瓦質火鉢。5は鉄釘。

2面構成土出土遺物 (図 9)

2面より2a面検出までの間の堆積より出土した遺物。6～7はかわらけ。8は白磁口兀皿。9～10は鉄釘。

第3節 第2a面の遺構・遺物

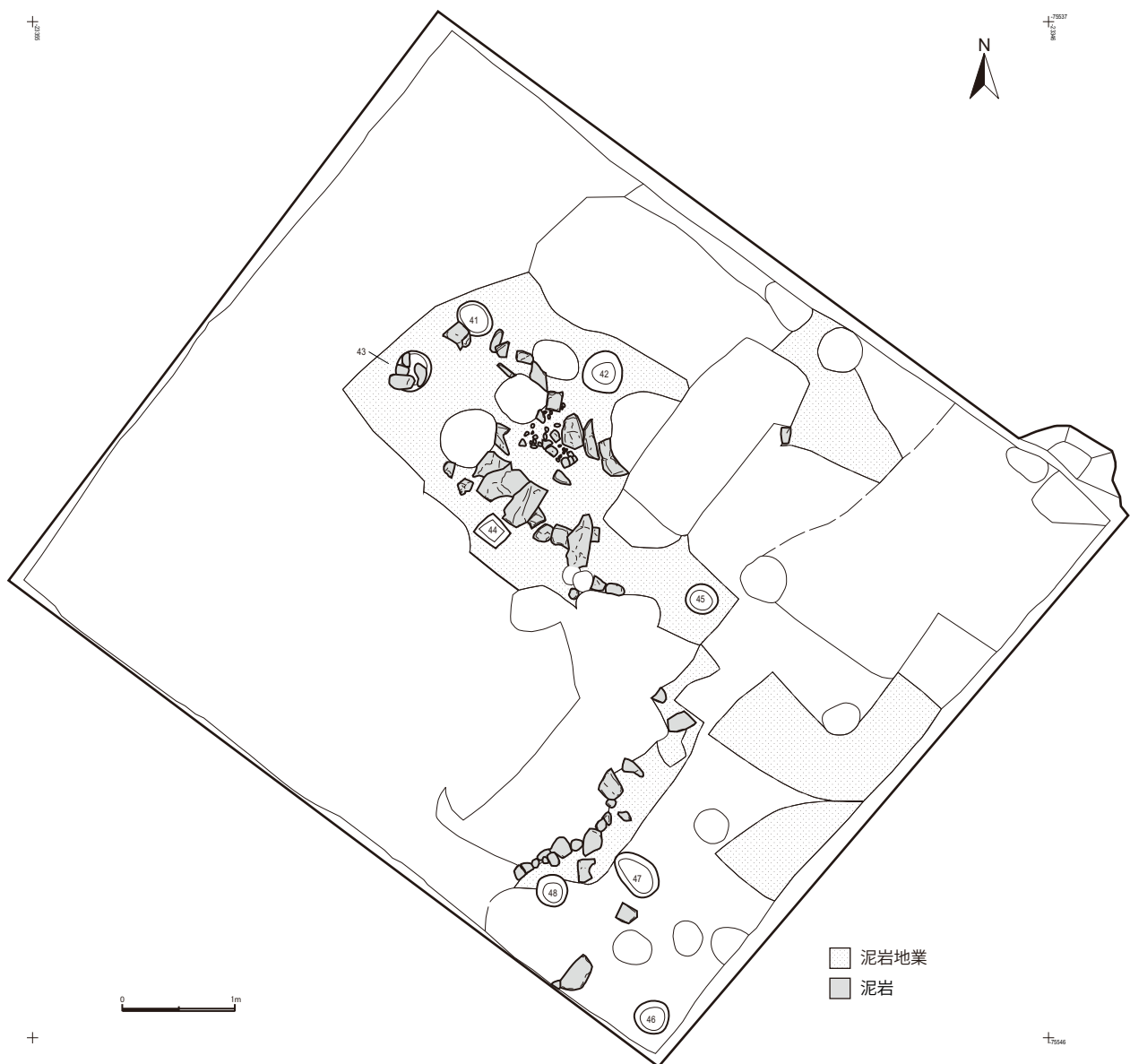


図 10 第2a面全体図 (S=1/60)

第2a面は第2面の泥岩地業層を取り除いた面であり、残存範囲は調査区中央部から東の南半で、他は試掘坑や上面からの破壊により残存していない（図10）。海拔約21.63～21.74mである。中央部は大型の泥岩塊が列状に並行して2条配されているようにも見えるが、構造物としては明瞭ではない。東側は小型の泥岩塊をまばらに敷き詰めているが、さほど強固ではない。遺構はピット8穴を確認したのみである。建物址の存在が推定できるが明確なプランは確認できていない。

遺物は、かわらけ・青磁・白磁・青白磁・常滑・瀬戸・瓦器・火鉢・鉄製品・石製品・自然遺物が出土している。

遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル	遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル	遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル	遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル
41	暗褐色	21.74	0.33	21.65	43	暗茶褐色	21.73	0.36	-	45	茶褐色	21.77	0.28	21.69	47	暗褐色	21.63	0.47	21.53
42	暗褐色	21.75	0.34	21.62	44	赤褐色	21.78	0.27	21.60	46	暗褐色	21.68	0.30	21.61	48	暗褐色	21.65	0.28	21.58

ピット

遺構41が方形のほかは、ほとんどが円形を呈する。覆土は暗褐色粘質土が主で、締まりはやや強い。泥岩粒、炭化物、かわらけ片いずれも少量を含む。遺構からは図示可能な遺物は出土せず。

2a面遺構外出土遺物（図9）

2面の遺構面精査時に面上で検出した遺物。11～12はかわらけ。13は瀬戸の碗形鉢。

2a面構成土出土遺物（図9）

2a面より3面検出までの間の堆積より出土した遺物。14～15は基石。

第4節 第3面の遺構・遺物

第3面は第2a面までの泥岩塊を取り除いた状態で、およそ海拔21.61～21.67mである。西南部とそれ以外の土の差が明瞭であり、全体的に炭化物が多めに混じった軽微な泥岩地業土となる。遺構はピット17穴・土坑4基、溝1条である。掘立柱建物址などの明確なプランは復元できなかった。遺構の切りあいより第3面で発見した遺構は、少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

遺物は、かわらけ・白かわらけ・青磁・白磁・常滑・瀬戸・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・銅銭・自然遺物が出土している。

遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル	遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル	遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル	遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル
49	暗褐色	21.58	0.35	21.35	55	暗褐色	21.69	0.35	21.61	61	暗褐色	21.73	0.26	21.68	67	黒褐色	21.67	0.27	21.65
50	黒褐色	21.53	0.28	21.50	56	暗褐色	21.70	0.35	21.62	62	暗褐色	21.72	0.31	21.59	68	黒褐色	21.69	0.78	21.63
51	暗褐色	21.55	0.31	21.45	57	暗褐色	21.69	0.33	21.66	63	暗茶褐色	21.65	0.28	21.57	69	暗褐色	21.69	0.27	21.64
52	暗褐色	21.68	0.32	21.61	58	暗褐色	21.71	0.25	21.65	64	暗褐色	21.62	0.28	21.58	70	暗黄褐色	21.68	幅0.98	21.39
53	暗褐色	21.69	0.25	21.65	59	暗褐色	21.71	0.28	21.67	65	暗褐色	21.61	0.32	21.52					
54	暗褐色	21.65	0.31	21.48	60	暗褐色	21.71	0.32	21.67	66	黒褐色	21.71	0.53	21.67					

ピット

中央部に比較的集中している。溝の覆土にも数穴ピットが検出されており、最終的には溝を埋めたあとにそこに何らかの建物を立てたと思われる。遺構のプランは不明。ピットの覆土は基本的にほぼ共通し、暗褐色粘質土で締まりはややある。泥岩粒、かわらけ片の混入は少なく、炭化物がやや多い。



図 11 第 3 面全体図 (S=1/60)

遺構 52 (図 11)

隅丸方形を呈するピット。遺構覆土：暗褐色粘質土。粘性あり。締りややあり。泥岩粒、炭化物、かわらけ片いずれも少量含む。出土遺物 (図 13)：1 は瓦質火鉢。

土坑

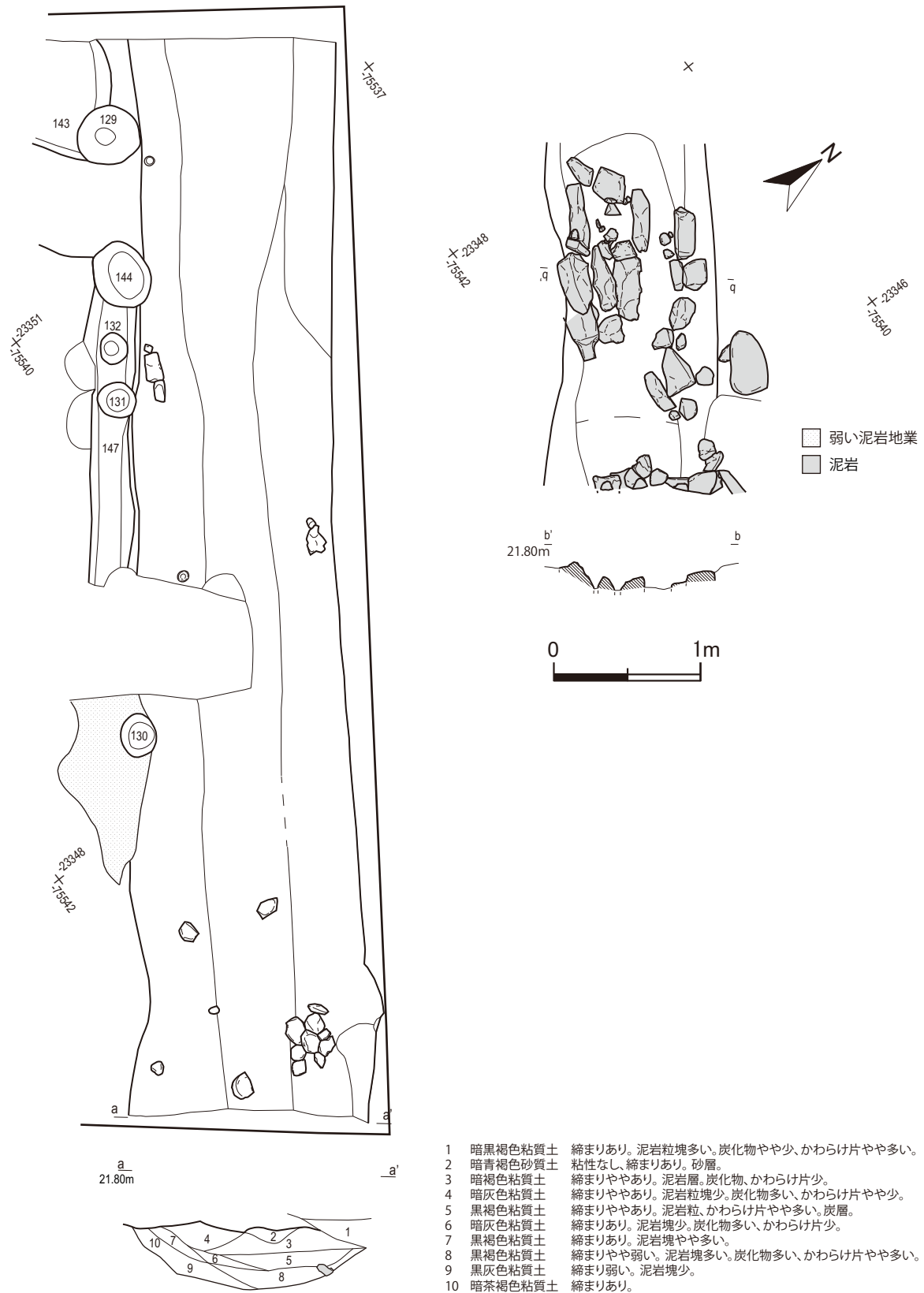
中央部に 4 基のみ検出。およそ隅丸方形を呈すると思われる。覆土は黒褐色粘質土が基本で締まりはあり。泥岩粒、かわらけ片はわずか。炭化物はやや多い。

遺構 68 (図 11)

隅丸方形を呈する土坑。遺構覆土：黒褐色粘質土。粘性、締りあり。泥岩、炭化物多く、かわらけ片少量含む。出土遺物 (図 13)：2 は瀬戸縁釉小皿。3～7 は銅銭。

溝状遺構

一条検出。やや幅のある断面逆台形を呈するやや大型の溝である。断面観察により下層にほぼ同じ位



- 1 暗黒褐色粘質土 締まりあり。泥岩粒塊多い。炭化物やや少、かわらけ片やや多い。
- 2 暗青褐色砂質土 粘性なし、締まりあり。砂層。
- 3 暗褐色粘質土 締まりややあり。泥岩層。炭化物、かわらけ片少。
- 4 暗灰色粘質土 締まりややあり。泥岩粒塊少。炭化物多い、かわらけ片やや少。
- 5 黒褐色粘質土 締まりややあり。泥岩粒、かわらけ片やや多い。炭層。
- 6 暗灰色粘質土 締まりあり。泥岩塊少。炭化物多い、かわらけ片少。
- 7 黒褐色粘質土 締まりあり。泥岩塊やや多い。
- 8 黒褐色粘質土 締まりやや弱い。泥岩塊多い。炭化物多い、かわらけ片やや多い。
- 9 黒灰色粘質土 締まり弱い。泥岩塊少。
- 10 暗茶褐色粘質土 締まりあり。

図 12 遺構 70 全体図 (S=1/60)

置に溝（遺構 184）があり、この溝はほぼ同じ位置に再度掘りなおしたものであることが確認された。
遺構 70（図 11、12）

調査区北側を西北—南東方向に走るやや規模の大きな溝。

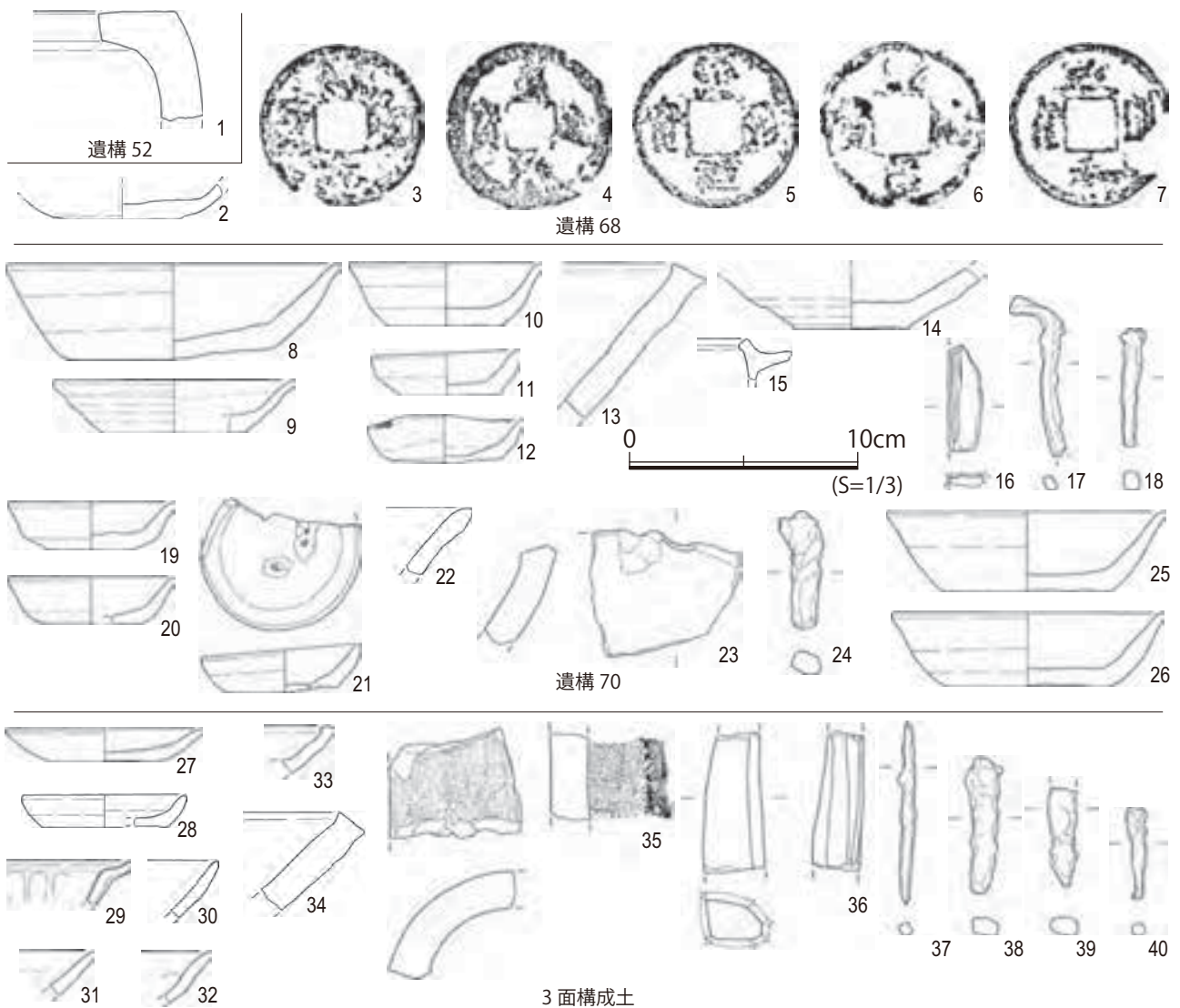


図 13 第 3 面出土遺物

遺構覆土：図 12 を参照。溝の廃棄の際に砂や大型の砂岩を多く入れ込み、最終的には泥岩を強固にはりつけた地業を施している（第 2 面）。覆土には炭化物が多く混入している。東側には板状の泥岩塊を比較的規則正しく並べた箇所が確認されたが、いかなる機能をもつ構造物かは不明である。

出土遺物(図 13): 8～9 は溝覆土上方より出土。8 はかわらけ。9 は瀬戸緑釉小皿。10～18 は覆土一括。10～12 はかわらけ。13 は常滑片口鉢Ⅱ類。14 は瀬戸の平碗か。15 は伊勢系の羽釜。16～18 は鉄釘。19～24 は下層出土。19～21 はかわらけ。21 は底面に穿孔あり。22 は常滑片口鉢Ⅰ類。23 は瓦質風炉。24 は鉄釘。25～26 はかわらけで溝の底面より出土。

3 面構成土出土遺物 (図 13)

3 面より 3 a 面検出までの間の堆積より出土した遺物。27～28 はかわらけ。29 は青磁折縁皿。30 は瀬戸平碗。31～32 は瀬戸緑釉小皿。33 は瀬戸卸皿。34 は常滑片口鉢Ⅱ類。35 は丸瓦。36 は砥石。37 は鉄製品で不明。38～40 は鉄釘。

第5節 第3a面の遺構と遺物

第3a面はおよそ海拔21.54～21.62mである。炭化物層を主体とした層で、西南部以外に広がる。遺構はピット22穴・土坑9基、溝2条である。掘立柱建物址の存在が推定できるが、北側は上面の溝の掘り込みで削平されているなど残存状況が良好ではなく、明確なプランは復元できなかった。遺構の切りあいより第3a面で発見した遺構は、少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

遺物は、かわらけ・青磁・常滑・瀬戸・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・羽口・銅銭・自然遺物が出土している。

ピット

楕円形や隅丸方形を呈する。覆土は暗褐色粘質土が大半であり、締まりはあり。泥岩粒、炭化物を多くふくみ、かわらけ片は少量である（遺構71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、84、91）。炭化物を多く含む黒褐色粘質土を覆土とするピットも少数（遺構86、92）。泥岩をわずかに含む。

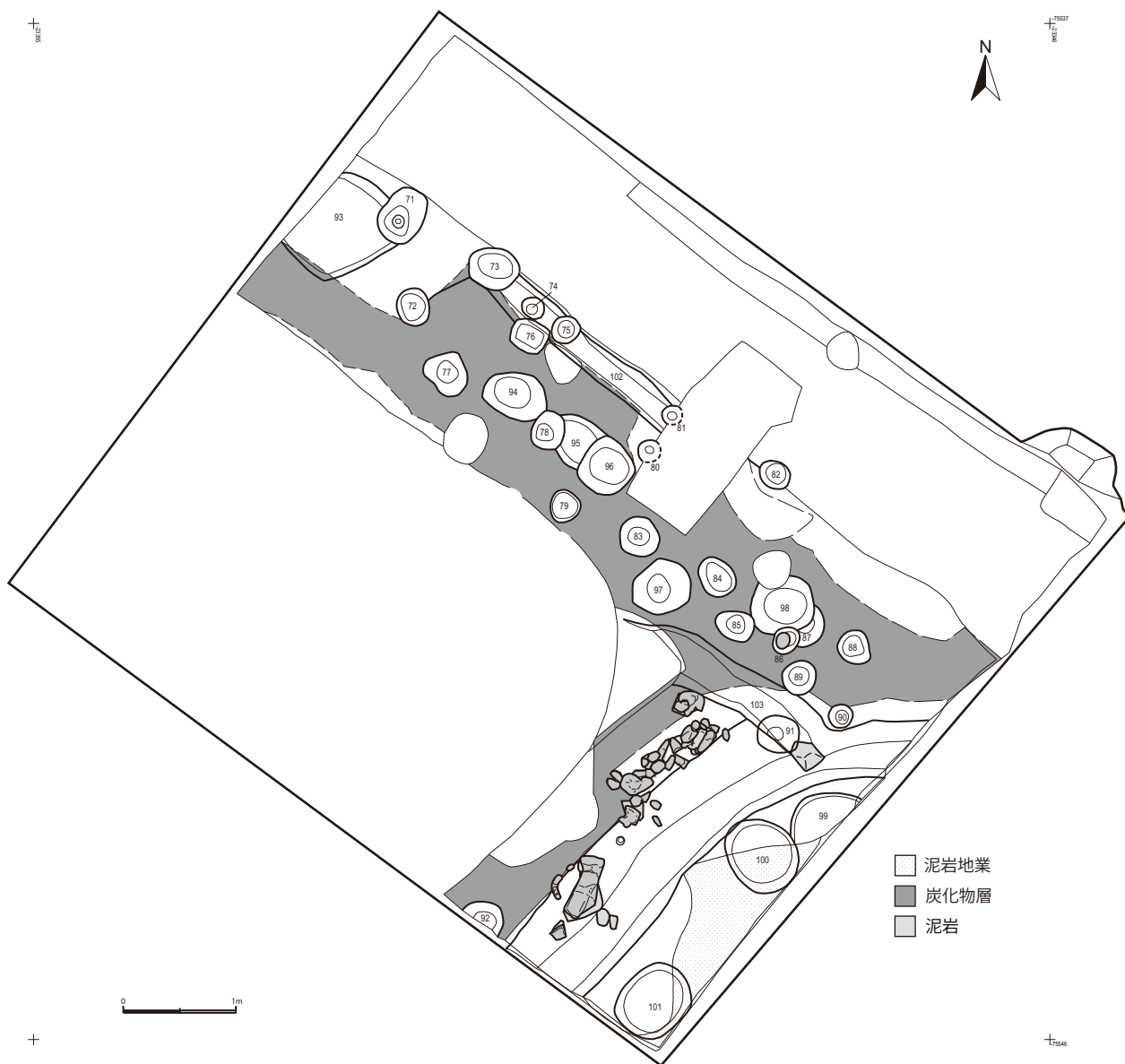


図14 第3a面全体図 (S=1/60)

遺構	色調	覆土	レベル	上端	最大上端	レベル	底面	遺構	色調	覆土	レベル	上端	最大上端	レベル	底面	遺構	色調	覆土	レベル	上端	最大上端	レベル	底面
71	暗褐色		21.51	0.47	20.99			80	暗褐色		21.63	0.23	21.29			89	茶褐色		21.61	0.31	21.52		
72	暗褐色		21.60	0.34	21.54			81	暗褐色		21.63	0.19	21.37			90			21.63	0.22	21.51		
73	暗茶褐色		21.63	0.44	21.48			82	暗褐色		21.63	0.25	21.55			91	暗褐色		21.60	0.46	21.46		
74	暗褐色		21.57	0.21	21.46			83	暗褐色		21.64	0.37	21.56			92	黒褐色		21.57	0.38	21.39		
75	暗褐色		21.57	0.21	21.47			84	暗褐色		21.63	0.37	21.58			93	暗赤褐色		21.50	0.87	21.40		
76	暗褐色		21.66	0.34	21.55			85	赤褐色		21.66	0.35	21.56			94	暗褐色		21.66	0.57	21.55		
77	暗褐色		21.63	0.41	21.51			86	黒褐色		21.64	0.28	21.65			95	暗褐色		21.67	0.38	21.62		
78	暗褐色		21.66	0.35	21.49			87	暗褐色		21.60	0.31	21.57			96	暗褐色		21.67	0.47	21.60		
79	暗褐色		21.67	0.28	21.59			88			21.58	0.32	21.52			97	暗褐色		21.63	0.56	21.46		
																98	暗褐色		21.70	0.60	21.57		
																99	暗褐色		21.61	0.82	21.51		
																100	暗褐色		21.56	0.71	21.47		
																101	暗褐色		21.54	0.69	21.42		
																102			21.67	幅 0.35	21.51		
																103			21.53	幅 1.17	21.28		

遺構 85 (図 14)

楕円形を呈するピット。遺構覆土:赤褐色粘質土。粘性、締りあり。炭化物やや多い。かわらけ片少。焼土粒を含む。出土遺物(図 16):1は瀬戸の平碗。

遺構 87 (図 14)

円形を呈するピット。遺構覆土:暗褐色粘質土。粘性あり。締りやや弱い。泥岩粒、炭化物少。かわらけ片やや少。遺構 98 に切られる。出土遺物(図 16):2は瀬戸直縁大皿。

土坑

基本的に隅丸方形を呈する。締まりのある暗褐色粘質土を覆土とするのが大半である(遺構遺構 95、96、97、98、99、100、101)。混入物はすくないが、炭化物を多量に含む場合がある。

遺構 86

暗褐色粘質土。粘性あり。締りややあり。泥岩粒多い。炭化物少。かわらけ片多い。

遺構 93

暗赤褐色粘質土。粘性、締りあり。泥岩粒、塊多い。炭化物やや多い。かわらけ片多い。

遺構 94 (図 14)

楕円形を呈する土坑。遺構覆土:暗褐色粘質土。粘性、締りあり。泥岩粒、炭化物、かわらけ片やや少。出土遺物(図 16):3はかわらけ。4は瀬戸平碗。5は丸瓦。

溝状遺構

溝は2条検出された。

遺構 102 (図 14)

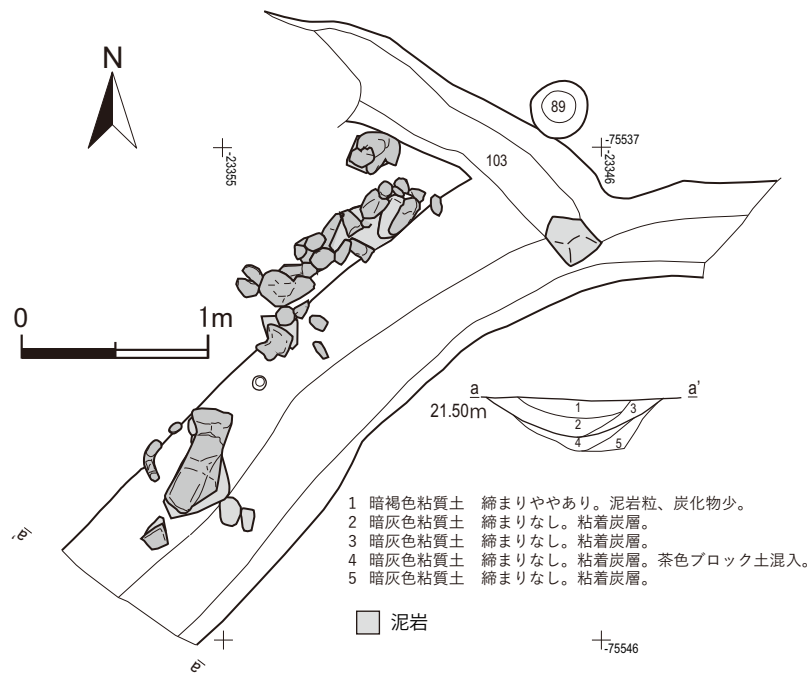
西北一東南方向に走る溝。非常に浅く、両端は不明瞭になっている。遺構覆土:暗茶褐色粘質土。粘性、締りあり。泥岩粒やや多く、炭化物・かわらけ片やや少。遺構 73 に切られる、砂混入。

遺構 103 (図 14、15)

調査区南東で検出されたやや弧を描くように走る溝。湾曲部で東西方向の溝が合流する。遺構覆土:図を参照。出土遺物(図 16):6~10はかわらけ。11は瀬戸の縁釉小皿。12は瀬戸の折縁深皿。13は瀬戸の浅碗。14~15は瓦質火鉢。

3a 面遺構外出土遺物 (図 16)

3面の遺構面精査時に面上で検出した遺物。16は瀬戸の卸目付大皿。



- 1 暗褐色粘質土 締まりややあり。泥岩粒、炭化物少。
- 2 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。
- 3 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。
- 4 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。茶色ブロック土混入。
- 5 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。

■ 泥岩

図15 3面遺構103

3a面構成土出土遺物 (図16)

3a面より3b検出までの間の堆積より出土した遺物。17は常滑甕。18は鉄釘。

第6節 第3b面の遺構と遺物

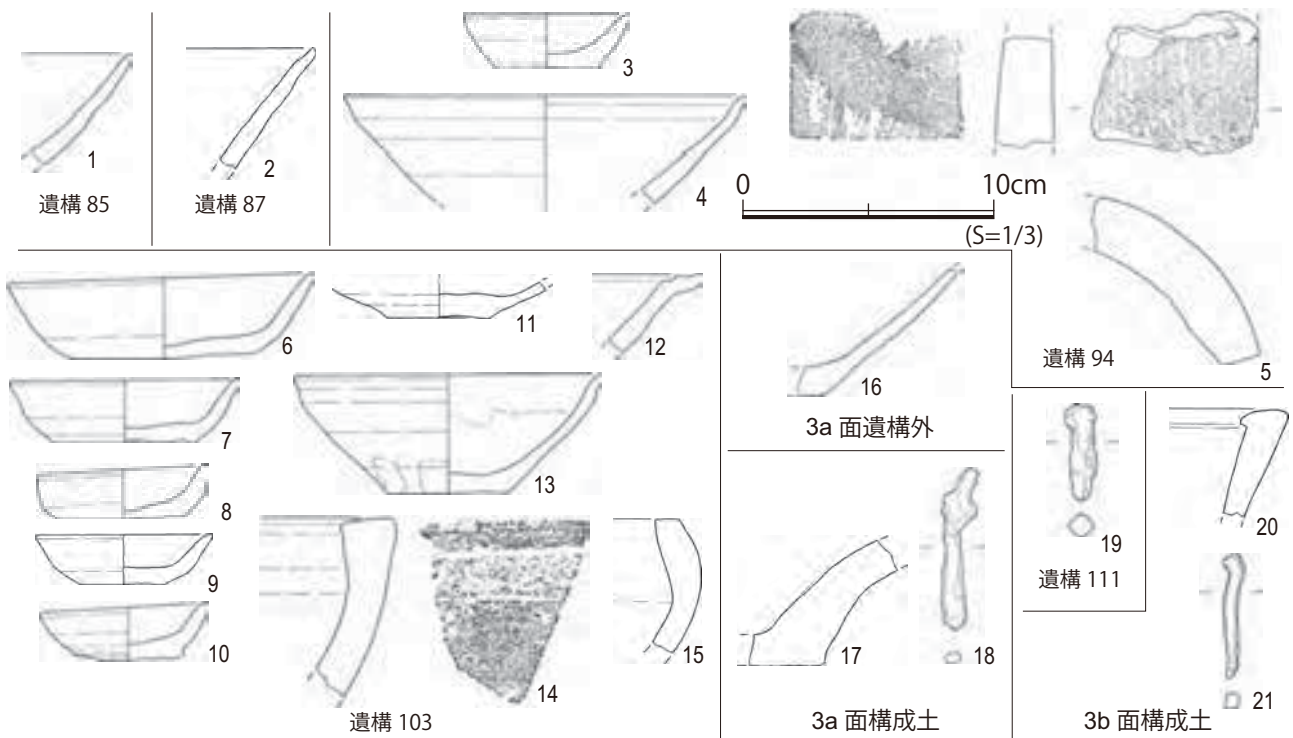


図16 第3a・3b面出土遺物

西南部を除き、全域に炭化物層が広がっている。第3b面はおよそ海拔21.50～21.56mである。遺構はピット8穴・土坑4基である。掘立柱建物址の存在が推定できるが明確なプランは復元できなかった。遺遺構の切りあいより第3b面で発見した遺構は、少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

遺物は、かわらけ・青磁・常滑・瀬戸・瓦器・火鉢・鉄製品が出土している。

ピット

円形および楕円形を呈する。遺構覆土は暗褐色粘質土を主体とするものが2穴（遺構104、105）で、締まりはややあり。泥岩粒、炭化物は少量含む。黒褐色粘質土を覆土とするものは締まりが弱く、泥岩粒、かわらけ片は少量。炭化物は多く含む（遺構106、107、108、109、110）。

遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル	遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル	遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル	遺構	色調土	上端レベル	最大上端径	底面レベル
104	暗褐色	21.48	0.31	21.35	107	黒褐色	21.54	0.29	21.31	110	黒褐色	21.60	0.30	21.57	113	黒褐色	21.61	1.07	21.42
105	暗褐色	21.50	0.27	21.38	108	黒褐色	21.55	0.27	21.34	111	暗褐色	21.57	0.38	21.40	114	黒褐色	21.61	0.42	21.52
106	黒褐色	21.50	0.35	21.31	109	黒褐色	21.62	0.37	21.56	112	黒褐色	21.59	0.52	21.45	115	黒褐色	21.55	0.41	21.45

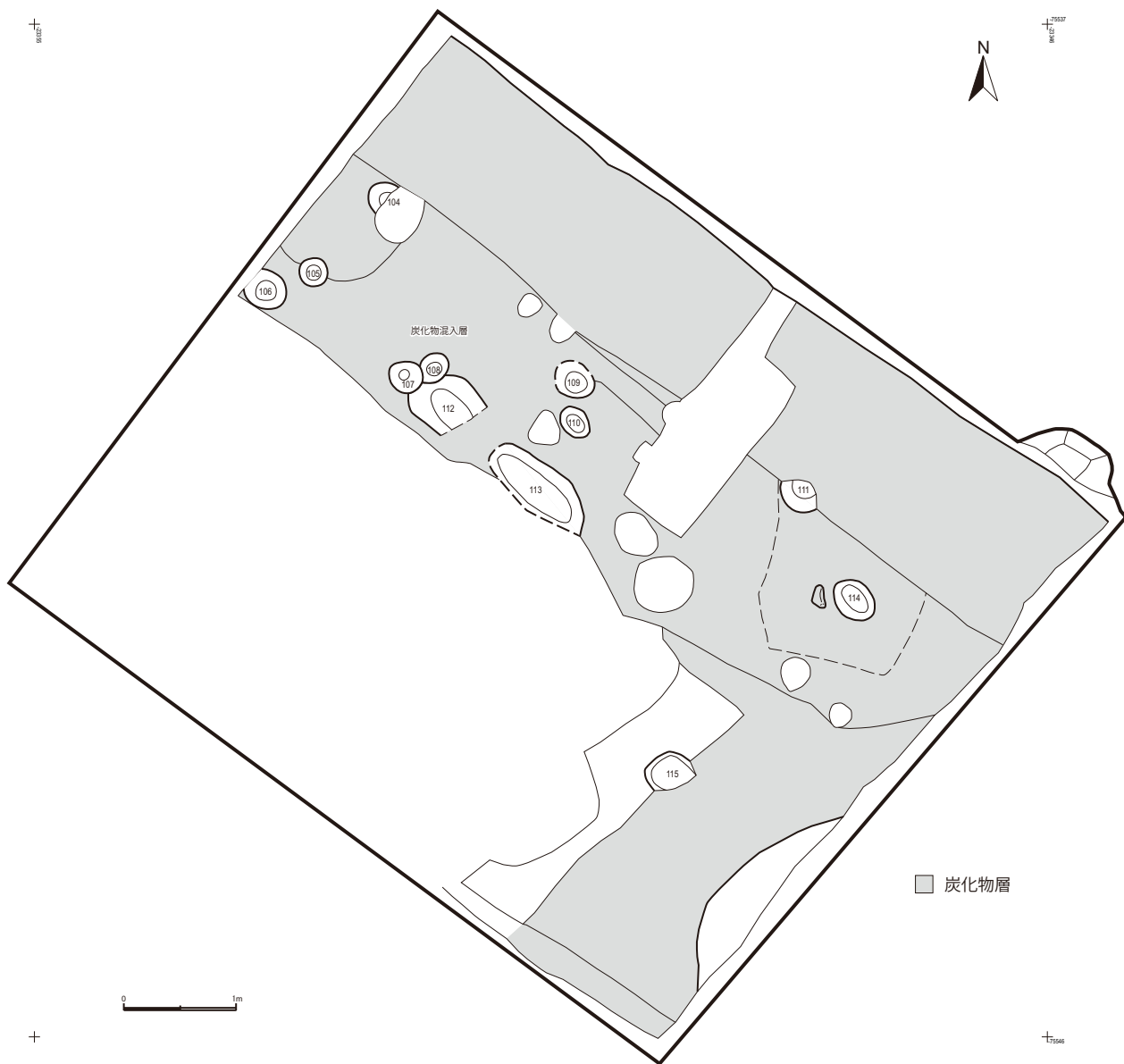


図17 第3b面全体図 (S=1/60)

遺構 111 (図 17)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗褐色粘質土。粘性あり。締りやや弱い。泥岩粒稀。炭化物多く含む。出土遺物 (図 16)：19 は鉄釘。

土坑

楕円形を呈する。覆土は黒褐色粘質土であり、締まりはやや弱い。泥岩粒、かわらけ片はほとんど含まない。炭化物多量に含み、ほぼ炭の層となっている。復元可能な遺物は出土せず (遺構 112、113、114、115)。

3b 面構成土出土遺物 (図 16)

3b 面より 4 面検出までの間の堆積より出土した遺物。20 は瓦質火鉢。21 は鉄釘。

第 7 節 第 4 面の遺構・遺物

第 4 面はおよそ海拔 21.52 ~ 21.67 m である。炭化物層をすべて取り除いた状態で、赤味のかかった黄褐色土による地業層となる。遺構はピット 54 穴・土坑 11 基、溝 9 条である。南西部はやや浅い溝が圍繞する区画となり、ピットが集中する。この区域には掘立柱建物址の存在が推定できるが明確なプランは復元できなかつた。遺構の切りあいより第 4 面で発見した遺構は、少なくとも 4 時期の時間差があると考えられる。

遺物は、かわらけ・青磁・白磁・青白磁・常滑・瀬戸・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・銅銭・木製品・自然遺物が出土している。

ピット

円形、楕円形を呈する。遺構覆土は暗褐色粘質土が主体である。多くは締まりあり。泥岩粒やや多く含む。炭化物かわらけ片少量含む (遺構 118、120、123、129、137、145、146、147、148、151、155、156)。また締まりややあり。泥岩粒、炭化物、かわらけ片少量含む (遺構 121、126、127、131、132、137、140、142、150、152、160、162、163、164、165)。

暗灰色粘質土 締まりややあり。泥岩粒やや少、炭化物多く炭の層 (遺構 117)。

遺構	色調	覆土	レベル	上端	最大	上端	レベル	底面
			上端	上端	上端	上端	上端	上端
			レベル	最大	最大	最大	最大	最大
			レベル	最大	最大	最大	最大	最大
116			0.24	21.20	21.18			
117	暗灰色		21.51	0.37	21.10			
118	暗褐色		21.49	0.24	21.06			
119	暗黄褐色		21.56	0.32	21.26			
120	暗褐色		21.56	0.30	21.39			
121	暗褐色		21.54	0.54	21.28			
122	黒褐色		21.53	0.38	21.42			
123	暗褐色		21.57	0.38	21.38			
124	暗黄褐色		21.70	0.24	21.56			
125	暗黄褐色		21.66	0.42	21.56			
126	暗褐色		21.74	0.32	21.56			
127	暗褐色		21.61	0.31	21.55			
128	暗黄褐色		21.61	0.49	21.55			
129	暗褐色		21.60	0.33	21.52			
130	暗褐色		21.56	0.40	21.52			
131	暗褐色		21.53	0.25	21.41			
132	暗褐色		21.53	0.29	21.28			
133	暗黄褐色		21.53	0.24	21.47			
134	暗褐色		21.60	0.26	21.36			
135	黒褐色		21.69	0.26	21.60			
136	暗赤褐色		21.67	0.27	21.65			
137	暗褐色		21.66	0.45	21.28			
138	暗赤褐色		21.66	0.48	21.25			
139	黒褐色		21.68	0.39	21.60			
140	暗褐色		21.63	0.45	21.37			
141	黒褐色		21.64	0.25	21.56			
142	暗黄褐色		21.62	0.34	21.52			
142			21.68	0.35	21.62			
143	黒褐色		21.70	0.25	21.61			
144	黒褐色		21.70	0.23	21.58			
145	暗褐色		21.69	0.24	21.66			
146	暗褐色		21.70	0.39	21.67			
147	暗褐色		21.65	0.28	21.55			
148	暗褐色		21.69	0.28	21.58			
149	暗褐色		21.70	0.32	21.58			
150	暗褐色		21.69	0.29	21.55			
151	暗褐色		21.53	0.29	21.26			
152	暗褐色		21.65	0.25	21.53			
153	暗褐色		21.60	0.31	21.56			
154	暗茶褐色		21.61	0.30	21.31			
155	暗褐色		21.67	0.30	21.57			
156	暗褐色		21.73	0.36	21.67			
157	黒褐色		21.73	0.32	21.63			
158	黒褐色		21.71	0.34	21.64			
159	黒褐色		21.71	0.37	21.32			
160	暗褐色		21.68	0.42	21.32			
161	黒褐色		21.79	0.42	21.56			
162	暗褐色		21.63	0.18	21.57			
163	暗褐色		21.57	0.36	21.48			
164	暗褐色		21.62	0.20	21.45			
165	暗褐色		21.10	0.27	20.97			
166	黒褐色		-	-	-			
167	黒褐色		21.56	0.51	21.30			
168	赤褐色		21.64	0.47	21.44			
169	赤褐色		21.66					
170	黒褐色		21.71	0.56	21.58			
171			21.71	0.84	21.54			
172	黒褐色		21.68	0.4	21.55			
173	黒褐色		21.72	0.81	21.53			
174	暗赤褐色		21.57	0.45	21.42			
175	黒褐色		21.61	0.63	21.23			
176	暗褐色		21.69	幅 0.29	21.60			
177	黒褐色		21.78	幅 0.36	21.60			
178	黒褐色		21.64	幅 0.32	21.46			
179	暗褐色		21.61	幅 0.32	21.46			
180	暗褐色		21.63	幅 0.75	21.26			
181			21.61	幅 0.60	21.36			
182			21.54	幅 2.08	21.01			
183			21.28	幅 1.49	20.56			
184			21.52	幅 0.81	21.08			

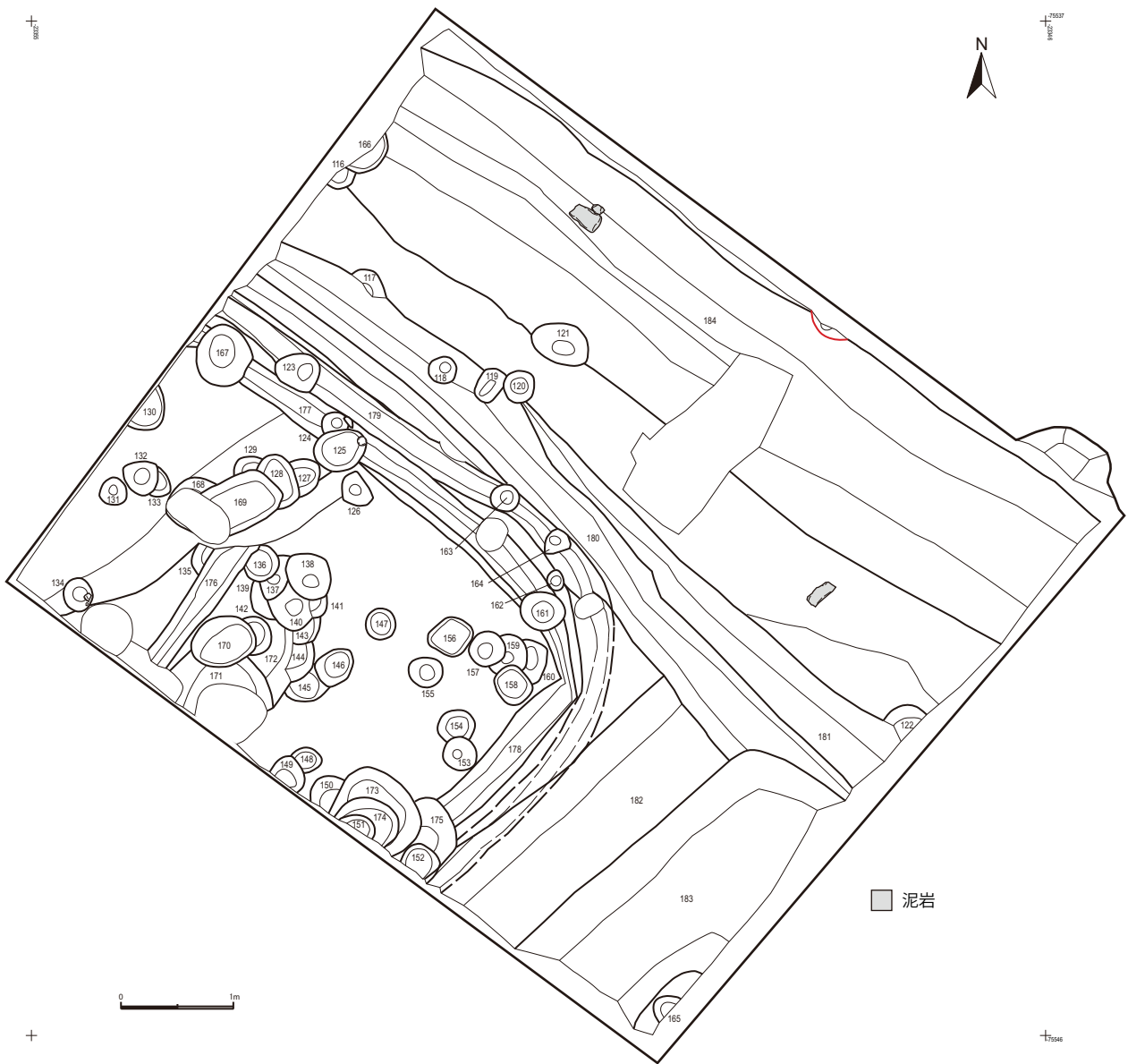


図18 第4面全体図 (S=1/60)

暗黄褐色粘質土 締まりややあり。泥岩粒、炭化物少。かわらけ片やや少量含む (遺構 119、124、128、133、142、154)。

暗赤褐色粘質土 締まりあり。泥岩粒、炭化物、かわらけ片少量含む (遺構 136、138)。

黒褐色粘質土 締まりやや弱い。泥岩ほぼ含まず。炭化物多量、かわらけ片僅か (遺構 122、135、139、141、143、144、157、161、166)。

遺構 116 (図 18)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗褐色粘質土 泥岩粒少、岩粒やや多い。炭化物やや多い、かわらけ片多い。出土遺物 (図 21)：1～2 はかわらけ。

遺構 125 (図 18)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗黄褐色粘質土。粘性あり。締りややあり。泥岩粒少。炭化物、かわらけ片少。遺構 124 同。出土遺物 (図 21)：3 はかわらけ。

遺構 130 (図 18)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗褐色粘質土。粘性、縮りあり。泥岩粒やや少。炭化物、かわらけ片少。出土遺物 (図 21)：4 は鉄釘。

遺構 134 (図 18)

隅丸方形を呈するピット。遺構覆土：暗褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。泥岩粒少。炭化物、かわらけ片少。出土遺物 (図 21)：5 はかわらけ。

遺構 149 (図 18)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。炭化物やや少。かわらけ片少。出土遺物 (図 21)：6 はかわらけ。

遺構 153 (図 18)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗褐色粘質土。粘性あり。縮りやや弱い。炭化物やや少。遺構 154 を切る。出土遺物 (図 21)：7 はかわらけ。8 は鉄釘。

遺構 158 (図 18)

隅丸方形を呈するピット。遺構覆土：黒褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。泥岩粒少。炭化物やや多い。出土遺物 (図 21)：9 はかわらけ。

遺構 159 (図 18)

円形を呈するピット。遺構覆土：黒褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。泥岩粒やや少。炭化物やや多い。かわらけ片やや少。遺構 160 を切る。出土遺物 (図 21)：10 はかわらけ。

土坑

隅丸方形、楕円形を呈する。遺構覆土は黒褐色粘質土が主体である。縮まりやや弱く、泥岩粒僅か。かわらけ片も少量で、炭化物は多く含む (遺構 167、170、172、173)。

遺構 168 (図 18)

隅丸方形を呈する土坑。上層は赤褐色粘質土。粘性、縮りあり。炭化物多い。かわらけ片少。焼土塊多い。下層は暗褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。炭化物やや少。かわらけ片少。焼土塊やや少。焼土塊が多く混じるため、火の使用が想定されるが、機能は不明。

遺構 169 (図 18)

隅丸方形を呈する土坑。遺構覆土：上層は赤褐色粘質土。粘性、縮りあり。泥岩粒稀。炭化物少。かわらけ片少。焼土ブロック混じる。下層は黒褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。泥岩粒稀。炭化物多い。底に炭層。出土遺物 (図 21)：11 は常滑片口鉢Ⅱ類。12 は鉄釘。

遺構 175 (図 18)

隅丸方形を呈する土坑。遺構覆土：黒褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。泥岩粒、炭化物少。かわらけ片やや多い。ブロック状の茶色土がレンズ状に入る。出土遺物 (図 21)：13 はかわらけ。14 は瀬戸の洗か。

溝状遺構

複数の溝が検出された。最北部の溝 (遺構 184) が最も規模が大きい。第 3 面の溝 (遺構 70) はこの溝を掘りなおしたものと推定される。これと並行する形で、調査区中央部にやや小規模な溝 (遺構 180、181) が走る。180 は 181 を掘りなおしたものと推定される。この溝を一部破壊する形で、西南部

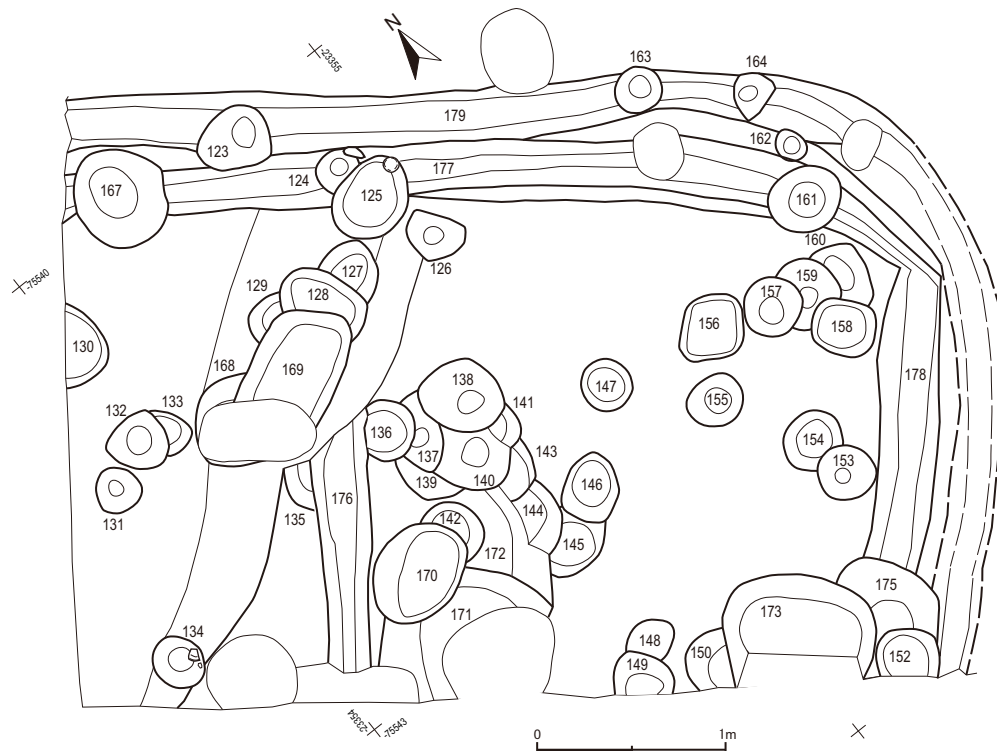


図 19 第 4 面東南部遺構分布図 (S=1/40)

を圍繞する溝が構築される。この溝も当初の溝（遺構 179）のあとやや内側に範囲を縮小する形で再構築（遺構 177、178）している。東南部の溝は L 字形に湾曲するやや深い溝である（遺構 183）。この溝も第 3 a 面で新しく掘りなおしている（遺構 103）。

遺構 176 (図 18)

西南—東北方向に走る小規模な溝。両端は削平などによって不明。遺構覆土：暗褐色粘質土。粘性あり。締りあり。泥岩、炭化物、かわらけ片を少量含む。

遺構 177、178 (図 18)

西南部を圍繞する溝。上部が削平されていたため、当初は別の遺構と識別していたが、一続きの溝と推定される。遺構覆土：黒褐色粘質土。粘性あり。締りややあり。泥岩粒少。炭化物多い。かわらけ片やや少。出土遺物 (図 21)：15 は瀬戸の緑釉小皿。

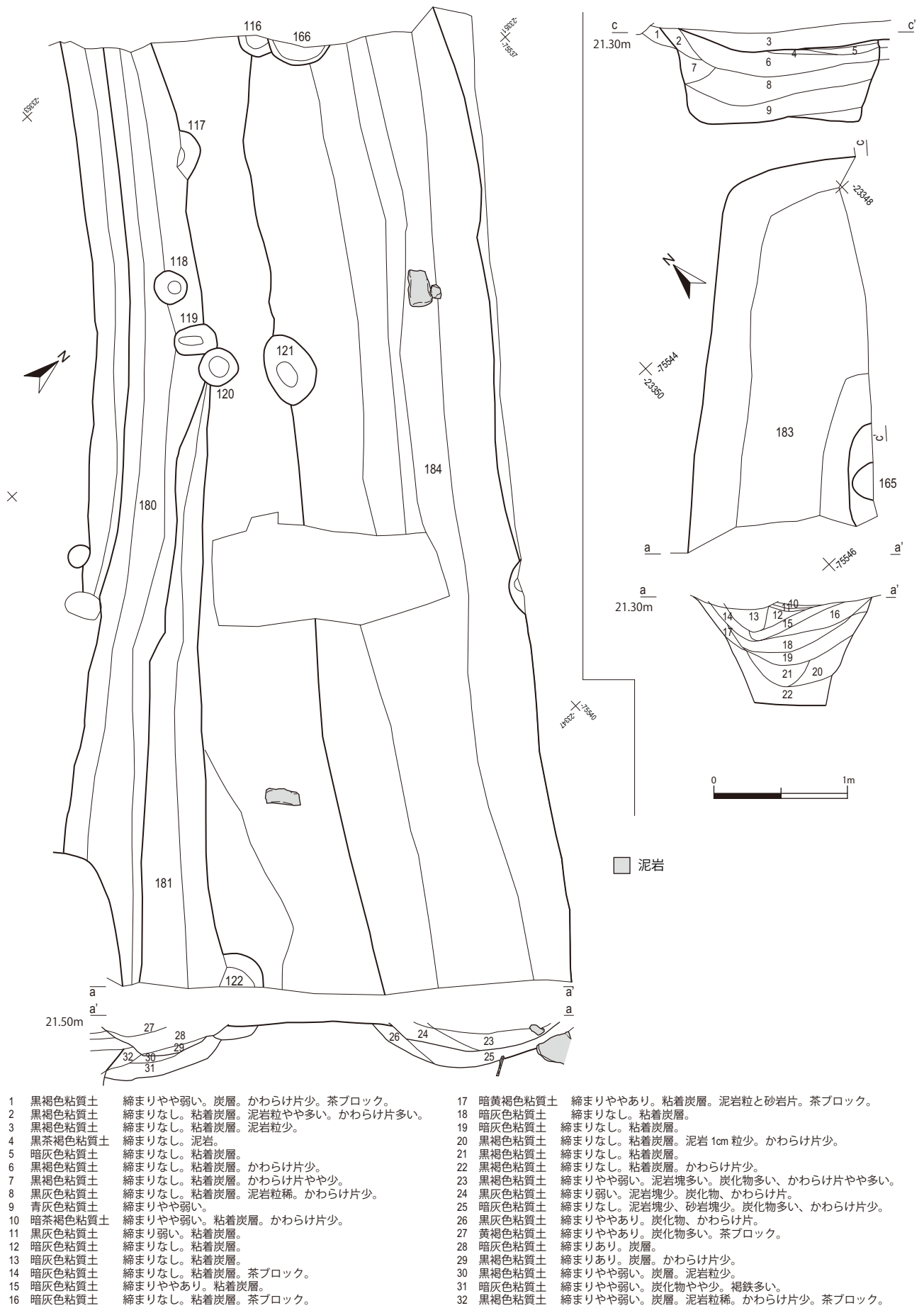
遺構 179 (図 18)

西南部を圍繞する溝。遺構 177 によって切られており、より古い溝である。東側は削平によって不明であるが、西側の壁の状況から、遺構 177、178 と同様の構造であると推定される。遺構覆土：暗褐色粘質土。粘性あり。締りややあり。泥岩粒やや多い。炭化物は東側に多い。出土遺物 (図 21)：16 はかわらけ。17～19 は瓦質火鉢。

遺構 180 (図 18、20)

東西方向に走る溝。遺構 181 を切っており、新しく掘りなおしたものと推定される。また遺構 183 に切られる。遺構覆土は黒褐色粘質土が主体で、粘性があり締りはやや弱い。炭化物を多めに含む。細分は図 20 を参照。

出土遺物 (図 21)：20～23 はかわらけ。24 は常滑片口鉢Ⅱ類。25 は瀬戸の碗形鉢、26 は瀬戸の播



- 1 黒褐色粘質土 締まりやや弱い。炭層。かわらけ片少。茶ブロック。
- 2 黒褐色粘質土 締まりなし。粘着炭層。泥岩粒やや多い。かわらけ片多い。
- 3 黒褐色粘質土 締まりなし。粘着炭層。泥岩粒少。
- 4 黒茶褐色粘質土 締まりなし。泥岩。
- 5 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。
- 6 黒褐色粘質土 締まりなし。粘着炭層。かわらけ片少。
- 7 黒褐色粘質土 締まりなし。粘着炭層。かわらけ片やや少。
- 8 黒褐色粘質土 締まりなし。粘着炭層。泥岩粒稀。かわらけ片少。
- 9 青灰色粘質土 締まりやや弱い。
- 10 暗茶褐色粘質土 締まりやや弱い。粘着炭層。かわらけ片少。
- 11 黒灰色粘質土 締まり弱い。粘着炭層。
- 12 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。
- 13 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。
- 14 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。茶ブロック。
- 15 暗灰色粘質土 締まりややあり。粘着炭層。
- 16 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。茶ブロック。

- 17 暗黄褐色粘質土 締まりややあり。粘着炭層。泥岩粒と砂岩片。茶ブロック。
- 18 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。
- 19 暗灰色粘質土 締まりなし。粘着炭層。
- 20 黒褐色粘質土 締まりなし。粘着炭層。泥岩 1cm 粒少。かわらけ片少。
- 21 黒褐色粘質土 締まりなし。粘着炭層。
- 22 黒褐色粘質土 締まりなし。粘着炭層。かわらけ片少。
- 23 黒褐色粘質土 締まりやや弱い。泥岩塊多い。炭化物多い。かわらけ片やや多い。
- 24 黒褐色粘質土 締まり弱い。泥岩塊少。炭化物、かわらけ片。
- 25 暗灰色粘質土 締まりなし。泥岩塊少、砂岩塊少。炭化物多い。かわらけ片少。
- 26 黒灰色粘質土 締まりややあり。炭化物、かわらけ片。
- 27 黄褐色粘質土 締まりややあり。炭化物多い。茶ブロック。
- 28 暗灰色粘質土 締まりあり。炭層。
- 29 黒褐色粘質土 締まりあり。炭層。かわらけ片少。
- 30 黒褐色粘質土 締まりやや弱い。炭層。泥岩粒少。
- 31 暗灰色粘質土 締まりやや弱い。炭化物やや少。褐鉄多い。
- 32 黒褐色粘質土 締まりやや弱い。炭層。泥岩粒稀。かわらけ片少。茶ブロック。

図 20 第 4 面遺構 180 ~ 184

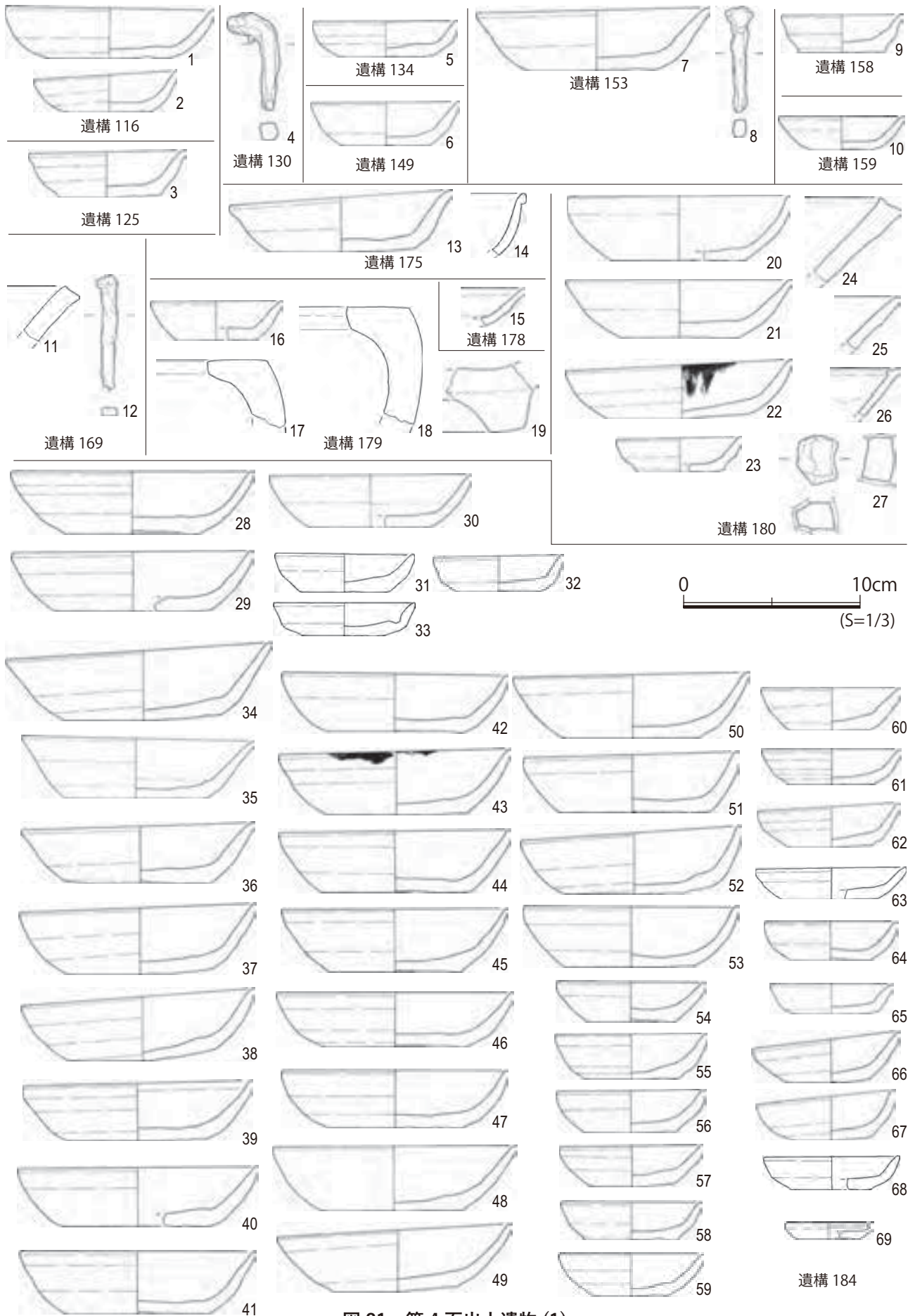


图 21 第 4 面出土遺物 (1)

鉢形小鉢、27 は常滑の甕研磨片。

遺構 182 (図 18)

東西方向に走る溝。遺構 181 に切られる。復元可能な遺物は出土せず。

遺構 183 (図 18、20)

L 字状に南北方向から東西方向に湾曲する溝で、大半は調査区外にあたるため詳細は不明。遺構覆

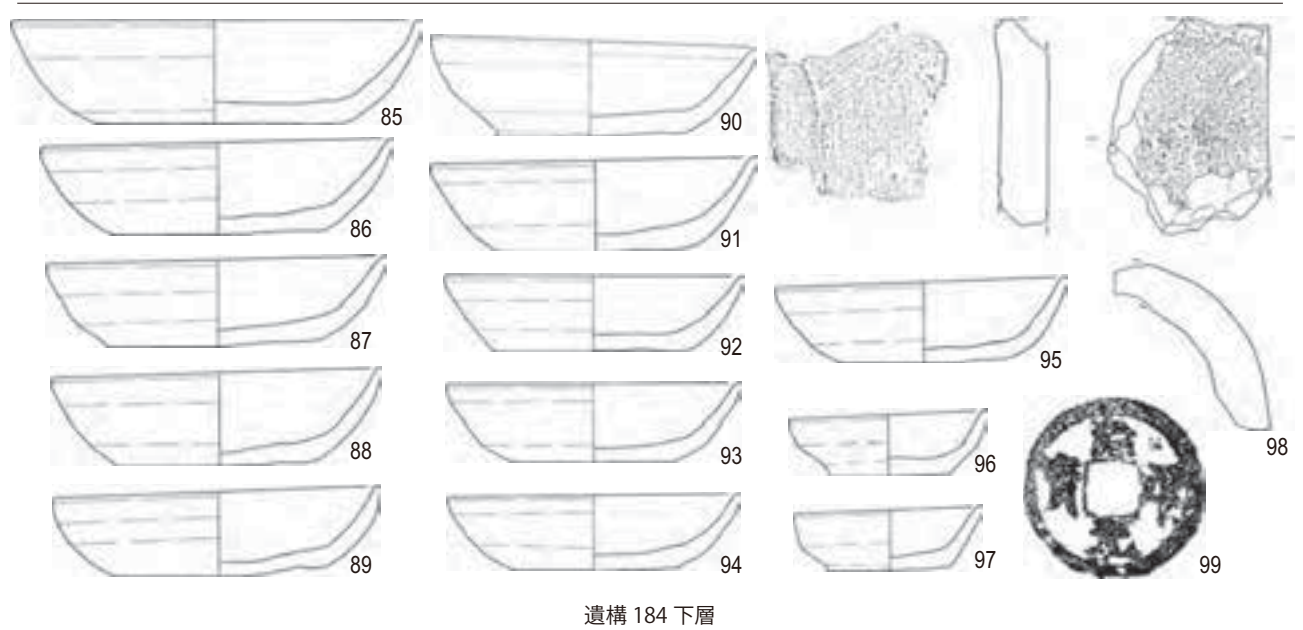
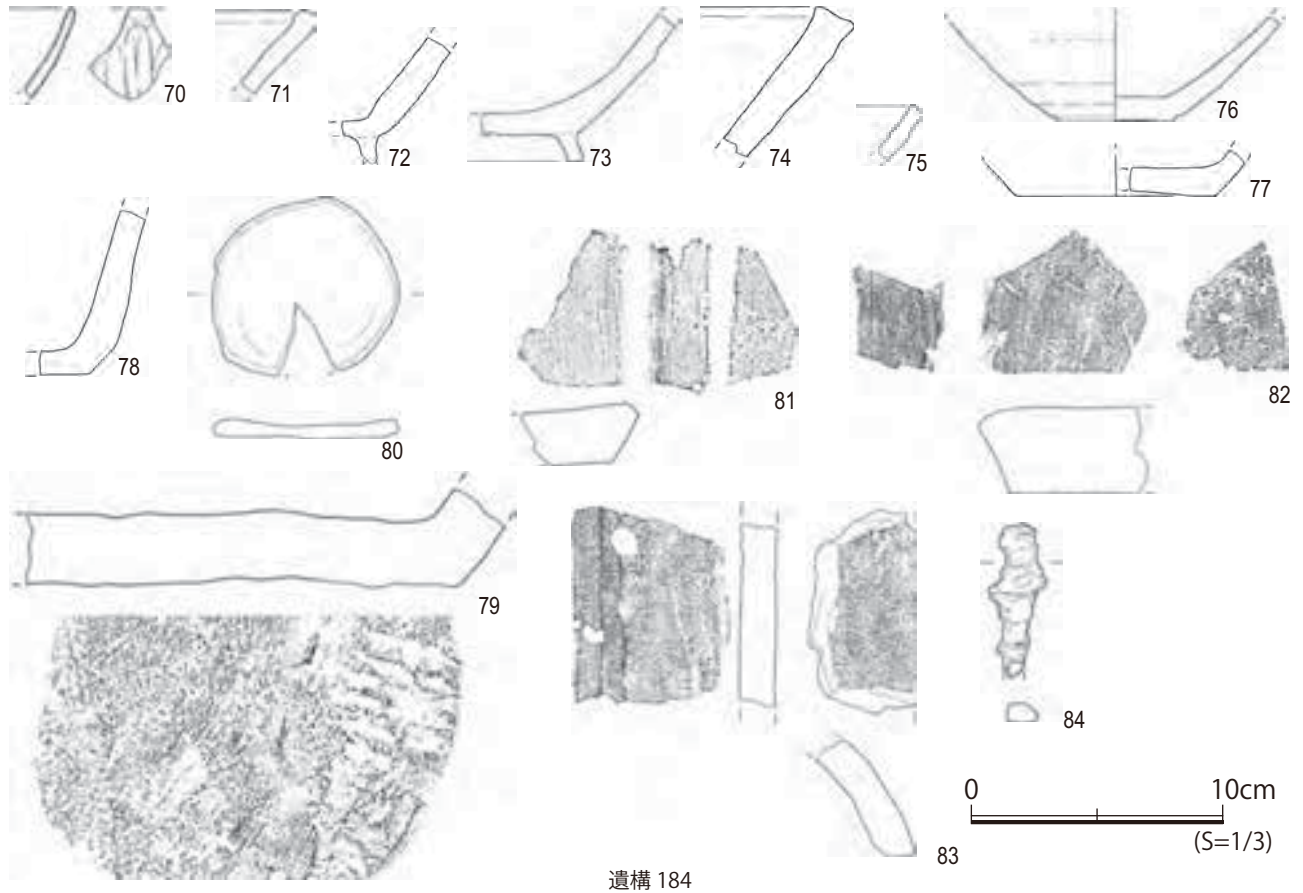
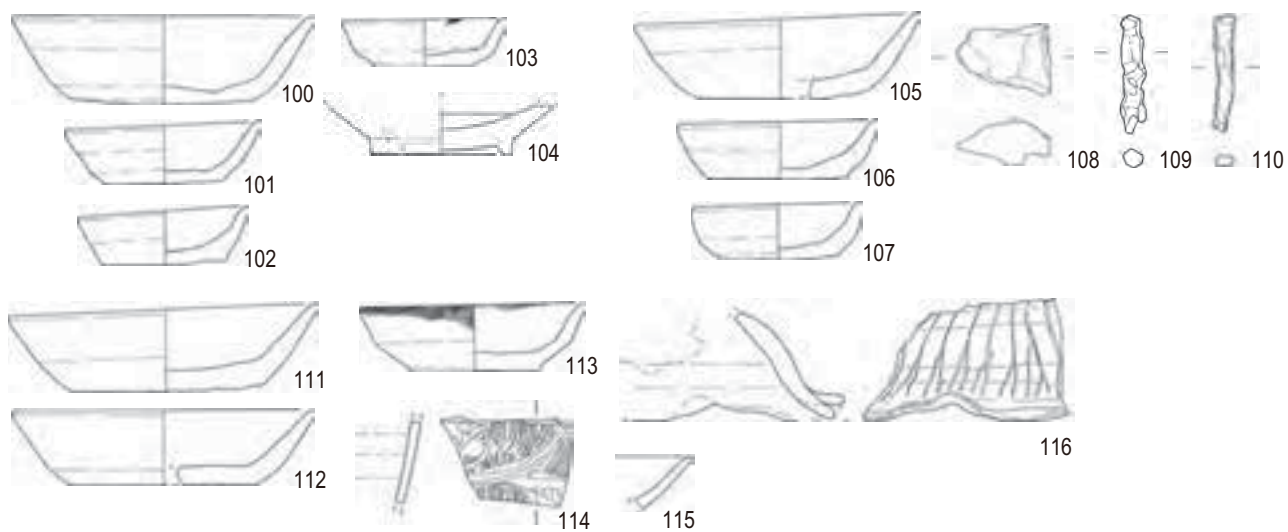
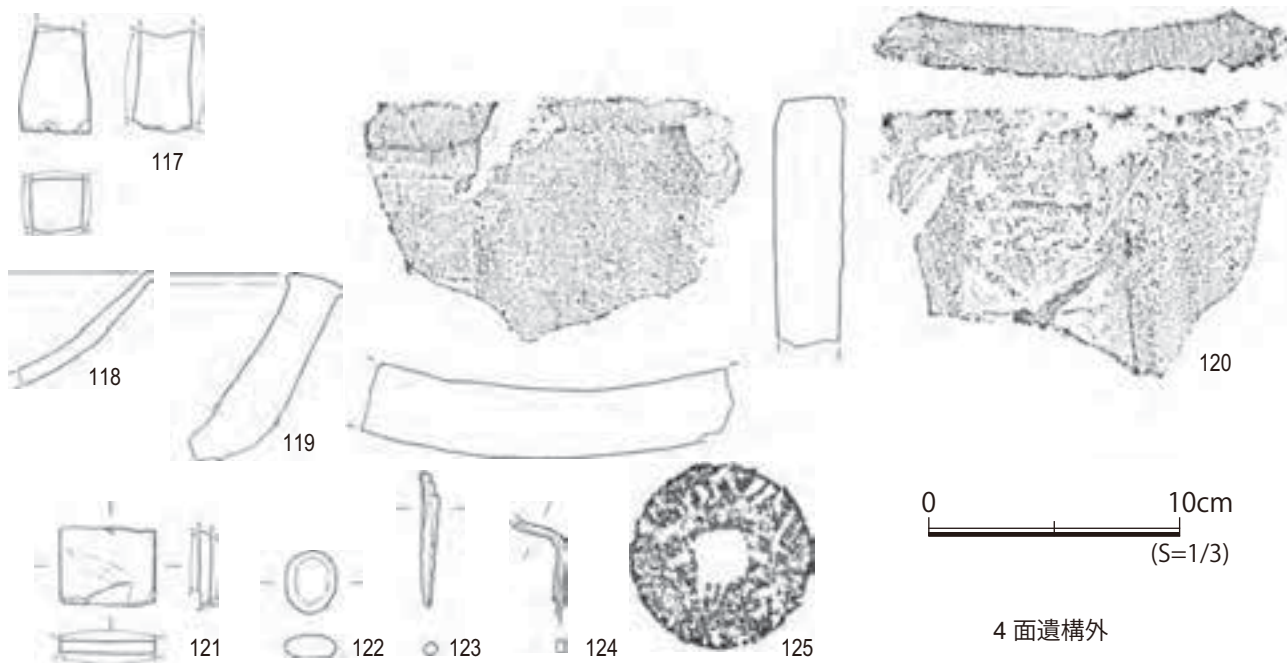


図 22 第 4 面出土遺物 (2)

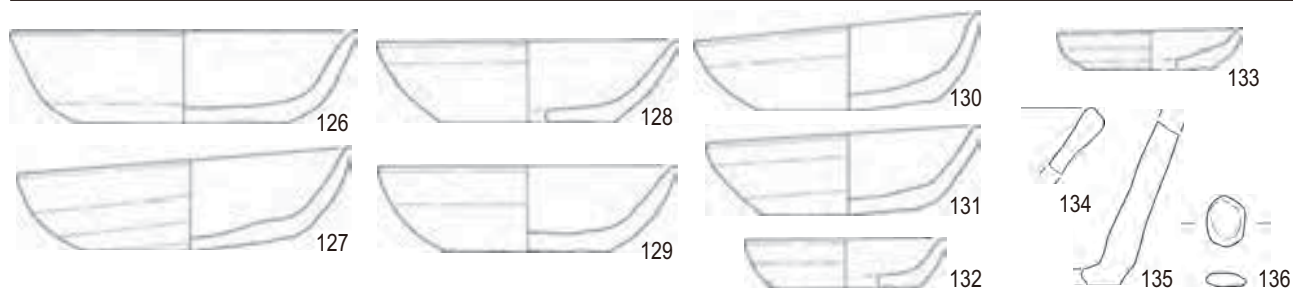
土：図を参照。出土遺物（図 23）：99～102 はかわらけ。103 は白磁碗。104～109 は中層出土。104～106 はかわらけ。107 は不明土製品。108～109 は鉄釘。110～116 は下層出土。110～112 はかわらけ。113 は青白磁の梅瓶。114 は瀬戸の小鉢か。115 は瀬戸広口壺の蓋。116 は砥石。



遺構 183



4面遺構外



4面構成土

図 23 第 4 面出土遺物 (3)

遺構 184 (図 18、20)

調査区北部を西北—南西方向に走る溝。遺構覆土：図を参照。出土遺物（図 21、22）：28～32 はかわらけで、溝の上層より出土。34～69 はかわらけ。70 は青磁蓮弁文碗。71～73 は常滑片口鉢Ⅰ類。74 は常滑片口鉢Ⅱ類。75 は瀬戸卸皿、76 は瀬戸平碗か。77 は瀬戸折縁皿か。78 は瓦質火鉢、79 は瓦器質火鉢。80 はかわらけの円盤状加工品。81～82 は平瓦、83 は丸瓦。84 は鉄釘。85～98 は溝の下層出土。85～97 はかわらけ。98 は丸瓦。99 は銅銭。

4 面遺構外出土遺物 (図 23)

4 面の精査時に検出した遺物。117 は瀬戸の碗形鉢。118 は土器質火鉢。119 は平瓦。120 は砥石。121 は基石か。122～123 は鉄釘。124 は銅銭。

4 面構成土出土遺物 (図 23)

4 面より 4a 面検出までの間の堆積より出土した遺物。125～132 はかわらけ。133 は常滑片口鉢Ⅰ類。134 は不明土製品。135 は基石。

第 8 節 第 4a 面の遺構・遺物

第 4a 面はおよそ海拔 21.40～21.52 m である。上面からの遺構の掘り込みによってかなり破壊されている。赤味の強い黄褐色土によって地業されており、泥岩の碎片を多く含んでいる。検出遺構はピット 26 穴・土坑 1 基、溝 2 条である。掘立柱建物址の存在が推定できるが明確なプランは復元できなかった。西南部には玉砂利を面的に敷き詰めた区画が見られる。また植栽痕と思しき小規模な穴が多数検出されており、第 4 面までとは空間利用の状況が異なっている。遺構の切りあいより第 4a 面で発見した遺構は、少なくとも 2 時期の時間差があると考えられる。

遺物は、かわらけ・青磁・白磁・青白磁・常滑・瀬戸・瓦器・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・自然遺物が出土している。

ピット

基本的に円形を呈する。遺構覆土は暗褐色粘質土がほとんどであり、粘性締まり共にあり。泥岩粒、炭化物、かわらけ片はいずれも少量含む（遺構 186、188～208、210）。黒褐色粘質土のものは締まりやや弱く、泥岩粒やや多く含む。炭化物は多量（遺構 185、187）。復元可能は遺物は出土せず。

遺構	色覆土	レ上端	最大上端	レ底面	遺構	色覆土	レ上端	最大上端	レ底面	遺構	色覆土	レ上端	最大上端	レ底面	遺構	色覆土	レ上端	最大上端	レ底面
		レベル	径	レベル			レベル	径	レベル			レベル	径	レベル			レベル	径	レベル
185	黒褐色	21.46	0.16	21.29	192		21.53	0.18	21.48	199	暗褐色	21.49	0.23	21.06	206	暗褐色	21.49	0.29	21.38
186	暗褐色	21.48	0.23	21.44	193	暗褐色	21.54	0.22	21.45	200		21.44	0.24	21.05	207	暗褐色	21.53	0.33	21.38
187	黒褐色	21.51	0.19	21.42	194	暗褐色	21.56	0.22	21.45	201		21.5	0.21	21.24	208	暗褐色	21.53	0.26	21.37
188	暗褐色	21.55	0.26	21.38	195	暗褐色	21.59	0.31	21.42	202	暗褐色	21.5	0.32	21.32	209		21.56	0.29	21.35
189	暗褐色	21.57	0.49	21.35	196	暗褐色	21.62	0.35	21.35	203	暗褐色	21.5	0.3	21.35	210	茶褐色	21.55	0.34	21.38
190	暗褐色	21.47	0.37	21.39	197	暗褐色	21.53	0.2	21.41	204	暗褐色	21.46	0.15	21.35	211		21.5		20.98
191	暗褐色	21.47	0.26	21.35	198	暗褐色	21.49	0.43	21.19	205	暗褐色	21.48	0.28	21.35	212		21.51		20.88

小ピット

植栽痕と推定される小規模な穴を多数検出した（図 24：k1～k53）。大半は円形を呈するが、方形の

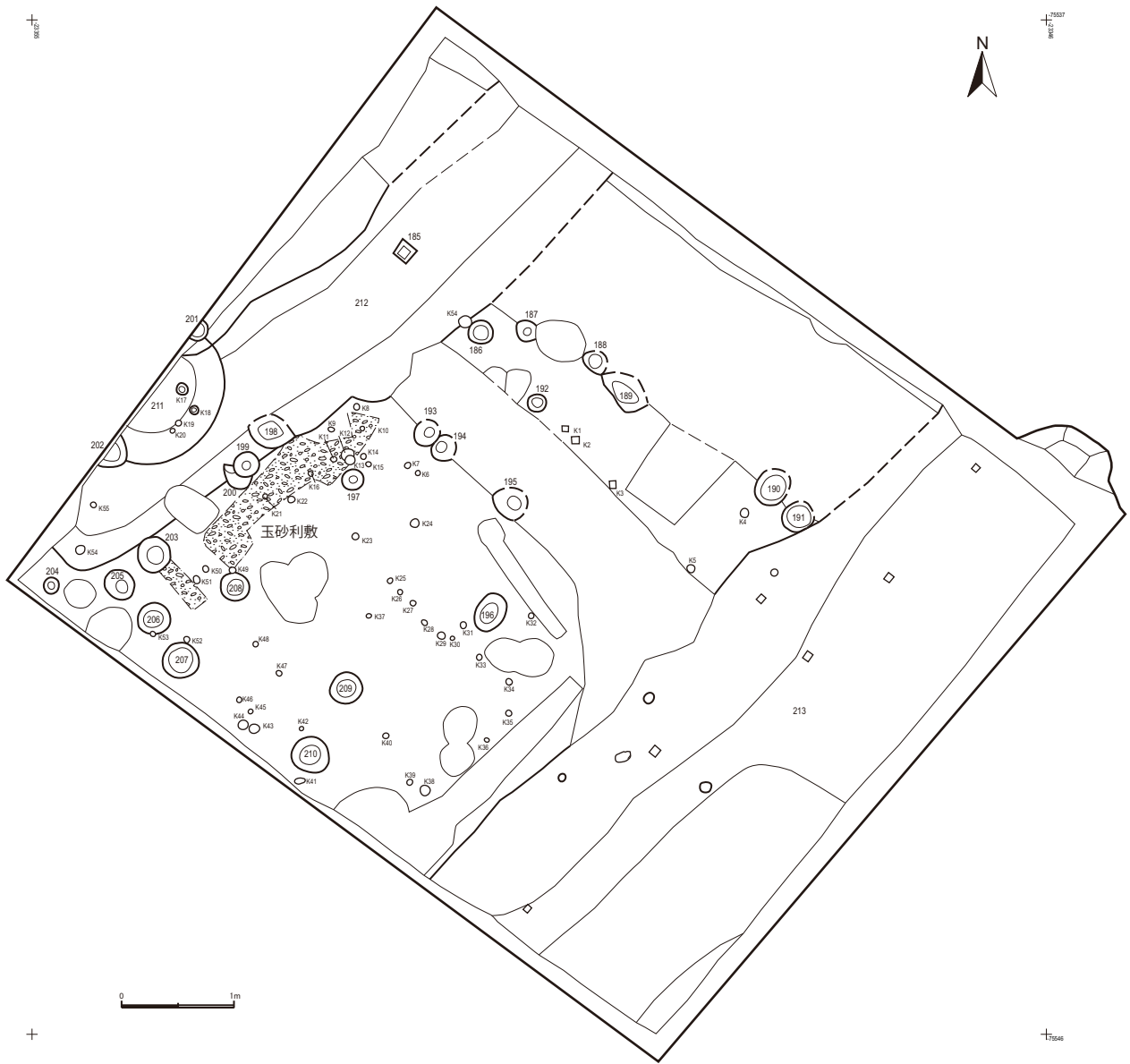


図 24 第 4a 面全体図 (S=1/60)

穴も少数見られる。列状に並ぶようでもあるが、遺構の性格としては不明。深さもそれほど深くはない。およそ覆土は暗褐色粘質土で締まりがあり、混入物は少ない。遺物は出土せず。

土坑

遺構 211 (図 24)

プラン不明の土坑。遺構 212 を掘り込んでいると思われるが、平面ではプランが確認できず。遺構覆土：図 25 参照。出土遺物 (図 29)：200～217 はかわらけ。200～206 は大型。207～212 は中型。213～217 は小型。

溝状遺構

東西に 2 条検出された。

遺構 212 (図 24、25)

溝。調査区西部を西南—東北方向に走る。北は調査区外にそのまま継続して伸びているようである。南は調査区のほぼ西南角で西方向に湾曲して流路の方向が変わっている。覆土には玉砂利が多く混じっており、おそらく面的に玉砂利が敷かれた区画が構築されたのちにその一角を破壊して溝が構築されたものと考えられる。遺構覆土：粘性のある暗褐色粘質土が基本である。締りはややあり。細分は図 25 を参照。

溝からはほぼ全域にわたって大量のかわらけが出土した。破片も多いが、完形に近いものも多数見られる。かわらけ自体は底の方に多いがやや高く積もる感じで廃棄されたようである。出土のまとまりから大きく 5 群に分けることができよう (図 25)。

出土遺物 (図 26)：1～4 は上層出土遺物でいずれもかわらけ。5～17 は下層出土で大型かわらけ。19 から 33 は溝北側出土の大型かわらけ。34～49 は溝中程の出土のかわらけ。34～35 は特大型で、36～49 は大型。(図 27)：50 は 1 群出土のかわらけ。51～69 は 2 群出土のかわらけ。51～54 は大型、55～69 は中型。70～73 は 3 群出土のかわらけ。74～75 は 4 群出土のかわらけ。76～93 は 5 域群出

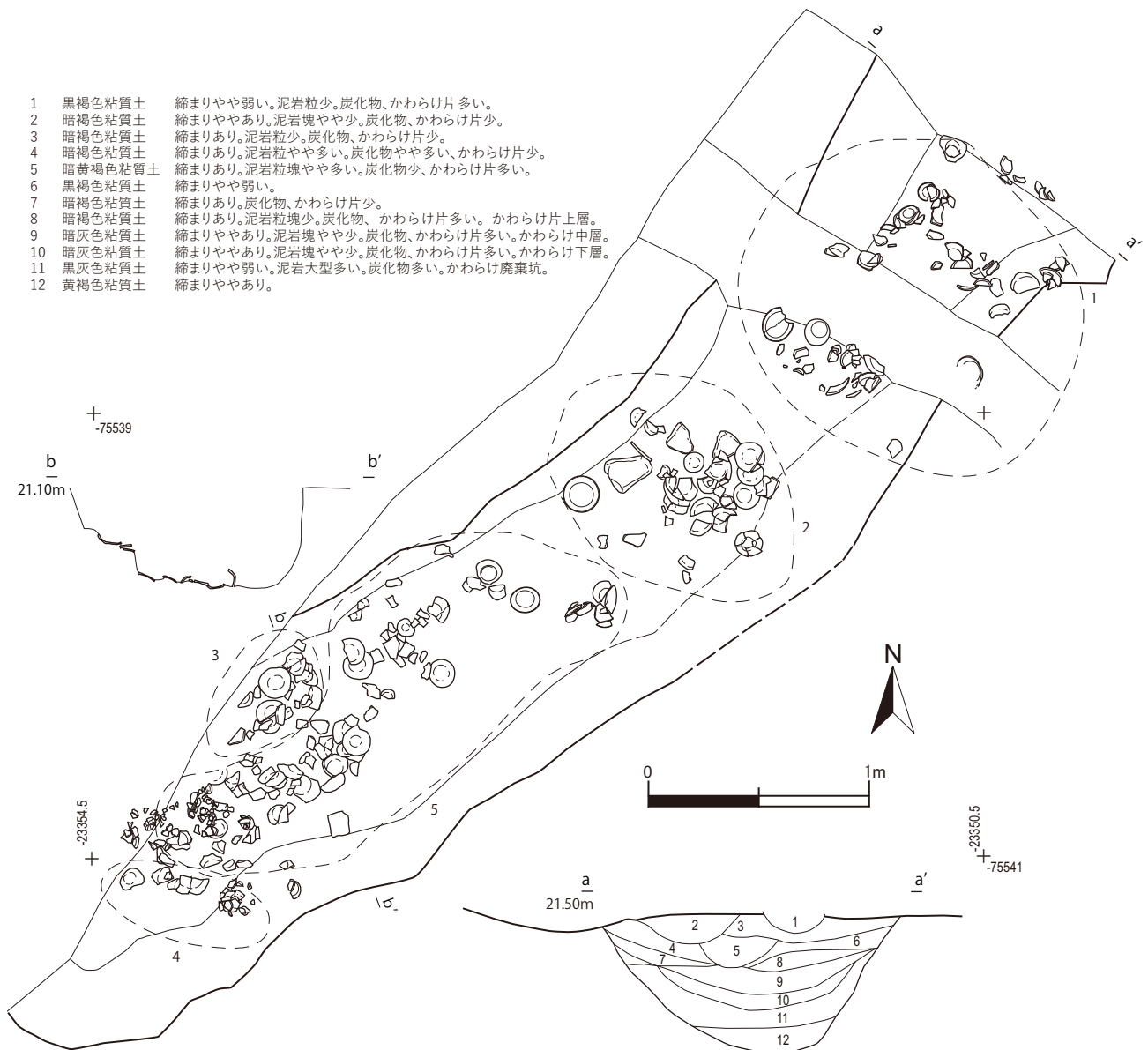


図 25 溝 212 平面図 (S=1/30)

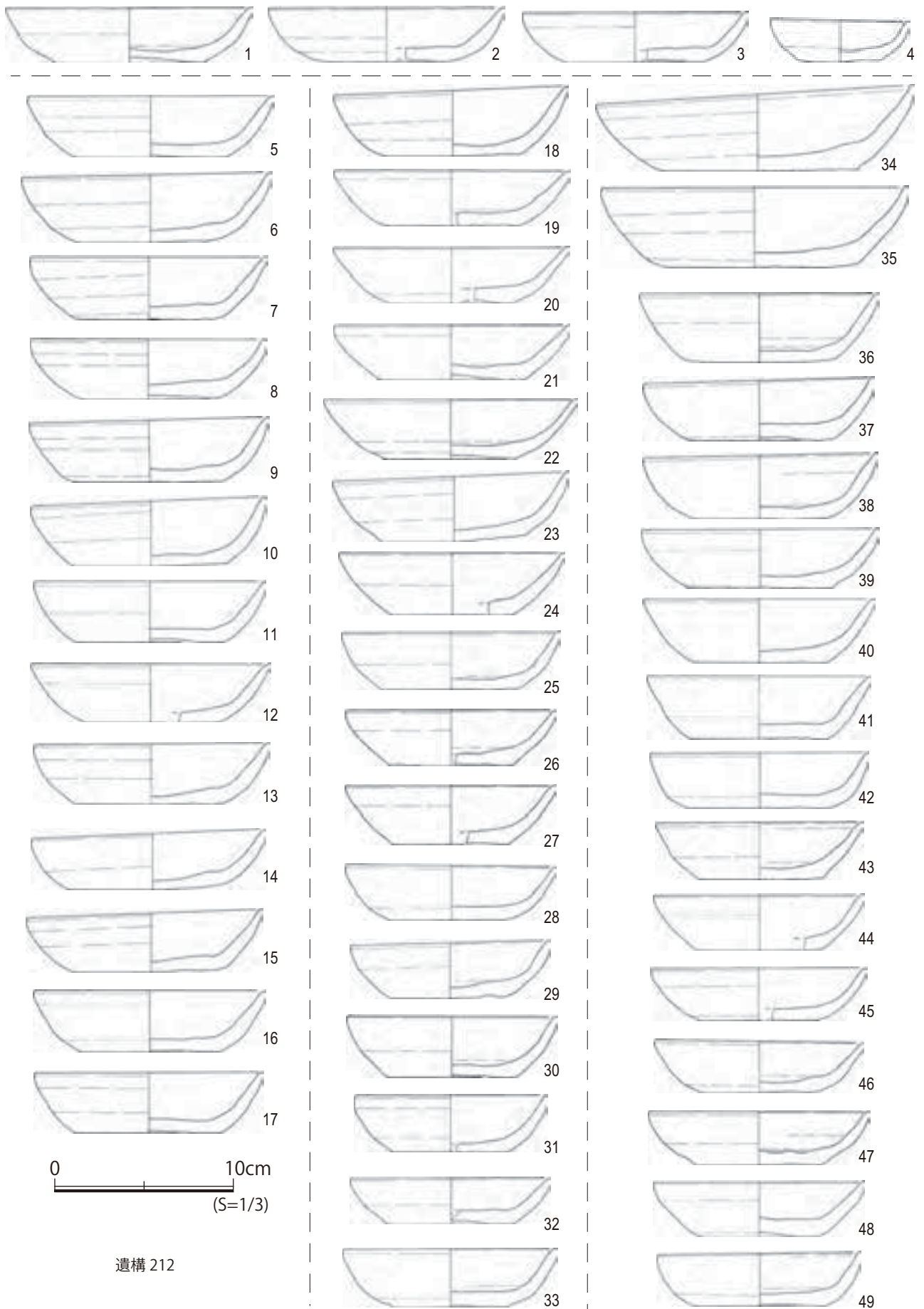


图 26 第 4a 面遺構出土遺物 (1)

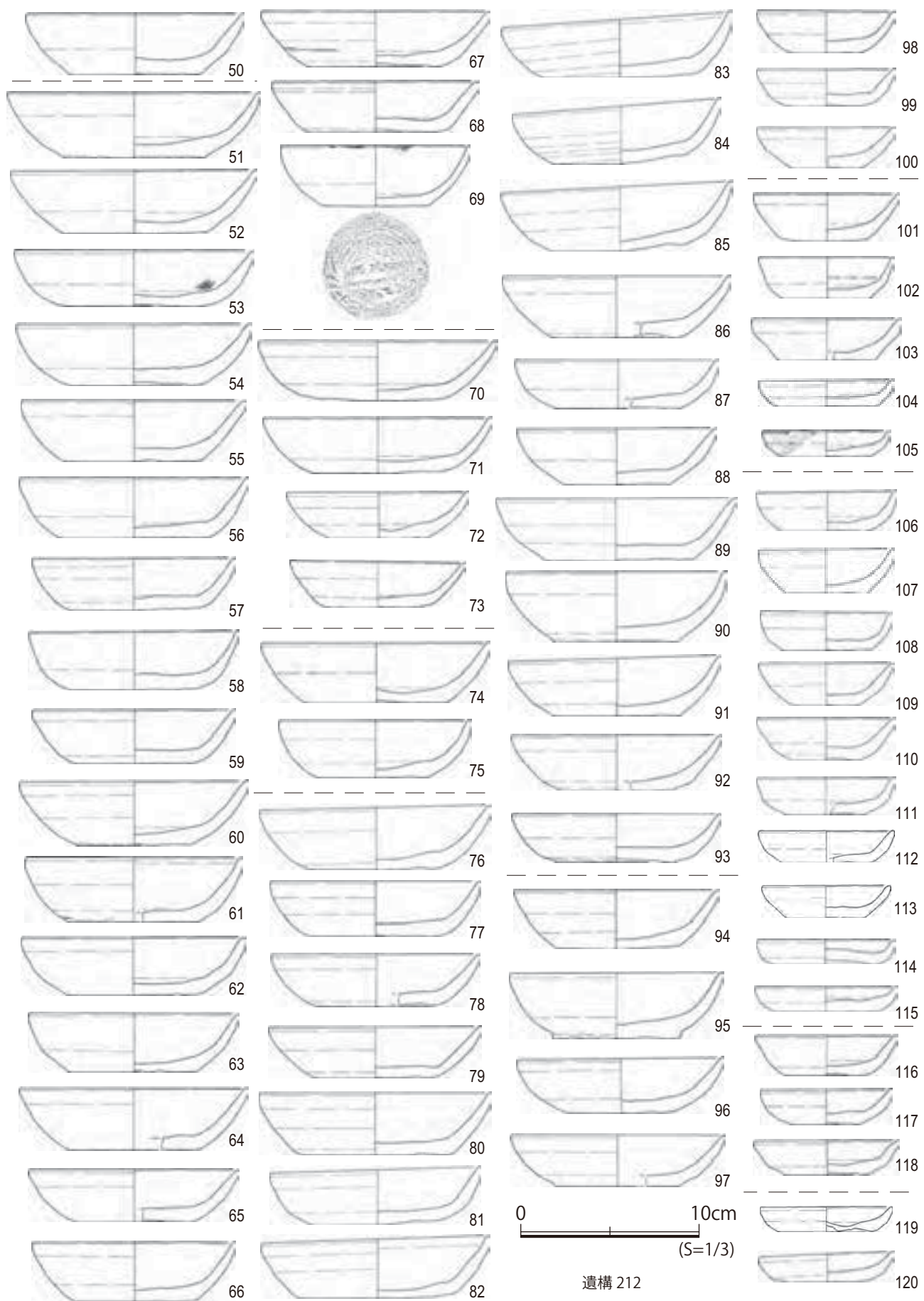
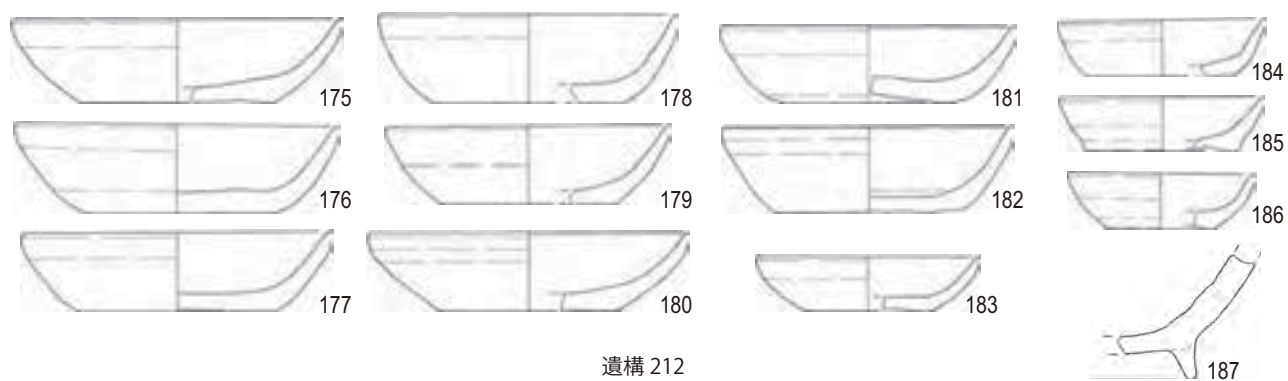
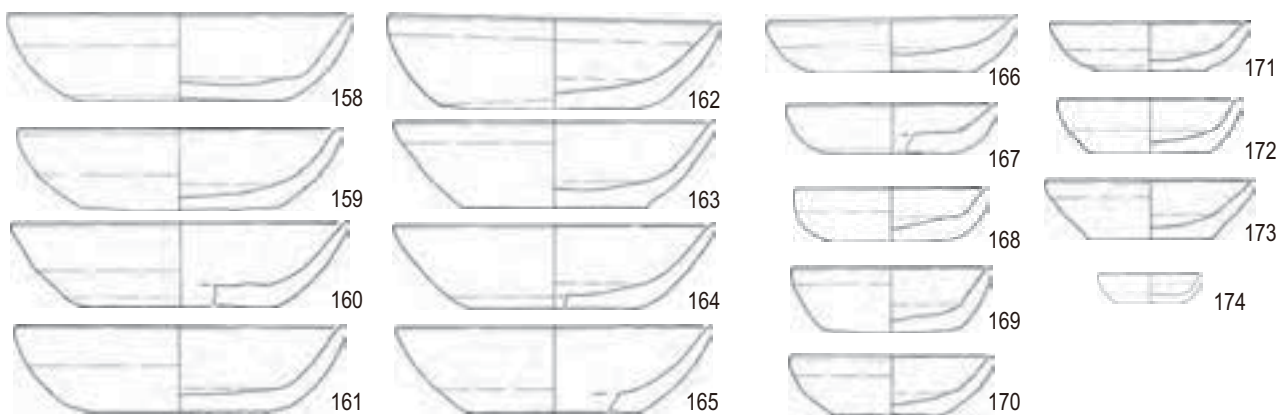
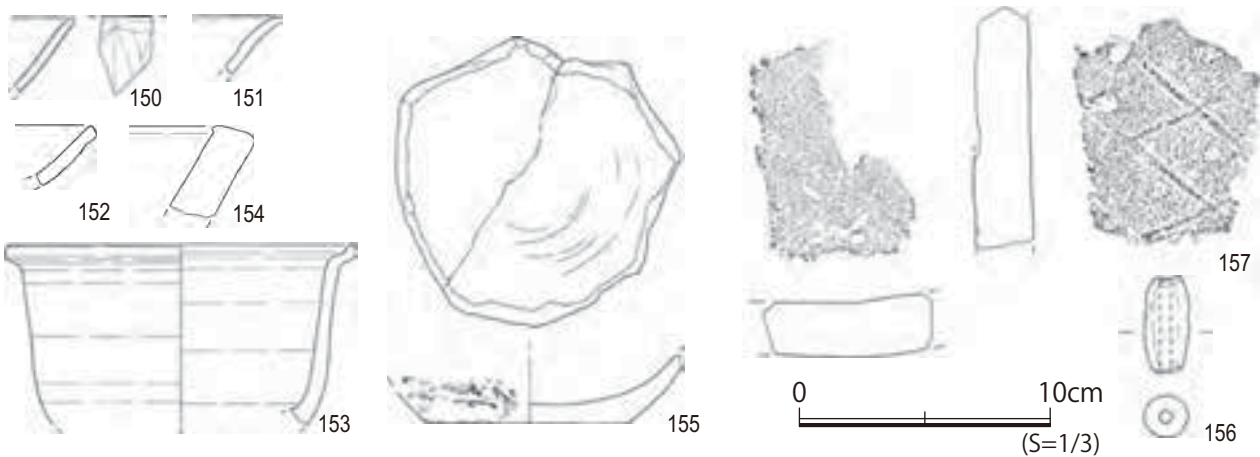
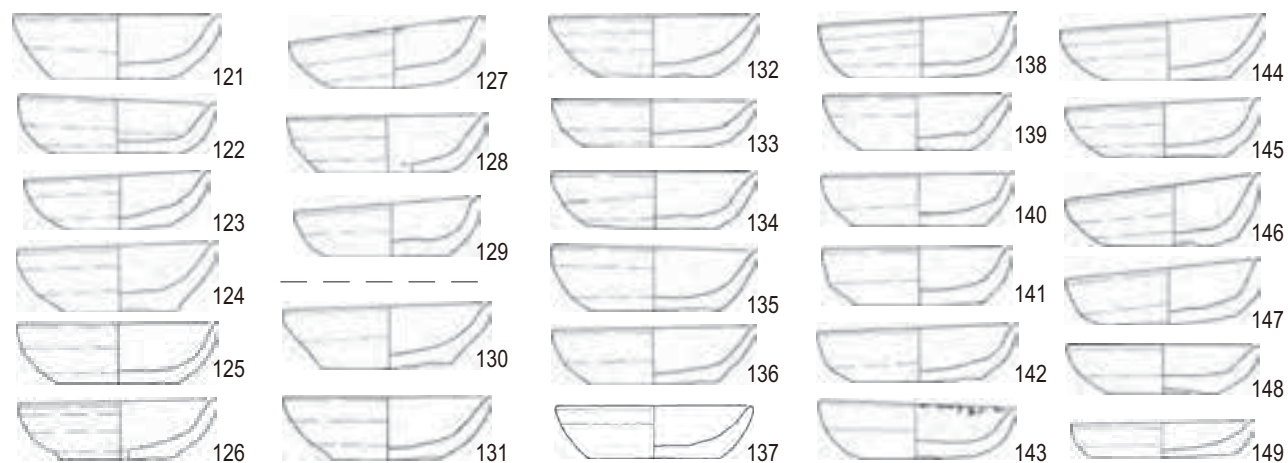


图 27 第 4a 面遺構出土遺物 (2)



遺構 212

图 28 第 4a 面遺構出土遺物 (3)

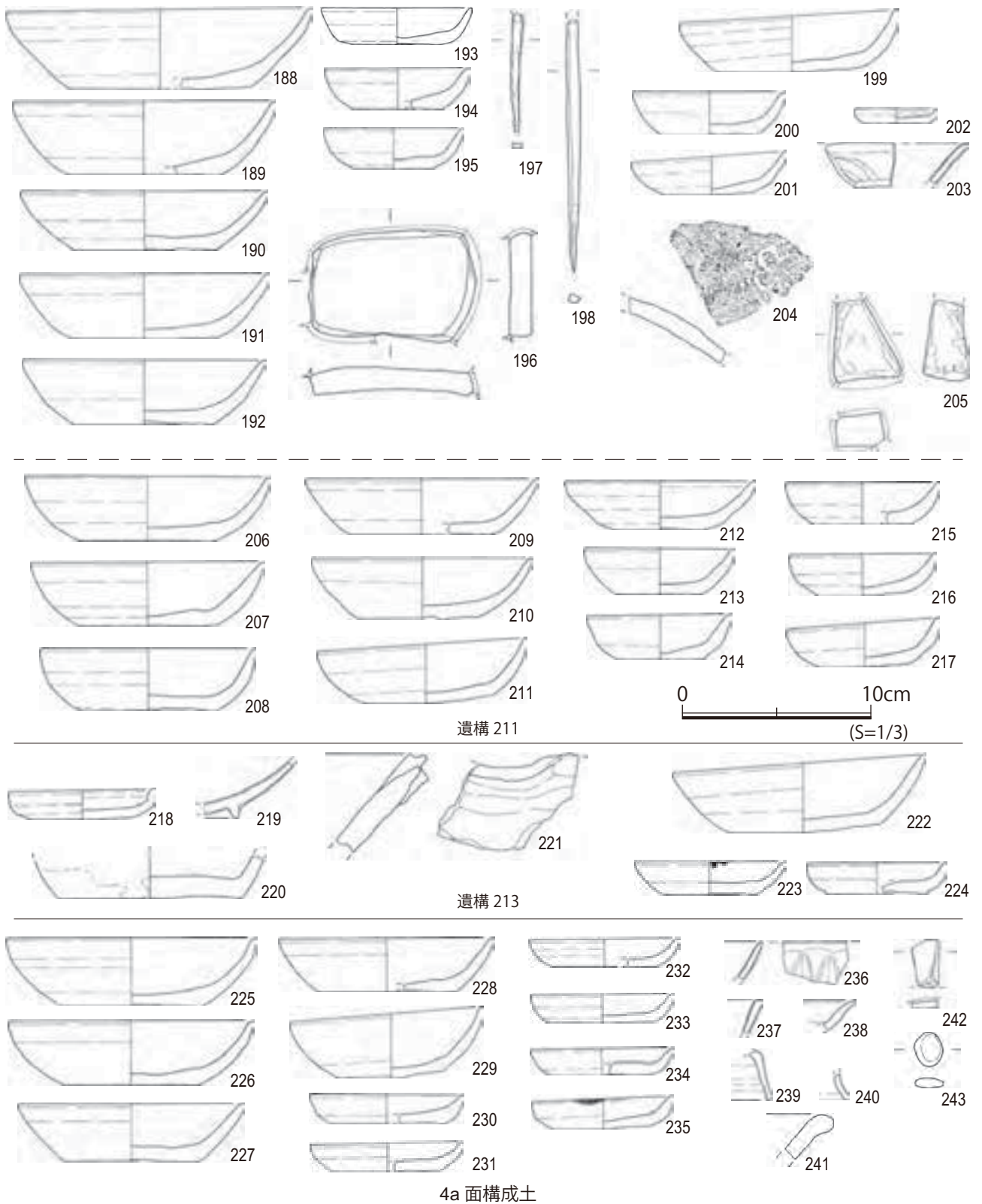


図 29 第 4a 面出土遺物

土のかわらけ。76、80、85、89 は大型。それ以外は中型。94 ~ 97 は溝最下層出土のかわらけで中型。
 98 ~ 100 は溝北側出土の小型かわらけ。101 ~ 105 は 2 群出土の小型かわらけ。106 ~ 115 は中程出土の小型かわらけ。116 ~ 118 は 3 群出土の小型かわらけ。119 ~ 120 は 4 群出土の小型かわらけ。121 ~ 149 は 5 群出土の小型かわらけ。150 は青磁蓮弁文碗。151 は白磁口元皿。152 は瀬戸卸皿、153 は瀬

戸柄付片口、154 は土器質火鉢。155 は打ち欠きのあるかわらけ片。156 は土鍾。157 は平瓦。

下層出土遺物。158～174 は北側の下層出土。158～162 は大型、163～165 は中型、166～174 は小型。175～187 は最下層から出土した遺物。175～176 は大型かわらけ、177～182 は中型かわらけ、183～186 は小型かわらけ。187 は常滑片口鉢Ⅰ類。

南部の上層出土遺物。188 は特大かわらけ。189～192 は大型かわらけ。193～1945 は小型かわらけ。196 は摺り常滑。197 は鉄釘。198 は木製箸。南部下層遺物。199 は中型かわらけ。200～201 は小型かわらけ。202 は極小かわらけ。203 は青磁劃花文碗、204 は常滑甕の破片でスタンプあり。205 は砥石。

遺構 213 (図 24)

溝。遺構覆土：細分はセクション図を参照。出土遺物 (図 29)：218 はかわらけ。219 は青磁碗。220 は瀬戸折縁中皿。221 は常滑片口鉢Ⅱ類。222～224 は下層出土のかわらけ。222 は中型。223～224 は小型。

4a 面構成土出土遺物 (図 29)

4a 面より 5 面検出までの間の堆積より出土した遺物。225～235 はかわらけ。225～226 は大型。227～229 は中型。230～235 は小型。236 は青磁蓮弁文碗。237 は青磁折腰皿。238 は白磁口兀皿。239、240 は青白磁梅瓶の蓋。241 は常滑片口鉢Ⅰ類。242 は砥石、243 は碁石。

第 9 節 第 5 面の遺構・遺物

第 5 面は破碎泥岩を強固に敷き詰めた地業面であり、その高さはおよそ海拔 21.14～21.22 m である。その中央に土を突き固め泥岩塊を表面に敷いた構築物があり、その頂部は海拔 21.37～21.42m となる。この構築物の機能については断定できないが、上層では存在しないやや特殊な遺構である。ほかに遺構はピット 23 穴・土坑 10 基、溝 2 条を検出した。ピットはあるものの掘立柱建物址の存在は確定できない。遺構の切りあいより第 5 面で発見した遺構は、少なくとも 2 時期の時間差があると考えられる。

遺物は、かわらけ・白かわらけ・青磁・白磁・青白磁・常滑・瀬戸・吉備系土師器・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・羽口・銭・自然遺物が出土している。

ピット

およそ円形、楕円形、隅丸方形を呈する。覆土は暗褐色粘質土のものは、締りややあり。泥岩ほぼなく、炭化物やや多い。かわらけ片少量含む (遺構 217～219、232、234)。暗赤褐色粘質土のものは締まりあり。泥岩粒少、炭化物多く、かわらけ片少量含む (遺構遺構 220、223、229、233)。また暗灰色粘質土のものは締まり弱く、その他の混入物は稀 (遺構 192、193、235)。

遺構 214 (図 30)

楕円形を呈するピット。遺構覆土：暗赤褐色粘質土。粘性あり。締り弱い。泥岩なし。炭化物、かわらけ片多い。出土遺物 (図 32)：1～2 は中型かわらけ。3～4 は小型かわらけ。

遺構 215 (図 30)

楕円形を呈するピット。遺構覆土：赤褐色粘質土。粘性、締りあり。炭化物少。出土遺物 (図 32)：5 はかわらけ。

遺構	色調	覆土	上端 レベル	最大 上端 径	上端 レベル	遺構	色調	覆土	上端 レベル	最大 上端 径	上端 レベル	遺構	色調	覆土	上端 レベル	最大 上端 径	上端 レベル	遺構	色調	覆土	上端 レベル	最大 上端 径	上端 レベル
214	暗赤褐色		21.27	0.27	20.94	223	赤褐色		21.22	0.4	21.06	232	暗褐色		21.43	0.26	21.07	241	赤褐色		21.12	0.53	21.01
215	赤褐色		21.42	0.32	21.23	224	暗褐色		21.15	0.32	21.02	233	暗赤褐色		21.82	0.38	21.07	242	暗赤褐色		21.09	0.69	21.06
216			21.44	0.28	21.35	225	暗赤褐色		21.17	0.42	21.05	234	暗褐色		21.12	0.35	21.07	243	黒褐色		20.88	0.53	20.82
217	暗褐色		21.14	0.27	21.05	226	暗茶褐色		21.16	0.34	20.99	235	暗灰色		20.88	0.13	20.84	244	暗赤褐色		21.16	0.59	21
218	暗褐色					227			21.19	0.42	21	236						245	暗赤褐色		21.14	0.58	21.11
219	暗褐色		21.16	0.26	21.08	228	暗赤褐色		21.13	0.24	20.93	237			20.96	0.71	20.89	246			21.33	1.02	20.02
220	暗赤褐色		21.19	0.21	21.03	229	暗赤褐色		21.04	0.31	20.93	238						247			21.09	幅 0.48	20.87
221	暗赤褐色		21.17	0.3	21.05	230			-	-	-	239						248			21.15	幅 1.01	20.76
222			21.2	0.44	21.04	231			-	-	-	240						249			20.8	0.97	-

遺構 221 (図 30)

不整形を呈するピット。遺構覆土：暗赤褐色粘質土。粘性あり。締りややあり。泥岩粒少。炭化物多い。かわらけ片少。出土遺物 (図 32)：6 はかわらけ。

遺構 224 (図 30)

不整形を呈するピット。遺構覆土：暗褐色粘質土。粘性あり。締り弱い。炭化物やや多い。かわらけ片稀。出土遺物 (図 32)：7 は中型かわらけ。8 は小型かわらけ。

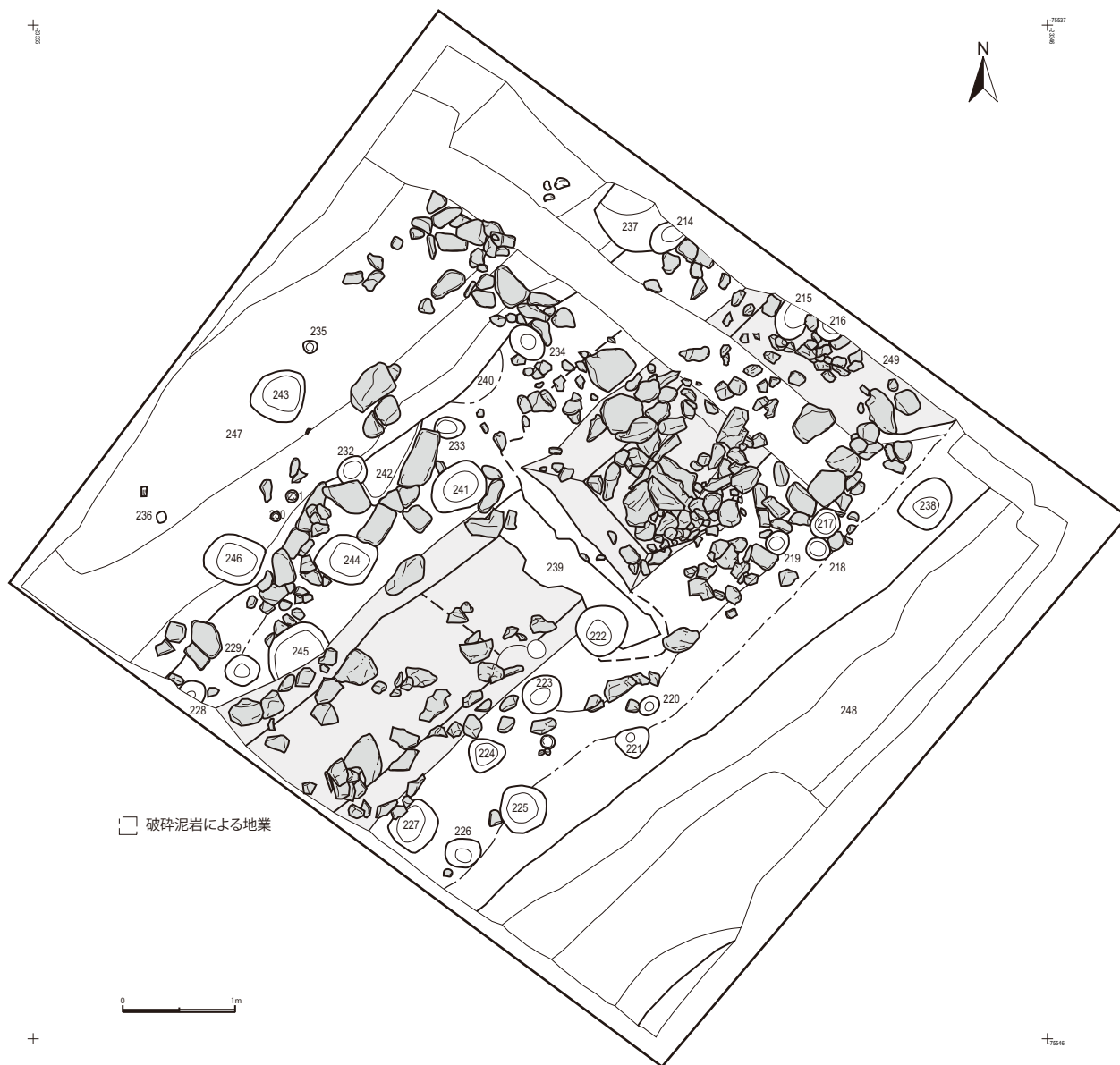
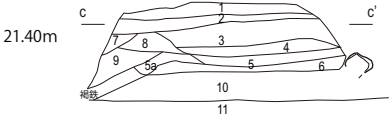
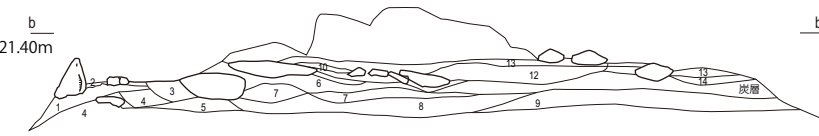
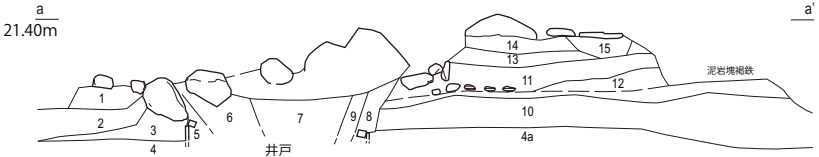


図 30 第 5 面全体図 (S=1/60)



- 1 暗赤褐色粘質土 締まりあり、炭化物やや多い、相鉄。
- 2 暗赤褐色粘質土 締まりあり、炭化物少、相鉄。
- 3 黄赤褐色粘質土 締まり強い、炭化物種、相鉄。
- 4 青灰色粘質土 締まりあり、泥岩塊多い、炭化物種。
- 4a 赤褐色粘質土 締まりややあり、泥岩塊多し、炭化物少。
- 5 黒褐色粘質土 締まり弱い、炭化物多し、かわらけやや多し。
- 6 暗褐色粘質土 締まり弱い、砂岩片、炭化物多し、かわらけ種。
- 7 暗黄褐色粘質土 締まりややあり、泥岩塊多し、炭化物少、かわらけ種。
- 8 赤褐色粘質土 締まりあり、炭化物少、相鉄層。
- 9 暗赤褐色粘質土 締まり弱い、泥岩塊少、炭化物多し、相鉄。
- 10 暗褐色粘質土 締まりあり、泥岩塊種、炭化物少。
- 11 暗赤褐色粘質土 締まりあり、泥岩塊、炭化物やや多い、相鉄多し。
- 12 暗褐色粘質土 締まりややあり、泥岩層。
- 13 暗赤褐色粘質土 締まりややあり、泥岩層。
- 14 暗赤褐色粘質土 締まりあり、泥岩塊多し、炭化物やや多い、かわらけ少。
- 15 暗赤褐色粘質土 締まりあり、泥岩塊、炭化物少。

- 1 暗赤褐色粘質土 締まりあり、泥岩塊多し、炭化物多し。
- 2 暗灰色砂質土 粘性なし、締まり弱い、砂層。
- 3 暗褐色粘質土 締まりあり、炭化物多し。
- 4 暗灰色粘質土 締まりなし、炭化物少、相鉄。
- 5 赤褐色 相鉄 締まり強い、炭化物少。
- 6 暗赤褐色粘質土 締まり弱い、炭化物多し。
- 7 黒赤色 相鉄 締まり強い。
- 8 暗褐色粘質土 締まり弱い、炭化物やや多し。
- 9 暗赤褐色粘質土 締まり強い、相鉄層。
- 10 黒青灰色砂質土 粘性なし、締まり弱い、炭化物少。
- 11 暗赤褐色粘質土 締まりあり、泥岩塊、炭化物少。
- 12 明灰色粘質土 泥岩層塊と砂。
- 13 暗赤褐色粘質土 粘性弱い、締まりあり、砂層、炭化物、かわらけ少。
- 14 明赤褐色粘質土 締まり弱い。

- 1 暗褐色粘砂質土 締まりあり、泥岩粒やや多い、岩粒多し、炭化物、かわらけ片少。
- 2 赤褐色粘質土 締まりあり、泥岩粒多し、炭化物、かわらけ片少。
- 3 暗赤褐色粘砂質土 締まりあり、泥岩粒、岩粒、炭化物多し。
- 4 暗赤褐色粘砂質土 締まりあり、泥岩粒やや多し、炭化物少。
- 5 青灰色粘砂質土 粘性少、締まりあり、岩粒多し。
- 5a 赤褐色粘質土 締まりややあり、泥岩塊多し、炭化物多し、相鉄多し。
- 6 赤褐色粘質土 締まりややあり、泥岩塊やや多し、岩粒多し。
- 7 赤褐色粘質土 締まりややあり、泥岩塊少。
- 8 赤褐色粘質土 締まりあり、泥岩粒やや少。
- 9 黒赤褐色粘質土 締まりあり、相鉄層。
- 10 青灰色砂質土 粘性少、締まりあり、泥岩塊、炭化物多し。
- 11 暗灰色粘質土 締まりあり、炭化物やや多い、かわらけ片少。粘性高い。
- 中 赤褐色粘質土 締まりあり、泥岩粒、炭化物多し、かわらけ片少。21cに近い。

図 31 遺構 249 (S=1/30)

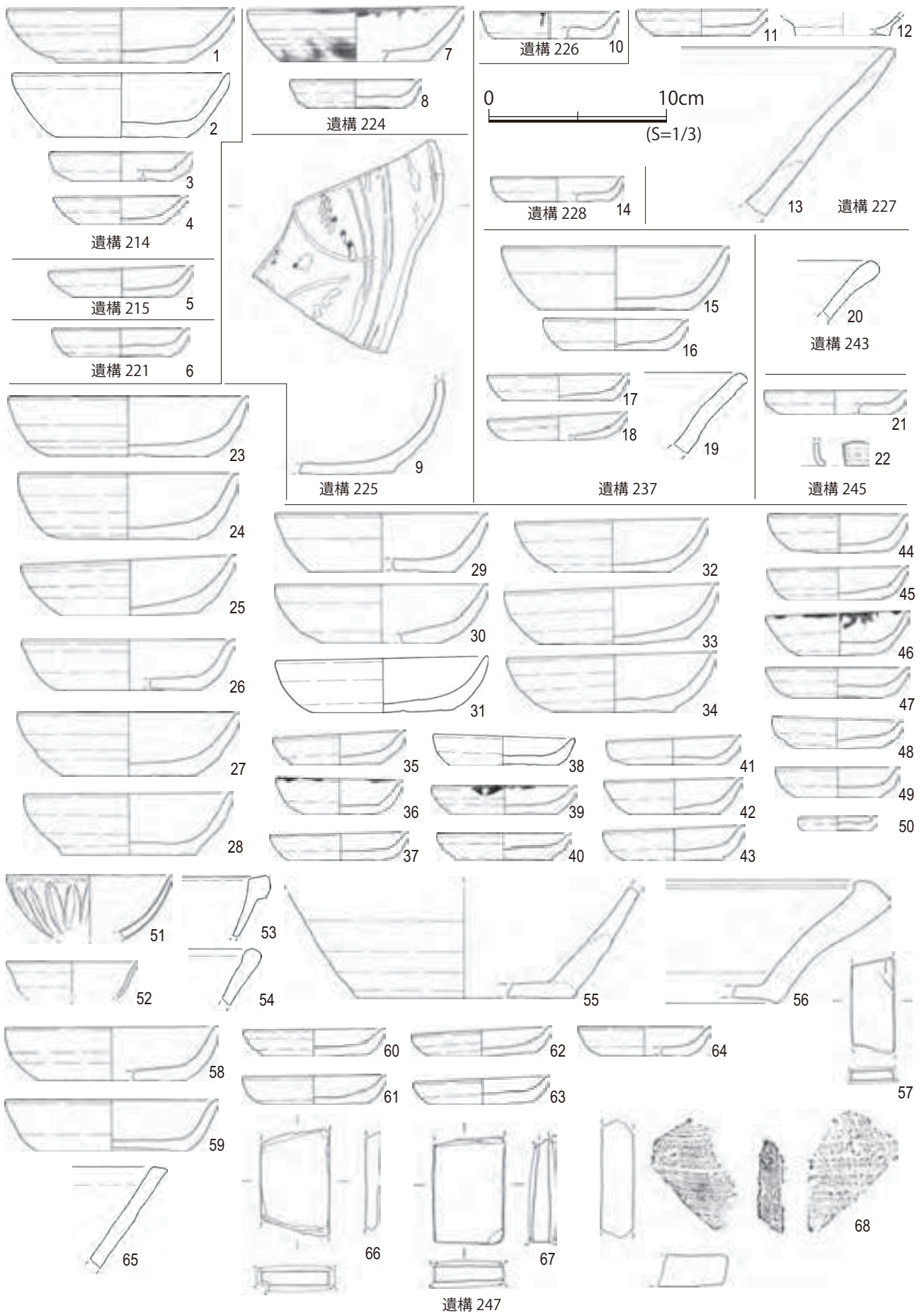


图 32 第 5 面遺構出土遺物 (1)

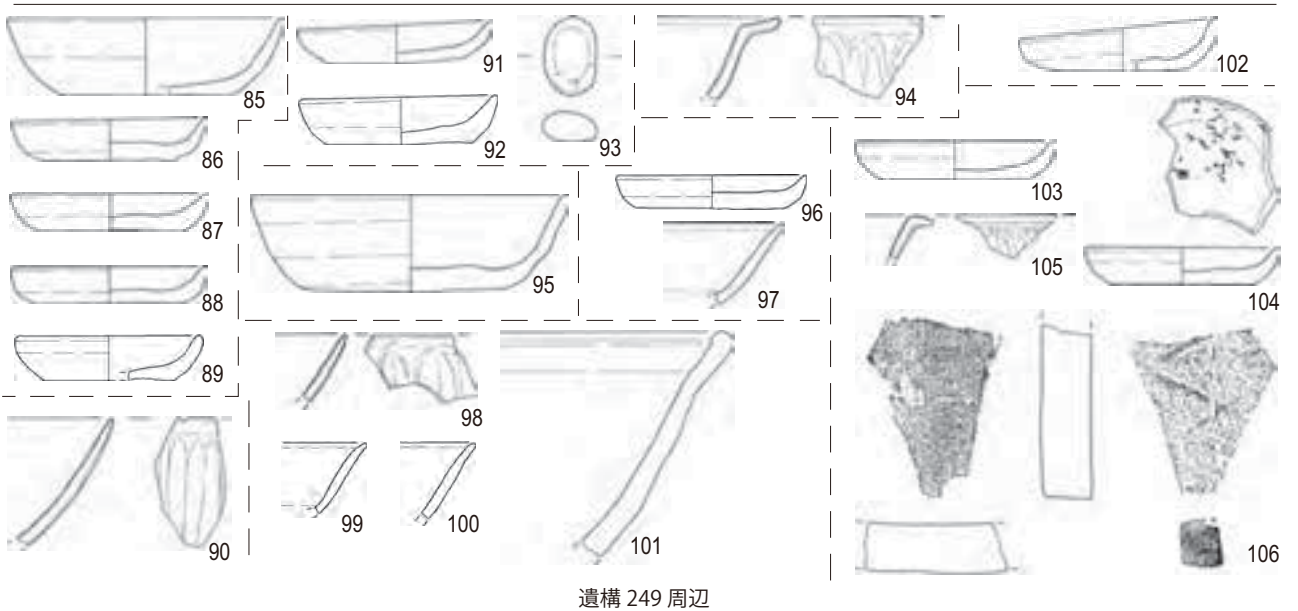
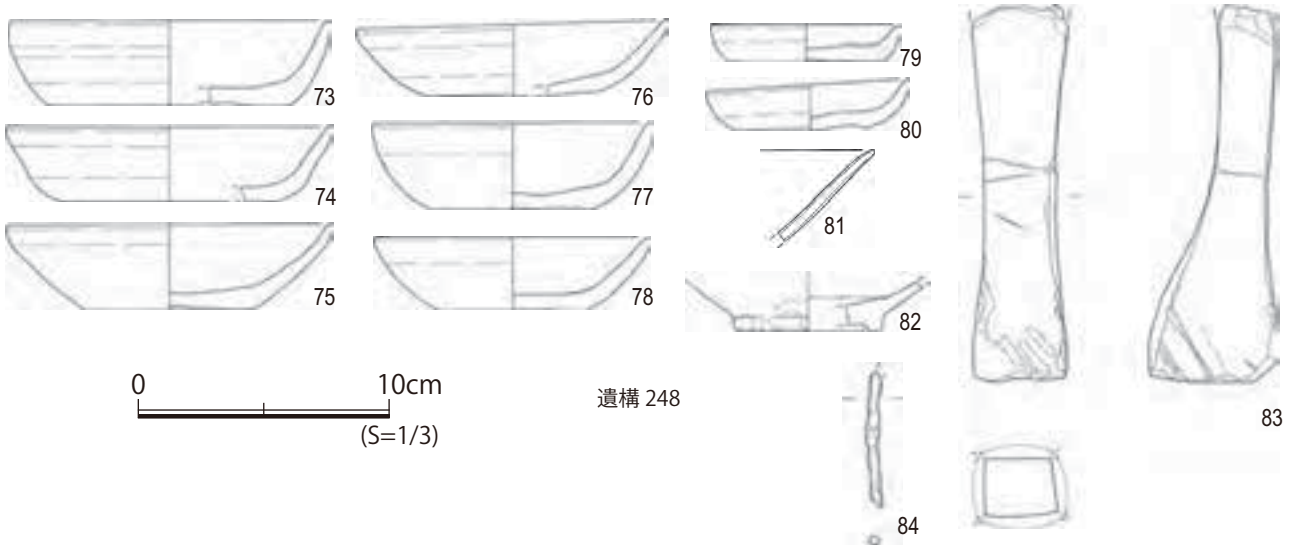
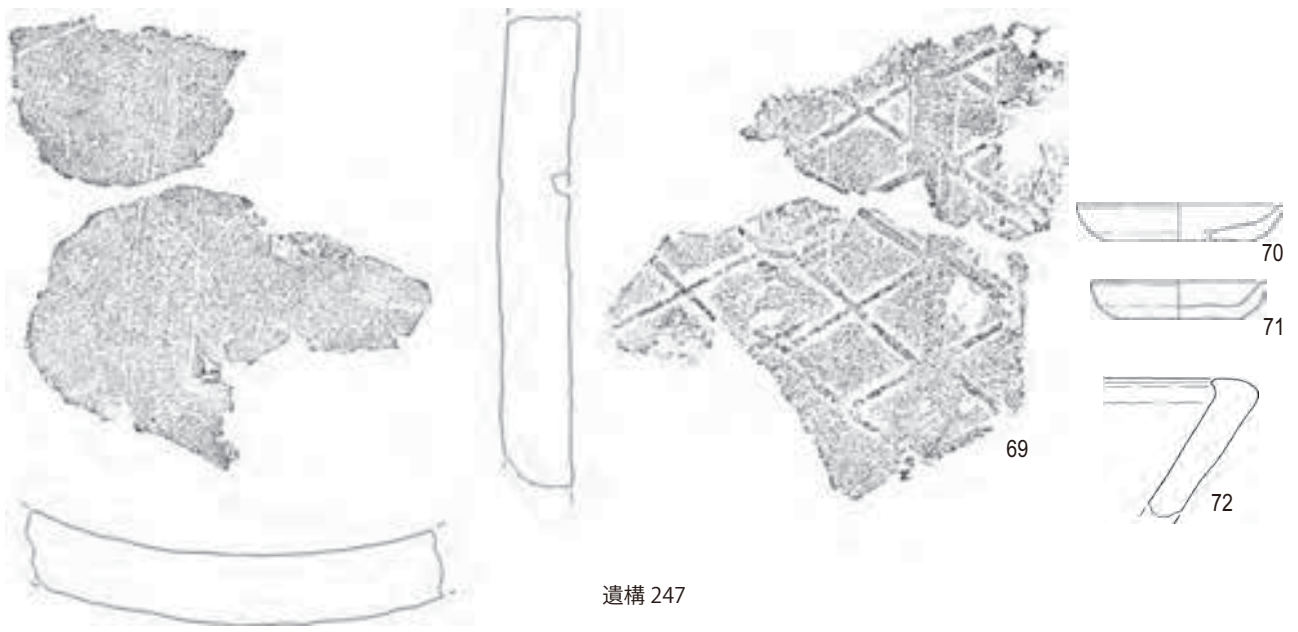


图 33 第 5 面遺構出土遺物 (2)

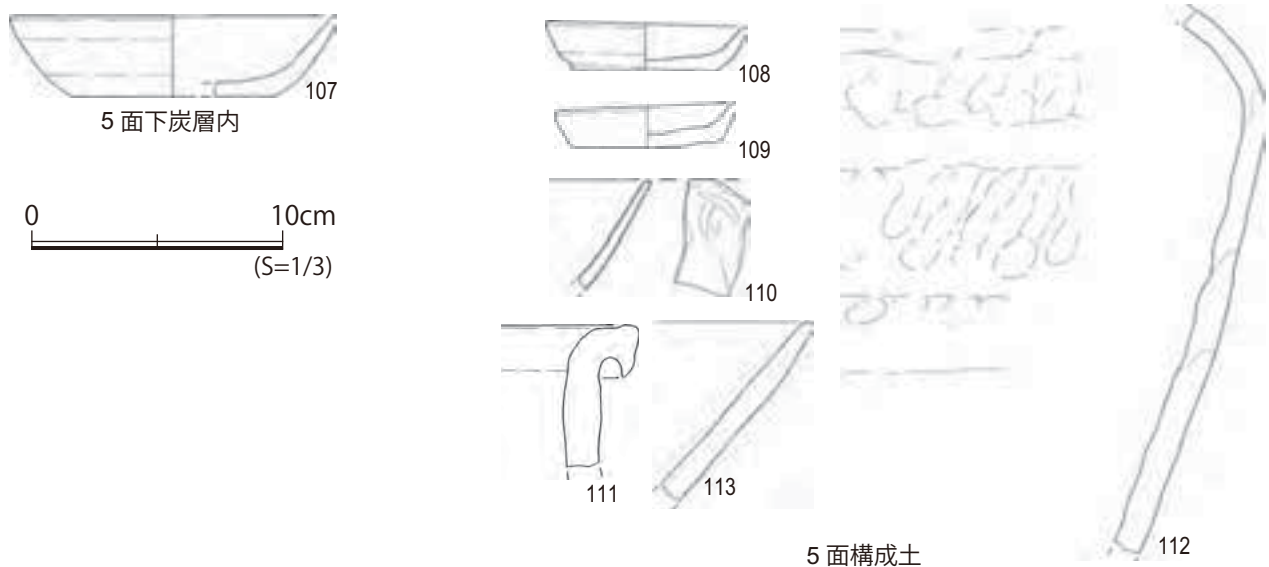


図 34 5面出土遺物

遺構 225 (図 30)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗赤褐色粘質土。粘性あり。縮りやや弱い。泥岩少。炭化物やや多い。出土遺物 (図 32)：9 は黄釉鉄絵盤。

遺構 226 (図 30)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗茶褐色粘質土。粘性あり。縮りやや弱い。泥岩塊少。炭化物やや多い。出土遺物 (図 32)：10 はかわらけ。

遺構 227 (図 30)

隅丸方形を呈するピット。遺構覆土：出土遺物 (図 32)：11 はかわらけ。12 は青白磁の合子か。13 は常滑片口鉢Ⅱ類。

遺構 228 (図 30)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗赤褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。泥岩なし。炭化物多い。かわらけ片少。出土遺物 (図 32)：14 はかわらけ。

土坑

円形、隅丸方形を呈し、覆土は暗赤褐色粘質土。縮まりあり。泥岩粒少、炭化物多く、かわらけ片やや多く含む (遺構 241、242、244)。

遺構 237 (図 30)

円形を呈する土坑。遺構覆土：泥岩炭化物。かわらけ片。出土遺物 (図 32)：15 は中型かわらけ。16～18 は小型かわらけ。19 は常滑片口鉢Ⅰ類。

遺構 243 (図 30)

楕円形を呈する土坑。遺構覆土：黒褐色粘質土。粘性あり。縮りなし。泥岩なし。炭化物多い。かわらけ片稀。炭層。出土遺物 (図 32)：20 は常滑片口鉢Ⅰ類。

遺構 245 (図 30)

隅丸方形を呈する土坑。遺構覆土：暗赤褐色粘質土。粘性あり。縮りややあり。炭化物多い。炭層。

出土遺物（図 32）：21 はかわらけ。22 は青白磁梅瓶蓋か。

溝状遺構

遺構 247（図 30）

調査区西側を走る溝。4a 面の遺構 212 はこの溝を掘りなおしたものと思われる。遺構覆土：セクション図参照。出土遺物（図 32、33）：23～57 は上層出土遺物。23 は大型かわらけ、24～34 は中型かわらけ、35～49 は小型かわらけ、50 は極小かわらけ。51 は青磁蓮弁文碗。52 は産地不明。53 は黄釉鉄絵盤。54～55 は常滑片口鉢 I 類。23 は大型、24～28 は中型、29～41 は小型。42 は瓦質火鉢。43～44 は砥石。45 は平瓦。58～69 は下層出土遺物。70～72 は最下層出土遺物。70～71 はかわらけ。72 は瓦質火鉢。

遺構 248（図 30）

調査区東側を走る溝。石組の高台に並行するやや大規模な溝。調査区範囲内では流路が変わることはない。石組との関連性は難しいが、相互に関連があるものと思われる。遺構覆土：セクション図参照。出土遺物（図 33）：73～80 はかわらけ。81 は青磁無文碗か。82 は白磁の玉縁碗か。83 は砥石。84 は鉄釘。

石組遺構

遺構 249（図 30、31）

調査区の中央を東北から西南方向に走る。調査区外にさらに伸びているが、隣接調査地点ではその延長の構築物を検出していないため。どこかで曲がるか止まると思われる。遺構は一部を立ち割を入れて確認したのみであるため、全体の構造については未確認な点もあるが、当初面的に破碎泥岩を密に敷き詰めて強固な地業面を構築したあと、薄い層状に砂混じりの土を積み上げている。土には褐鉄分が多く含まれているが、最初から意図して混入したものかどうかは定かではない。そして、その側面と上面に人頭台の泥岩を中心として石を敷き詰めたような構造をとる。こうした構造などから、築地の基礎であったと推定されるが、面が上層からの遺構にかなり削平されていることや調査範囲の狭さなどから、さほど明確にはし得ない。

石組遺構周辺から出土した遺物を掲載しておく。出土遺物（図 33）：85～95 は石の上面より出土。85 は中型かわらけ。86～89 は小型かわらけ。90 は青磁鎬蓮弁文碗。91～92 は中央の石積み上より出土で、小型かわらけ。93 は玉石か。94 は青磁蓮弁文折鉢。95 以降は石敷の下より出土。95、96 はかわらけ。98 は青磁鎬蓮弁文碗。97、99、100 は白磁口瓦皿。101 は常滑片口鉢 I 類。102 はかわらけで北側出土。103～106 は石下の赤色堆積土内からの出土品。103、104 は小型かわらけ。105 は青磁折縁鉢。106 は平瓦。

5 面構成土出土遺物（図 34）

5 面より確認のために入れたトレンチよりの出土遺物。112 は 5 面石敷面よりやや下の一部に広がる炭層から出土したかわらけ。113 以降は 5 面以下の土層からの出土品。113～114 はかわらけ。115 は青磁鎬蓮弁文碗。116 は常滑広口壺。117 は常滑広口壺か。118 は常滑片口鉢 II 類。

第10節 第6面の遺構・遺物

5面地業および石組遺構は調査期間の制限などもあり、以下の状況についてはほとんど確認できていない。しかし、北部では石組の下から井戸を検出したため、井戸枠およびその周囲のみを一部掘り下げた。井戸は上層の泥岩によって完全に蓋をされた状況であったため、それに先立つ時期の遺構ととらえ、

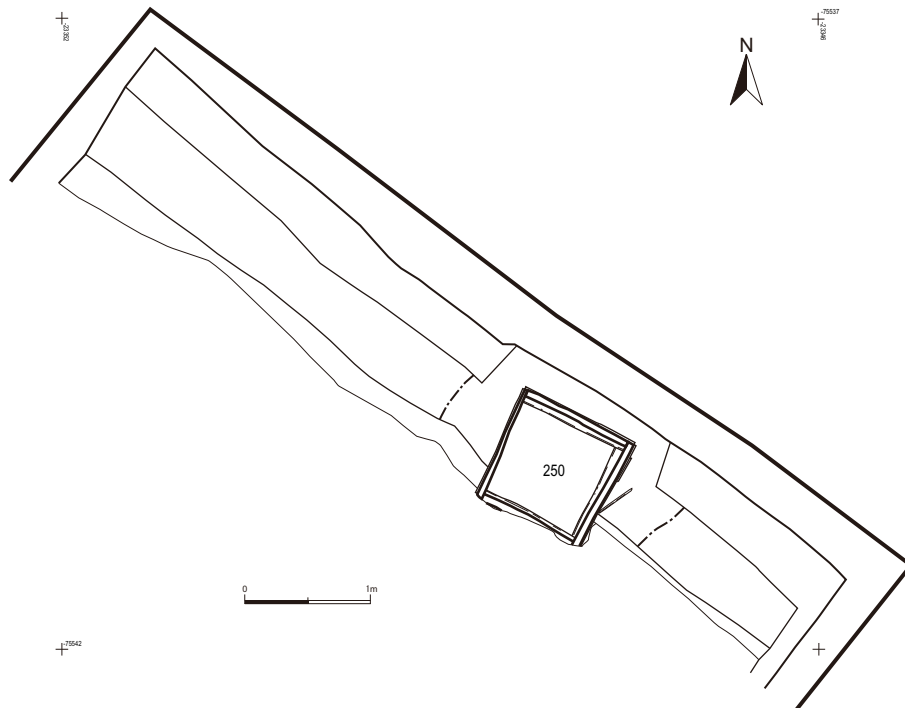


図35 第6面全体図 (S=1/60)

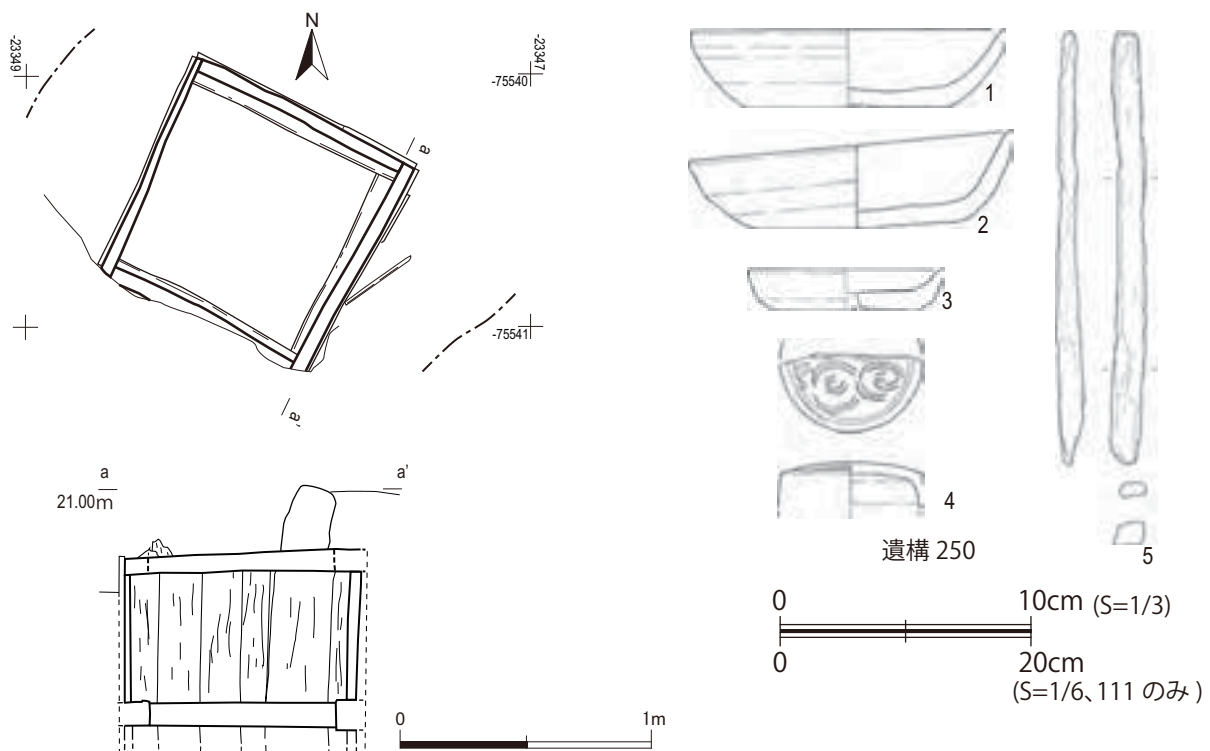


図36 遺構249および出土遺物

第6面に属するものとした。

遺構 250 (図 35、36)

井戸。調査区の北側で検出。横棧立板組の形の井戸。5面の石積遺構(遺構249)構築の際に完全に埋められて廃棄されている。井戸枠の検出面を一部のみ掘り下げたが、廃土処理や調査期間の制限によりそこで調査を終了した。井戸の周辺には遺構らしき痕跡は他に見られず、井戸の掘り方自体も明瞭には検出することができなかった。井戸の内部は大型の泥岩塊が大量に廃棄された状態であり、作業の危険性もあって井戸の底面を検出するには至っていない。泥岩塊や土の間から少量遺物が出土している。出土遺物(図36): 107~109はかわらけ。110は青白磁の梅瓶の蓋。111は井戸枠の東隣から検出した棒状木製品で用途は不明。

第11節 その他の遺物

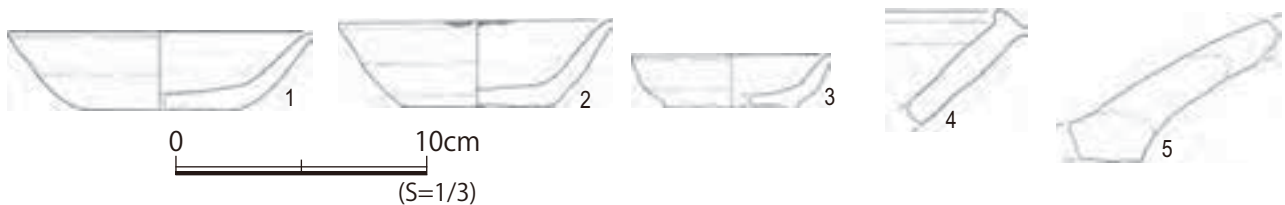


図 37 試掘時・攪乱出土中世遺物

試掘や攪乱より出土した中世の遺物を掲示しておく(図36)。1~3はかわらけ。4は常滑片口鉢Ⅱ類。5は常滑甕底部片。

第三章 考察とまとめ

中世の遺構面が6面検出され、それぞれに建造物が確認された。整地層は第1面、第2面はかなり泥岩を多用してしっかりとした面を構築している。6面以下は黒色に近い粘性の高い土が深く続いており、遺構などは検出することがなく、中世基盤層と判断した。

第1面

第1面は小粒の泥岩碎片を多く含む暗褐色粘質土の地業面である。近現代の削平により良好に残存しているわけではないが、遺構が確認されたため、遺構面として取り扱う。海拔21.69～21.85 mである。第1面での検出遺構は切り合いが確認されていない。遺構はピット11穴・土坑2基、溝1条である。西北側の遺構はおそらく近現代の墓壙と考えられる。ピットや土坑は散漫であるが、西側には大型の溝が検出された。半分以上は調査区外にあたり、規模などは不明瞭である。方向としては東北－西南にむけて走る。次年度に行った隣接する調査地点でも類似する溝が確認されており、位置、方向的に同一の遺構であると思われる。中央付近は大型の泥岩塊による地業が見えているが、第2面として扱った。

遺物はかわらけ・舶載青磁・国産陶磁器が主体であり、瓦質火鉢、風炉、銅製品、鉄釘、石製品なども一定数みられる。1面の時期は15世紀中頃に属すると考えられる。

第2面

第2面は小粒の泥岩碎片を多く含む暗褐色粘質土の地業面であり、検出レベルはおよそ海拔21.63～21.76 mである。調査区西壁側は1面の溝によって削平されてしまっている。遺構はピット20穴・土坑6基である。掘立柱建物址などのプランは不明瞭である。遺構の切りあいより第2面で発見した遺構は、少なくとも2時期の時間差があると考えられる。

中央北半は大型の泥岩塊を密に敷き詰めた平面が構築されており、西側はやや敷き詰めが弱いが続いてみられる。東北部は試掘坑によって削平されている部分もあるが、基本的には密な泥岩地業が存在していたと思われる。南側には明瞭な泥岩地業が見られないが、後世の削平をうけていると思われ、確実ではない。下の面の状況から、地面の沈みこみを抑えるために大型の泥岩で強化したものである可能性が高いのではないかと推定される。

遺物はかわらけが主体で、国産陶磁器、瓦質火鉢、鉄釘などが少数見られるのみである。2面の時期は出土遺物より15世紀前半と考えられる。

第2a面

第2a面は第2面の泥岩地業層を取り除いた面であり、残存範囲は調査区中央部から東の南半で、確認レベルはおよそ海拔約21.63～21.74 mである。泥岩の下には砂が薄く広がっており、さらに中央分には大型の泥岩が列状に2列敷き詰められたような状態で検出した。ただし、機能的な構築物かどうかは不明である。東側は小型の泥岩塊をまばらに敷き詰めているが、さほど強固ではない。遺構はピット8穴を確認したのみで、建物址の存在が推定できるが明確なプランは確認できていない。

遺物は、かわらけ、舶載陶磁器・国産陶磁器、鉄くぎなどが少数出土したのみである。2a面の時期はおおむね15世紀前半と考えられる。

第3面

第3面は第2a面を構成する泥岩塊や砂層を取り除いた状態で、およそ海拔21.61～21.69mである。西南部とそれ以外の土の差が明瞭であり、全体的に炭化物が多めに混じった軽微な泥岩地業土となる。西南部は黄褐色土によって構成されており、判断が難しいが、下層での発掘状況などを勘案して、第4面に属すると判断した。したがって第3面に相当するものはそれ以外の区域となる。

また第3面については炭化物を多量に含む暗褐色粘質土が薄く堆積している状況が確認されたため、それぞれ第3a面、第3b面とした。

第3面は、遺構はピット17穴・土坑4基、溝1条である。掘立柱建物址などの明確なプランは復元できなかった。主体は炭化物が大量に混入した暗褐色土であり、大型の泥岩塊もまばらに見られるが不規則である。西南部では大型の泥岩塊が東北-西南方向にやや列状を呈して配置されていた。そこより西は褐色粘質土の地業であり、西側とは地業の施し方に差が見られる。北がほぼ調査区の壁に沿って東西方向にやや大型の溝が1条確認された。第3面で発見した遺構は、切り合いより少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

遺物はかわらけが主体で、舶載陶磁器・国産陶磁器、土製品、瓦質火鉢、銅銭、鉄釘などが少量みられる。

第3a面はほぼ炭化物で構成された土を含む面である。一部細かい破碎泥岩を面的に敷き詰めた個所が見られ、生活面であると判断した。検出レベルはおよそ海拔21.54～21.62mである。遺構はピット22穴・土坑9基、溝2条が検出され、切り合いより少なくとも3時期の時間差があると考えられる。溝状遺構は中央付近で小規模なものが1条あるが両端は不明であり、水路的な機能はないと思われる。東南部にはやや浅いが幅のある溝が検出され、溝の東側はやはり面的に破碎した泥岩を薄く敷き詰めている。溝はゆるいカーブを描いて湾曲し、ほとんどは調査区外にあたるため、全体像は不明である。湾曲部には西方向へ延びる別の溝が分岐している。

遺物は、かわらけが主体で、舶載陶磁器・国産陶磁器、瓦質火鉢、瓦等が少数出土している。3a面の時期はおおむね14世紀前半と推定される。

第3b面は上層部の破壊によってほぼ中央部のみ残存している。炭化物を多量に含んだ層であり、検出レベルはおよそ海拔21.50～21.56mである。遺構はピット8穴・土坑4基を検出したのみである。切り合いより少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

遺物はかわらけ、舶載陶磁器・国産陶磁器、土器質火鉢、瓦質火鉢、鉄釘などが少数出土した。

3面から3b面までは層の薄さや出土遺物から大きな時期差はなく、おおむね14世紀末から15世紀初頭に属すると推定される。炭化物を多量に含む土が広がっている点は火災の影響を想定させるが、焼土などが見られず、遺構にも覆土として大量に含まれることや西南部には見られないことから、別の場所の土を廃棄した可能性を考慮する必要がある。

第4面

第4面は、やや赤みを帯びる黄褐色土による地業層で、検出レベルは海拔21.52～21.67mである。遺構はピット54穴・土坑11基、溝9条である。切り合いより第4面で発見した遺構は、少なくとも4時期の時間差があると考えられる。南西部はやや浅い溝が圍繞する区画となり、ピットが集中する。3面の時点でこの区域は検出されており、最終的にはすべて炭化物層の上を泥岩の地業で埋めてしまっていることから、この区画はやや他の空間とは異なる性格を持っていたのではないかと想定される。検出

範囲が狭く、あきらかな掘立柱建物址のプランは復元できていない。区画の溝は平面隅丸方形を呈するプランで、計3回ほぼ同じ場所に掘りなおしている。他の溝との関係から、この区画溝は4面でも最も新しく構築されたと考えられる。他に東西方向の溝が2条、東南部に湾曲する溝が2条検出された。中央の溝はやや幅が狭く、北側の溝との時期的な差は不明である。中央の溝は1度掘りなおされている。また東南の溝に切られており、この面では最も古い溝である可能性が高い。西南の区画溝はこの溝をさらに切っている。北側の溝も3面でほぼ同じ場所に掘りなおをされている。やや複雑で、ピットなどは詳細な位置づけが困難なところもあるが、この時期に複数回の空間利用の変遷が起きたことが確実である。

出土遺物は、かわらけが主体で、舶載陶磁器・国産陶磁器、土製品、瓦、瓦質火鉢、石製品、漆器、木製品などが一定数見られるのみである。第4面の時期はやや幅があり、14世紀から15世紀初頭と推定される。

第4a面

第4面との比高差は少ないが、面上に敷き詰めた玉砂利が確認されたため、第4a面とした。およそ海拔21.40～21.52mである。上面からの遺構の掘り込みによって多くはかなり破壊されている。赤味の強い黄褐色土によって地業されており、泥岩の碎片を多く含む。検出遺構はピット26穴・土坑1基、溝2条である。切りあいより第4a面で発見した遺構は、少なくとも2時期の時間差があると考えられる。

調査区東西に南北方向の溝が1条ずつ検出されている。溝双方の時期的な関係は不明である。東側の溝はやや幅が広く、調査区東側におよんでいるため全体の規模は不明である。西側の溝は調査区西南隅でさらに西側に湾曲し、北側はさらに調査区外に延びている。この溝からは大量にかわらけが廃棄された状態で検出された。壁面にも多くみられることから、調査区外でもさらに大量にかわらけが廃棄された状態が続いていることが確実である。また覆土には玉石が多数含まれていたため、玉砂利敷遺構を掘り崩して溝を構築した可能性が高い。したがって、玉砂利敷は本来さらにより広い範囲で構築されていたのではないかと考えられる。この面では植栽痕と想定される非常に小規模な穴が多数検出された。柵などの痕跡ではないかと想定されるが、詳細は不明である。

出土遺物はかわらけが主体で、舶載陶磁器、国産陶磁器、土製品、瓦、瓦質火鉢、石製品などが少数見られる。時期はおおむね13世紀末から14世紀前半に属すると考えられる。

第5面

第5面は黄褐色粘質土によって構成されるが、破碎した泥岩を平面的にほどこした地業面である。検出レベルはおよそ海拔21.14～21.22mである。遺構はピット23穴・土坑10基、溝2条を検出し、切りあいより、少なくとも2時期の時間差が想定される。調査区中央では褐鉄を含んだ締まりの強い褐色土が積み上げられ、その上に大型の泥岩塊を多数配した構築物が検出された。築地のような機能が想定されるが、判然としない。またその東西では溝が検出されているが、両者とも上層の溝の直下にあり、本来の掘り込みが確認できないため不明である。第5面に属するとしたものの、おそらく中央の石積み遺構よりは新しい可能性が高い。ピットの配置からは建物址の明確なプランは復元できなかった。

遺物はかわらけ、舶載陶磁器、国産陶磁器がやや多く、土製品、瓦、瓦質火鉢、石製品などが少数見られる。おおむね13世紀後半に属すると考えられる。

第6面

第5面の石積み遺構の北側を掘り下げたところ井戸が検出された。井戸は石積み遺構を構築した際に完全に埋められており、井戸枠内部には大量の泥岩塊が廃棄されていた。井戸枠上部には一部被熱の痕跡があり、泥岩地業の下面にも薄い炭層が確認されたため、火災があったことが推定される。井戸の検出は一部のみであり、また明瞭な井戸の掘り方を平面的に確認することができなかったが、検出状況を検討した上で、第6面とした。井戸枠を検出したレベルで北部のみ掘り下げを行ったが、それ以外の遺構の痕跡は確認できていない。井戸についても内部に多数の泥岩塊が投げ入れられていることと作業の危険性から底部の検出には至っていない。時期はおよそ13世紀後半と推定される。

井戸枠が掘りこまれた土は褐鉄を多く含む黄褐色粘質土であり、20cmほどの堆積が見られる。その下部はトレンチによって一部のみ確認をしたが、黒色粘質土が厚く堆積し、全体としてどれだけ堆積しているかは不明である。断面観察では、黒色の粘質土はかならずしも平面には堆積していない。また遺物が検出されておらず、引き続けて行った北側の隣接地点の調査においても類似した状況であり、黄褐色土から黒褐色土にかけてが本調査地点での地山であると判断できる。

第2節 周囲の調査例との比較

以上を概観すると、当調査地点では、およそ13世紀の終わりに土地利用が始まり、複数の地業面の作り替えが行われていることが明らかになった。井戸についてはその他の遺構を確認していないため、不明であるが、それをつぶした後に一築地のような構築物が造成されており、第5面においてまず土地利用が大きく変化している。この構築物はさらに調査区外に南北に延長しているが、隣接する地点の調査(図1:地点2)では同様の遺構が確認できなかったため、中間地点のどこかで終了していると思われる。4a面では玉砂利敷が確認され、再度土地利用が変化している。瓦は少数出土しているものの、建物に伴うような出土状態とも言えず、屋敷か寺院的な空間である可能性は高いが、確定はできない。4面ではさらに大きな変化があり、繰り返す溝の造営と、おそらく最終的に西南に溝で区画された空間が設定される。これもごく一部の検出なので、建物配置なども不明であるが、やや特殊な空間として使用された可能性がある。

この区画以外は火災が想定される炭化物混じりの土によって埋められ、さらに東西方向の溝が構築されている。そののちに2面において大型の泥岩により地業が行われ、完全に下層の面とは違った空間が作りなおされたと想定されるが、西南部の変化については後世の削平もあって、正確にとらえることは難しい。しかし、第3面までは単なる屋敷地とはいいがたい利用のされ方であった可能性がある。第1面もごく一部の残存ではあるが、やや大型の溝が構成される。第3面以下の南北方向の溝はいずれも地点2の調査ではその続きとなるような遺構が確認できておらず、両者の中間地点のどこかで方向を変えていると考えられるが、第1面の溝は、その延長が確認されているため、より広い範囲で空間利用が変化した可能性が高いと判断できる。この地点での土地利用の変化はやや頻繁なものであり、比較的特徴のある地点であるといえよう。

大慈寺、明王院、六浦道、また積善院や、周囲のやぐらとの関連などこの一帯については検討すべき点も多いが、現状では細かく検討するだけの資料に欠ける。当該地区の空間の開発状況については今後の資料増加によってさらなる検証が必要である。

表1 出土遺物観察表

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目 a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
						口径	底径	器高	重	
7-1	1面	10	鉄製品	釘	-	長 [5.4]		厚 [0.6]	f: 頂部幅 [0.8] 胴部幅 [0.7]	
7-2		13	土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/3	(7.2)	(4.7)	2.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 雲母 海綿骨針 泥岩粒粒 精良 c: 黄橙色 e: 良好	
7-3		14	陶器	瀬戸 碗形鉢	口縁部片	-	-	[3.5]		b: 淡黄色 やや粗土 d: 浅黄色 内面に灰釉ツケガケ又はナガシカケ
7-4			陶器	瀬戸 搦鉢	体部片	-	-	[3.4]		b: 浅黄橙色 砂粒 やや粗土 d: にぶい赤褐色 錆灰 f: 古瀬戸後期 IV期
7-5			陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	-	-	[4.4]		a: 粘土紐輪積み技法 b: にぶい橙色 砂粒 白色粒 小石粒 やや粗土 c: 内面灰赤色 外面口縁部にぶい橙色 e: 良好 f: I1 型式か
7-6			陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	-	-	[5.3]		a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰褐色 砂粒 白色粒 堅緻 c: 灰褐色 e: f: 内面降灰 (白色) 若干 7 型式か
7-7			土製品	瓦質 火鉢	口縁部片	-	-	[6.5]		a: 口唇部ミガキ b: 灰白色 微砂・やや粗土 c: 灰色 e: 良好 f: 平面輪花
7-8			土製品	瓦質 火鉢		-	-	[6.1]		b: 灰白色 砂粒 やや粗土 c: 灰色 内底付近は灰白色 f: 外面沈線 菊花文スタンプ
7-9			石製品	砥石		長 [2.7]	幅 [1.9]	厚 0.5		c: 黄灰色 f: 頁岩製仕上砥 砥面3ヶ所
7-10			石製品	碁石		長 2.0	幅 1.6	厚 0.5		c: 黒色
7-11			石製品	碁石か		長 2.6	幅 2.4	厚 0.7		c: 黒色
7-12			鉄製品	釘	-	長 [4.6]	幅 [0.6]	厚 [0.5]		
7-13			銅製品	銭		直径 2.4	内孔 0.7	厚 0.1	重 2.7g	f: 元祐通寶 北宋 1086 年初鑄
7-14			土製品	火鉢	口縁部片	-	-	[3.9]		a: 口縁部輪花型 b: 灰白色 白色粒 3mm 大の長石粒 角閃石 精緻 c: 灰白色
7-15			遺構外	土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/4	(6.0)	(4.2)	2.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好
7-16				陶器	瀬戸 緑釉小皿	口縁部片	-	-	[1.5]	
7-17		構成土	土製品	ロクロ かわらけ (大)	1/5	(13.7)	(8.4)	3.7	a: 内底ナデ 指頭痕 外底回転糸切 板状圧痕 b: 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒粒 精緻 c: 橙色 e: 良好	
7-18			土製品	ロクロ かわらけ (中)	1/4	(11.0)	(6.6)	2.7	a: 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒粒 精緻 c: 橙色 e: 良好	
7-19			土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/4	(7.0)	(4.6)	1.8	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
7-20			土製品	ロクロ かわらけ (小)	完形	6.6	4.6	2.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 灯明皿 口縁部に刀状のもので切り込んだようなキズあり	
7-21			鉄製品	掛金か	-	長 [3.9]	幅 [2.9]	厚 [0.4]		
9-1	2面	24	土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/2	(9.4)	(5.6)	2.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
9-2		39	土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/4	(7.8)	(5.4)	2.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒粒 粗土 c: 橙色 e: 良好	
9-3		遺構外	土製品	瓦質 火鉢	口縁部片	-	-	[3.1]		b: 灰白色 微砂 雲母 白色粒 やや粗土 c: 灰色
9-4			土製品	瓦質 火鉢	口縁部片	-	-	[2.9]		b: 淡赤橙色 白色粒 赤色粒 粗土 c: 外面褐灰色 内面灰色 f: 外面沈線 菊花文スタンプ
9-5		鉄製品	釘	-	長 [7.2]		厚 [0.6]		f: 頂部幅 [1.2] 胴部幅 [0.9]	
9-6		構成土	土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/4	(7.8)	(4.6)	2.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒粒 精緻 c: 橙色 e: 良好	
9-7			土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/5	(7.9)	(5.7)	1.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好	
9-8			磁器	白磁 口元皿	口縁部片	-	-	[1.8]		b: 白色 精良 d: 灰白色不透明釉 釉層薄い f: 口縁部露胎
9-9			鉄製品	釘	-	長 [5.1]		厚 [1.1]		f: 頂部幅 [1.7] 胴部幅 [0.8]
9-10			鉄製品	釘	-	長 [4.5]		厚 [0.5]		f: 頂部幅 [1.0] 胴部幅 [0.7]
9-11	2a面	泥岩下層	土製品	ロクロ かわらけ (中)	1/5	(12.9)	(7.8)	3.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒粒 粗土 c: e: 良好	
9-12			土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/4	(7.5)	(4.6)	2.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
9-13		陶器	瀬戸 碗形鉢	口縁部片	-	-	[3.1]		b: 黄白色 やや粗土 d: 黄灰色灰釉ツケガケ又はナガシカケ f: 古瀬戸後期か	
9-14		構成土	石製品	碁石		長 2.0	幅 1.6	厚 0.6		c: 黒色
9-15			石製品	碁石		長 2.2	幅 1.9	厚 0.7		c: 黒色
13-1	3面	52	土製品	瓦質 火鉢	口縁部片	-	-	[4.7]	a: 口唇部ミガキ 内面ヨコナデ 外面タテ方向の弱いミガキ b: 灰白色 砂粒 緻密 c: 灰色 e: f: 内外面炭素吸着	
13-2		68	陶器	瀬戸 緑釉小皿	1/2	-	(5.0)	[1.4]	a: ロクロ成形 b: 黄白色 砂粒 やや粗土 d: 残存部は無釉 f: 古瀬戸後期後半	
13-3			銅製品	銭		直径 2.4	内孔 0.7	厚 0.1	重 2.2	f: 開元通寶 唐 845 年初鑄

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目 a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
						口径	底径	器高	重	
13-4	3面	68	銅製品	銭		直径 2.4	内孔 0.6	厚 0.1	重 2.7	f: 皇宋通寶(楷書) 北宋 1038年初鑄
13-5			銅製品	銭		直径 2.4	内孔 0.7	厚 0.1	重 3.0	f: 熙寧元寶(篆書) 北宋 1068年初鑄
13-6			銅製品	銭		直径 2.4	内孔 0.7	厚 0.1	重 2.8	f: 熙寧元寶(篆書) 北宋 1068年初鑄
13-7			銅製品	銭		直径 2.4	内孔 0.7	厚 0.1	重 2.8	f: 政和通寶(楷書) 北宋 1111年初鑄
13-8		土製品	かわらけ(特大)	3/4	(14.6)	9.0	4.2		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 微砂 雲母 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好	
13-9		陶器	瀬戸 緑釉小皿	1/5	(10.6)	(6.4)	2.3		a: ロクロ成形 b: 灰白色~にぶい橙色 やや粗土 d: 口縁部に緑灰色釉ツケガケ f: 古瀬戸後期後半	
13-10		土製品	かわらけ(小)	1/4	(8.4)	(5.0)	2.8		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好	
13-11		土製品	かわらけ(小)	完形	6.5	4.4	2.0		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c: 橙色 e: 良好	
13-12		土製品	かわらけ(小)	完形	6.8	4.8	2.1		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 灯明皿 歪み顕著	
13-13		陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	-	-	[6.8]		a: 粘土紐輪積み技法 b: 赤橙色 白色粒 精緻 c: にぶい赤褐色 e: f: 内面口縁部付近スス付着 下部部摩耗	
13-14		陶器	瀬戸 平碗か	1/3	-	(5.0)	[2.5]		a: 高台内回転ケズリ b: 浅黄橙色 砂粒 やや粗土 d: 緑灰色釉ナガシカケ 内面のみ施釉 釉層厚い f: 古瀬戸後期 内面下部目痕2ヶ所	
13-15		土製品	伊勢系羽釜	口縁部片	-	-	[1.7]		b: 灰色 白色粒 緻密 c: 灰白色 e: 良好	
13-16		石製品	砥石	-	長 [4.6]	幅 [1.4]	厚 [0.5]		c: 黄灰色 f: 仕上砥 1面使用 側面1面イキ 裏面剥離	
13-17		鉄製品	鏝?	-	長 [7.0]	胴部幅 [0.4]	厚 [0.6]	脚長 [2.8]		
13-18		鉄製品	釘	-	長 [5.0]		厚 [0.8]		f: 頂部幅 [1.0] 胴部幅 [0.8]	
13-19		土製品	かわらけ(小)	1/4	(7.3)	(3.8)	2.1		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
13-20		土製品	かわらけ(小)	1/5	(7.3)	(4.4)	2.2		a: 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好	
13-21		土製品	かわらけ(小)	2/3	(7.1)	5.1	2.0		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 内面3ヶ所に穿孔 内面側より打ち欠き	
13-22		陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片	-	-	2.9		a: 輪積み成形 b: 砂粒 白色粒 精緻 c: 灰色 d: 器表面に暗緑灰色の自然釉 f: 4~5型式?	
13-23		土製品	瓦質 火鉢(風炉)	体部片	-	-	[5.5]		b: 灰白色 砂粒 精緻 c: 灰色 外表面は摩滅の為灰白色	
13-24		鉄製品	釘	-	長 [5.0]		厚 [0.9]		f: 頂部幅 [1.7] 胴部幅 [1.2]	
13-25		土製品	かわらけ(中)	1/4	(12.2)	7.4	3.5		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
13-26		土製品	かわらけ(中)	ほぼ完形	11.9	7.1	3.3		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 二次焼成?	
13-27		土製品	かわらけ(小)	1/3	(8.6)	(4.4)	1.4		a: 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
13-28		土製品	かわらけ(小)	1/3	(7.2)	(5.6)	1.4		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精良 c: 橙色 e: 良好	
13-29		磁器	青磁 折縁皿	口縁部片	-	-	[1.8]		b: 灰白色 精良堅緻 d: 暗緑灰色透明釉層厚め f: 貫入あり	
13-30		陶器	瀬戸 平碗	口縁部片	-	-	[2.4]		a: ロクロ成形 b: 灰白色 精緻 d: 明緑灰色釉ツケガケ f: 古瀬戸後期Ⅱ以降か	
13-31		陶器	瀬戸 緑釉小皿	口縁部片	-	-	[1.9]		a: ロクロ成形 b: 黄白色 やや粗土 d: 口縁部に黄緑灰色釉ツケガケ f: 古瀬戸後期後半	
13-32		陶器	瀬戸 緑釉小皿	口縁部片	-	-	[2.2]		a: ロクロ成形 b: 灰白色 やや粗土 d: 口縁部に明緑灰色釉ツケガケ f: 古瀬戸後期後半	
13-33		陶器	瀬戸 卸皿	口縁部小片	-	-	[2.0]		b: 灰黄色 やや粗土 d: 内面口縁~体部緑灰色釉ツケガケか f: 古瀬戸後期Ⅰ期	
13-34	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	-	-	[4.1]		a: 粘土紐輪積み技法 b: にぶい赤褐色 砂粒 白色粒 やや粗土 c: にぶい赤褐色 e: 良好		
13-35	土製品	丸瓦	筒部片	長 [4.6]	幅 [5.6]	厚 1.6		a: 凹面布目痕 b: 灰色 白色粒 3mm~1cm大の小石 精緻 c: 灰色 e: 硬質		
13-36	石製品	砥石	-	長 [5.9]	幅 2.5	厚 2.0		c: 灰緑色 f: 中砥 6面使用 木口欠損 両側面も使用		
13-37	鉄製品	錐か	-	長 [7.9]	胴部幅 [0.5]	厚 [0.5]				
13-38	鉄製品	釘	-	長 [6.0]		厚 [0.8]		f: 頂部幅 [1.4] 胴部幅 [1.1]		
13-39	鉄製品	釘	-	長 [4.3]		厚 [0.8]		f: 胴部幅 [1.2]		
13-40	鉄製品	釘	-	長 [4.0]		厚 [0.5]		f: 頂部幅 [0.8] 胴部幅 [0.5]		
16-1	3a面	85	陶器	瀬戸 平碗	口縁~体部片	-	-	[4.3]	b: 灰白色 やや粗土 c: 灰白色 d: 内外面明緑灰色釉ツケガケ(ナガシカケ?) f: 古瀬戸中期以降	
16-2			陶器	瀬戸 直縁大皿	口縁部片	-	-	[4.6]	a: ロクロ成形 b: 淡黄色 砂粒 やや粗土 d: 淡緑灰色釉ナガシカケ f: 古瀬戸後期	
16-3		94	土製品	かわらけ(小)	1/4	(6.6)	(4.3)	2.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 中心部は明灰色 e: 良好	
16-4			陶器	瀬戸 平碗	口縁部 1/4	(16.0)	-	[4.3]	a: ロクロ成形 b: 灰白色~淡黄色 砂粒少量 やや粗土 d: 緑灰色・白のまだら釉ナガシカケか f: 古瀬戸後期Ⅱ~Ⅲ期	

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
						口径	底径	器高	重	
16-5	3a面	94	土製品	丸瓦	筒部小片	長 [5.6]	幅 [6.5]	厚 2.2	a: 凹面布目痕 b: 灰白色 小石少量 精緻 c: 灰色 e: 凸凹面ともに炭素吸着	
16-6		103	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.2)	(7.4)	3.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精良 c: 黄灰色 e: 良好	
16-7			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(9.1)	(5.8)	2.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 内面被熱	
16-8			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	6.8	5.2	2.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c: 橙色 e: 良好	
16-9			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.0)	3.4	2.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 雲母 赤色粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好	
16-10			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	6.7	4.6	2.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好	
16-11			陶器	瀬戸 緑釉小皿	底部完形	-	4.0	[1.4]	a: ロクロ成形 外底回転糸切 b: 砂粒 やや粗土 c: 黄白色 d: 内面白釉降灰 口縁部灰釉ツケガケか f: 内底4ヶ所に目跡あり 古瀬戸後期Ⅲ期	
16-12			陶器	瀬戸 折縁深皿	口縁部片	-	-	[3.1]	b: 白色粒少量 精緻 c: 灰白色 内面口縁部付近白色～緑灰色 d: 灰釉ハケヌリか e: 良好 f: 古瀬戸後期Ⅱ期	
16-13			陶器	瀬戸 浅碗	1/4	(12.2)	(4.8)	4.8	a: 外底回転糸切 b: 灰白色 精良土 d: 外面上体部～内面口縁部付近に緑灰色釉ツケガケ e: 良好 f: 古瀬戸後期	
16-14			土製品	瓦質 火鉢	口縁部片	-	-	[6.9]	b: 灰白色～淡褐色 赤色粒 白色粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: f: 炭素吸着の器表が摩耗 文様帯を意図的に削っているか	
16-15			土製品	瓦質 火鉢	口縁部片	-	-	[5.2]	b: 灰白色～淡褐色 砂粒 白色粒 緻密 c: 内面淡赤色～灰色 外面灰色 e: f: 内外面炭素吸着	
16-16		外遺構	陶器	瀬戸 卸付大皿	下部部片	-	-	[4.9]	b: 灰白色 砂粒 精緻 c: 褐灰色～灰黄褐色 d: 内面暗灰黄色釉ハケヌリ 上部明緑灰色だが釉剥落 f: 古瀬戸後期Ⅰ～Ⅲ期	
16-17		構成土	陶器	常滑 甕	底部片	-	-	[4.8]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰色 砂粒 白色粒 精緻 c: にぶい褐色～橙色 d: 内面明緑灰色の自然釉降灰 e: 良好	
16-18			鉄製品	釘?	-	長 [6.4]	厚 [0.4]	f: 最大幅 [1.4] 胴部幅 [0.5]		
16-19		3b面	111	鉄製品	釘?	-	長 [3.8]	厚 [0.8]	f: 頂部幅 [1.2] 胴部幅 [0.8]	
16-20			構成土	土製品	瓦質 火鉢	口縁部片	-	-	[4.2]	b: 灰白色～にぶい黄褐色 砂粒 雲母 赤色粒 緻密 c: 灰色 e: f:
16-21				鉄製品	釘	-	長 [4.8]	厚 [0.6]	f: 頂部幅 [0.7] 胴部幅 [0.5]	
21-1		4面	116	土製品	ロクロ かわらけ(中)	完形	11.8	6.8	3.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 c: 黄褐色 e: 良好
21-2	土製品			ロクロ かわらけ(小)	3/4	8.1	4.6	2.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 黄灰色 e: 良好	
21-3	125		土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	8.9	5.9	2.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好	
21-4	130		鉄製品	釘	-	長 [5.5]	厚 [1.1]	f: 頂部幅 [1.5] 胴部幅 [1.0]		
21-5	134		土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	(8.2)	(5.6)	2.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f:	
21-6	149		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(8.4)	(5.0)	2.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好	
21-7	153		土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.2)	(7.6)	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 内底にスス付着 灯明皿?	
21-8			鉄製品	釘	-	長 [5.9]	厚 [1.0]	f: 頂部幅 [1.5] 胴部幅 [0.7]		
21-9	158		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(6.9)	(5.0)	2.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好	
21-10	159		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.1)	(3.4)	1.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好	
21-11	169		陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	-	-	[3.1]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰黄褐色 砂粒 白色粒 堅緻 c: 内面にぶい赤褐色 外面にぶい橙色 e: 良好 f: 7～8型式か	
21-12			鉄製品	釘	-	長 [6.4]	厚 [0.5]	f: 頂部幅 [1.2] 胴部幅 [0.8]		
21-13	175		土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.6)	(8.4)	3.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f:	
21-14			陶器	瀬戸 洗?	口縁部片	-	-	[3.4]	b: 灰白色 精緻 d: 内面明緑灰色釉ハケヌリ 外面明黄緑灰色釉ハケヌリ f: 古瀬戸前期Ⅰ?	
21-15	178		陶器	瀬戸 緑釉小皿	口縁部	-	-	[2.0]	a: ロクロ成形 b: 灰白色 やや粗土 d: 内外面口縁部に緑灰色釉ツケガケ 内面下部褐色・白の斑点状釉ハケヌリ f: 古瀬戸後期前半	
21-16	179		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.5)	(4.6)	2.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
21-17			土製品	瓦質 火鉢	口縁部片	-	-	[3.8]	a: 口唇部ミガキ 内面ナデ指頭調整 b: 灰白色 砂粒 やや粗土 c: 灰色 e: 良好 f: 気泡あり	
21-18			土製品	瓦質 火鉢	口縁部片	-	-	[6.6]	a: 口唇部ミガキ 内面ナデ指頭調整 b: 灰白色 砂粒 やや粗土 c: 灰色 e: 良好	
21-19			土製品	瓦質 火鉢	脚部片	-	-	[3.7]	b: 砂粒 白色粒 やや粗土 c: 灰色 e: 良好 f: 気泡あり	
21-20	180		土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/5	(12.6)	(7.4)	3.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 灯明皿?	
21-21			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.8)	6.5	3.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
21-22			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.8)	(8.2)	3.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 橙色 e: 良好 f: 灯明皿?	
21-23			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.1)	(5.2)	2.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:軸調 e:焼成 f:備考
						口径	底径	器高	
21-24	180		陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	-	-	[4.8]	a:粘土紐輪積み技法 b:にぶい赤褐色 砂粒 白色粒 やや粗土 c:外面 灰褐色 内面にぶい赤褐色 e:良好 f:8型式か
21-25			陶器	瀬戸 碗形鉢	口縁部片	-	-	[3.0]	c:灰白色 やや粗い d:浅黄色袖ナガシカケか f:古瀬戸後期
21-26			陶器	瀬戸 播鉢形小鉢	口縁部片	-	-	[2.8]	b:黄白色 粗い c:黄白色 d:内外面口縁部付近に褐色の鉄袖ツケガケ f:古瀬戸後期Ⅲ期
21-27			陶器	常滑 甕研磨片			2.7	2.2	1.6
21-28	4 面 184		土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	(13.8)	7.8	3.6	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 泥岩粒 海綿骨針 雲 母 良土 c:黄褐色 e:良好
21-29			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.7)	(9.0)	3.5	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良 土 c:黄褐色 e:良好
21-30			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.4)	(6.8)	3.0	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好
21-31			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.9)	(4.9)	2.2	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 微砂 泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好
21-32			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.4	4.7	2.1	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 微砂 良土 c: 黄灰色 e:やや甘い
21-33			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.0)	5.0	1.9	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 泥岩粒 海綿骨針 雲 母 良土 c:橙色 e:良好
21-34			土製品	ロクロ かわらけ(特大)	4/5	15.1	9.0	4.0	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 微砂 泥岩粒 雲母 海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-35			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.1	8.0	3.5	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:橙色 e:良好
21-36			土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	13.2	7.2	3.4	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 泥岩粒 海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:やや甘い
21-37			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	(13.4)	8.2	3.9	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:黄褐色 e:良好
21-38			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.2)	8.3	3.7	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや弱
21-39			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.0)	8.0	3.3	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 良土 c:黄褐色 e:良好
21-40			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.6)	(8.6)	3.5	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 海綿骨針 雲母 微砂 良土 c:橙色 e:良好
21-41			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.4)	(8.0)	3.6	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:橙色 e:良好
21-42			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.8)	(7.8)	3.4	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好
21-43			土製品	ロクロ かわらけ(大)	完形	13.1	8.1	3.6	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針少量 良土 c:橙色 e:良好
21-44			土製品	ロクロ かわらけ(大)	ほぼ完形	13.1	8.6	3.6	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 海綿骨針 雲母 良土 c:橙色 e:良好
21-45			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.8)	7.6	3.6	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好
21-46			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.4)	8.0	3.2	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良好
21-47			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.8)	(7.8)	3.3	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 微砂 海綿骨針 泥岩 粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
21-48			土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	13.8	8.0	3.7	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
21-49			土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	(13.3)	7.1	3.5	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:橙色 e:良好
21-50			土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	13.4	7.7	3.8	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:橙色 e:やや弱い
21-51			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	(12.2)	8.6	3.5	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 泥岩粒 赤色粒 雲母 海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
21-52			土製品	ロクロ かわらけ(中)	4/5	12.5	8.2	3.7	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
21-53			土製品	ロクロ かわらけ(中)	完形	12.2	7.5	3.5	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 赤色粒 雲母 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-54	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.5)	5.0	2.4	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 微砂 良土 c:黄褐色 e:良好		
21-55	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.6)	5.5	2.6	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c:黄灰色 e:良好		
21-56	土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	8.5	5.4	2.5	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c:黄褐色 e:良好		
21-57	土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	8.1	4.6	2.4	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 微砂 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗い c:黄褐色 e:良好		
21-58	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.0)	5.4	2.2	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c:橙色 e:良好		
21-59	土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	8.2	4.1	2.5	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 良土 c:黄灰色 e:良好		
21-60	土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.9	4.6	2.5	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕(不明瞭) b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c:黄灰色~橙色 e:ムラあり		
21-61	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.9)	(4.9)	2.0	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:黄褐色 e:良好		
21-62	土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(8.1)	5.0	2.4	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:黄褐色 e:良好		
21-63	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.5)	(5.4)	1.8	a:内底ナデ 外底回転系切 b:赤色粒 砂粒 雲母 海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好		

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目
						口径	底径	器高	重	
21-64	4面	184	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.6)	(4.5)	2.2	a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c: 橙色 e: 良好	
21-65			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.0)	(4.3)	1.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
21-66			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	8.4	4.7	2.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 泥岩粒 微砂 雲母 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い	
21-67			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.9	4.5	2.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
21-68			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.7)	(4.6)	1.8	a: 内底ナデ 外底回転糸切 b: 赤色粒 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い	
21-69			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(5.0)	(3.6)	1.0	a: 外底回転糸切 板状圧痕(不明瞭) b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 精緻 c: 黄橙色 e: 良好	
22-70			磁器	青磁 蓮弁文碗	口縁部片	-	-	[3.5]	b: 灰白色 黒色粒少量 精良堅緻 気孔あり d: 明緑灰色不透明釉 釉層厚い f: 龍泉窯	
22-71			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片	-	-	[3.2]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰色 砂粒 白色粒 粗土 c: 灰色 d: 口縁部淡緑灰色の自然釉 内面灰色の釉降灰 e: 良好 f: 5型式か	
22-72			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片	-	-	[4.9]	a: 貼り付け高台 ヨコナデ 回転ケズリ b: 灰白色 白色粒少量 c: 灰白色 e: f: 内面摩滅	
22-73			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片	-	-	5.8	a: 粘土紐輪積み技法 貼り付け高台 b: 黄灰色 白色粒 小石粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 内面摩滅顕著	
22-74			陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	-	-	[5.8]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 褐色 白色粒多量 c: 暗赤褐色 e: 良好	
22-75			陶器	瀬戸 卸皿	口縁片	-	-	[2.1]	b: 灰白色 やや粗い d: 淡緑灰色釉ハケスリ f: 古瀬戸前期Ⅳ～中期Ⅱ期か	
22-76			陶器	瀬戸 平碗か	底部 1/2	-	4.6	[4.1]	a: 高台内回転ケズリ 高台回転糸切 外面下半部回転ケズリ b: 灰色 砂粒少量 やや粗土 d: 外面上部～内面全体に黄灰色釉ツケガケ 釉層厚い e: 良好・軟質 f: 古瀬戸後期	
22-77			陶器	瀬戸 折縁皿か	底部 1/4	-	(8.0)	1.7	a: 外底回転糸切 b: 灰白色 やや粗土 d: 内面のみナガシカケ 釉層厚い e: 良好・軟質 f: 古瀬戸中期後半以降	
22-78			土製品	瓦質 火鉢	底部片	-	-	[6.4]	a: 内面ヨコナデ 外面ナデ・指頭調整 回転ケズリ b: 灰白色 小石粒 やや粗土 c: 灰白色 e: 良好	
22-79			土製品	瓦器質 火鉢	底部片	-	-	[2.6]	a: 内面ヨコナデ b: 白色 砂粒 黒色粒 小石粒 粗土 c: 灰色 f: 脚接合痕あり(三脚付か) 黒色処理か?ムラあり 気泡多い 底部砂付着 c: 黄橙色 f: 糸切りかわらけの底部を打ち欠き円盤状にしている。	
22-80			土製品	かわらけ加工品 円盤	-	直径 7.2	-	0.7		
22-81			土製品	平瓦	-	-	-	-	a: 凹面布目痕 凸面離れ砂付着 b: 灰白色 精良土 c: 灰色 e: やや軟質	
22-82			土製品	平瓦	-	長 [6.5]	幅 [5.3]	厚 3.5	a: 凹面離れ砂 凸面縦位のナデ b: 灰白色 砂粒 小石粒多量 c: 灰色 e: 硬質 f: 気泡多い 弱い炭素吸着	
22-83			土製品	丸瓦	筒部小片	長 [4.3]	幅 [8.0]	厚 1.5	a: 凹面布目痕 b: 灰色 白色粒 やや粗土 c: 灰色 e: 硬質 f: 内面布目痕	
22-84			鉄製品	釘	-	長 [6.1]	幅 [2.3]	厚 [0.8]	f: 釘の周りの木質残存	
22-85			土製品	ロクロ かわらけ(特大)	4/5	16.3	10.1	4.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 黄橙色 e: やや弱い f:	
22-86			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	14.0	8.5	3.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c: 黄橙色 e: 良好	
22-87			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.5	8.6	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 黄橙色 e: やや弱い f:	
22-88			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.1	8.2	3.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 黄橙色 e: やや弱い f:	
22-89			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.0	8.3	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 黄灰色 e: やや弱い f:	
22-90			土製品	ロクロ かわらけ(中)	3/4	12.9	7.6	4.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: やや弱い	
22-91			土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	(13.0)	7.7	3.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 黄橙色 e: 良好 f:	
22-92			土製品	ロクロ かわらけ(中)	3/4	11.9	7.7	3.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c: 黄橙色 e: 良好	
22-93			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.7)	6.4	3.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c: 黄橙色 e: 良好 f: 溝 17 No. 374 と接合	
22-94			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	11.6	6.7	3.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好	
22-95			土製品	ロクロ かわらけ(中)	4/5	11.6	7.0	3.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c: 黄橙色 e: 良好 f:	
22-96			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.9	4.8	2.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い f:	
22-97			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	(7.5)	4.9	2.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 黄橙色 e: 良好	
22-98			土製品	丸瓦	筒部小片	長 [8.3]	幅 [6.2]	厚 1.8	a: 凹面布目痕 b: 灰白色～淡橙色 白色粒多量 粗土 c: 灰色 e: 良好 f: 気泡多い 両面炭素吸着 内面布目痕	
22-99			銅製品	銭	-	直径 2.4	内孔 0.7	厚 0.1	f: 治平元寶 北宋 1064年初鑄	
23-100			183	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/6	(12.0)	(7.4)	3.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い
23-101				土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.8	4.8	2.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好
23-102				土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	6.8	5.0	2.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好
23-103				土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	6.5	4.2	1.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 灯明皿

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:軸調 e:焼成 f:備考
						口径	底径	器高	
23-104	4面	183	磁器	白磁碗	底部 1/4	-	(5.5)	[2.0]	a:外底・高台部回転ケズリ b:灰白色 精良堅緻 d:灰白色透明釉 釉層薄い 外面高台より上部・内面全体に施釉
23-105			土製品	ロクロかわらけ(中)	1/4	(11.4)	(6.5)	3.3	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好
23-106			土製品	ロクロかわらけ(小)	4/5	8.0	5.7	2.4	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 赤色粒 雲母 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c:黄橙色 e:良好
23-107			土製品	ロクロかわらけ(小)	1/2	(6.8)	(4.9)	2.3	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
23-108			土製品	器種不明		[2.8]	[3.6]	[1.8]	b:にぶい橙色 微砂 赤色粒 雲母 長石 角閃石 緻密 c:にぶい橙色
23-109			鉄製品	釘	-	長 [4.7]	胴部幅 [0.7]	厚 [0.7]	
23-110			鉄製品	釘	-	長 [4.7]		厚 [0.4]	f:頂部幅 [0.9] 胴部幅 [0.7]
23-111			土製品	ロクロかわらけ(中)	1/5	(12.3)	(7.7)	3.3	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
23-112			土製品	ロクロかわらけ(中)	1/3	(12.0)	(7.4)	3.0	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕(不明瞭) b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e: f:内面底部・外面被熱
23-113			土製品	ロクロかわらけ(小)	完形	9.0	5.1	2.7	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:外面口縁部煤付着 灯明皿
23-114			磁器	青白磁梅瓶	胴部片	-	-	[3.3]	b:白色 黒色粒少量 精良堅緻 d:水青色透明釉 釉層薄い 内面無色釉施釉
23-115			陶器	瀬戸小鉢か	口縁部片	-	-	[2.1]	b:黄白色 やや粗 c:橙色 d:緑灰色釉ツケガケ 内面白色釉降灰
23-116			陶器	瀬戸広口壺蓋	口縁部片	-	-	[4.3]	a: b:灰白色 精良土 c: d:外面全体~内面下部に鉄釉ナガシカケ(又はツケガケ) e:良好・軟質 f:古瀬戸中期
23-117			石製品	砥石	-	長 [4.2]	幅 2.8	厚 2.4	c:黄灰色 f:凝灰岩製中砥 4面使用 二次焼成を受けているか先端黒色に変色
23-118			陶器	瀬戸碗形鉢	口縁部片	-	-	[4.4]	b:灰白色 やや粗い d:上部部内外面浅黄色釉ナガシカケ 下部部内面ハケズリ f:古瀬戸後期 IかII期
23-119			土製品	土器質火鉢	口縁部片	-	-	[7.5]	b:橙色 砂粒 白色粒 赤色粒 角閃石 やや粗土 c:橙色
23-120			土製品	平瓦	-	長 [9.1]	幅 [13.5]	厚 [2.4]	a:凹面横位のナデ ケズリ 凸面斜格子叩き目 離れ砂 b:灰白色 砂粒 小石粒 粗土 c:灰色 e:硬質 f:黒色処理ではないが器表は暗色
23-121			石製品	砥石	-	長 [3.1]	幅 3.7	厚 0.5	c:黄灰色 f:鳴滝産仕上砥 貞岩製 2面使用 木口に当たる1面は研磨されている 両側面残る
23-122		石製品	碁石?		長 2.4	幅 1.9	厚 0.9	c:黒色	
23-123		鉄製品	釘?	-	長 [5.3]	胴部幅 [0.5]	厚 [0.5]		
23-124		鉄製品	釘?	-	長 [4.1]	胴部幅 [0.5]	厚 [0.3]		
23-125		銅製品	銭		直径 2.5	内孔 0.6	厚 0.1	f:銭種不明	
23-126		土製品	ロクロかわらけ(大)	2/3	(13.8)	8.2	3.7	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:橙色 e:良好	
23-127		土製品	ロクロかわらけ(中)	4/5	13.3	8.4	3.6	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c:黄橙色 e:良好	
23-128		土製品	ロクロかわらけ(中)	1/3	(12.0)	(6.8)	3.2	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c:黄灰色 e:やや弱い	
23-129		土製品	ロクロかわらけ(中)	2/3	(11.9)	6.8	3.4	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c:黄灰色 e:やや弱い	
23-130		土製品	ロクロかわらけ(中)	完形	11.4	7.0	3.4	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c:黄灰色 e:やや弱い	
23-131		土製品	ロクロかわらけ(中)	1/4	(10.9)	(7.0)	3.3	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好	
23-132		土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(8.0)	(6.0)	2.0	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 赤色粒 雲母 海綿骨針 角閃石 良土 c:黄橙色 e:良好	
23-133		土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(7.4)	(5.2)	1.6	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
23-134		陶器	常滑片口鉢I類	口縁部片	-	-	[2.7]	a:粘土紐輪積み技法 b:灰色 白色粒 砂粒 やや粗土 堅緻 c:灰色 e:良好 f:6a型式?	
23-135		陶器	火鉢か	下部部片	-	-	[6.5]	a: b:灰色 砂粒 白色粒 精緻 c:灰色 d: e: f:妬器質 火鉢なら土製品?	
23-136		石製品	碁石		長 2.0	幅 1.5	厚 0.5	c:黒色	
26-1	4a面	212	土製品	ロクロかわらけ(大)	1/2	(13.8)	(8.4)	3.1	a:内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:
26-2			土製品	ロクロかわらけ(大)	1/3	(13.2)	(6.6)	3.1	a:内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:内底一部黒褐色に変色
26-3			土製品	ロクロかわらけ(中)	1/3	(12.6)	(7.8)	2.8	a:内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:内面に薄く黄褐色の付着物
26-4			土製品	ロクロかわらけ(小)	ほぼ完形	7.8	4.7	2.4	a:内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:口縁部1ヶ所歪みあり
26-5			土製品	ロクロかわらけ(大)	3/4	13.8	8.3	3.4	a:内底ナデ 外底回転系切 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 微砂 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:No.228と接合
26-6			土製品	ロクロかわらけ(大)	3/4	14.0	8.0	3.8	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 微砂 良土 c:橙色 e:良好
26-7			土製品	ロクロかわらけ(大)	完形	13.3	8.2	3.6	a:内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
						口径	底径	器高	重	
26-8	4a面	212	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.2)	7.6	3.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 b:赤色粒 泥岩粒 雲母 海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好	
26-9			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.4	8.3	3.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 泥岩粒 雲母 微砂 海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
26-10			土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	13.2	8.8	3.7	a:内底ナデ 外底回転糸切 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好	
26-11			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.0)	(8.4)	3.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c:黄橙色 e:良好	
26-12			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.4)	(7.5)	3.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 海綿骨針 雲母 微砂 良土 c:橙色 e:良好	
26-13			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	13.2	8.5	3.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 微砂 海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:やや甘い	
26-14			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.1	8.6	3.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 泥岩粒 雲母 微砂 海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い	
26-15			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.2	8.0	3.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い	
26-16			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.0	7.8	3.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 微砂 泥岩粒 海綿骨針 良土 c:黄橙色 e:良好	
26-17			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(12.8)	(8.4)	3.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 海綿骨針 雲母 良土 c:黄灰色 e:やや甘い	
26-18			土製品	ロクロ かわらけ(大)	ほぼ完形	13.1	7.7	3.8	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 海綿骨針 雲母 良土 c:橙色 e:良好	
26-19			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.2)	(7.2)	3.1	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	
26-20			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.2)	(6.8)	3.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好	
26-21			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(13.2)	(8.2)	3.1	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	
26-22			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	(14.2)	7.4	3.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:内外面付着物あり	
26-23			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.2	8.3	3.7	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:橙色 e:良好	
26-24			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.6)	(6.8)	3.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	
26-25			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.2)	(7.8)	3.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
26-26			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.8)	(7.0)	3.1	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:内外面共付着物及び変色あり	
26-27			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.8)	(6.0)	3.1	a:内底ナデ 外底回転糸切 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:内外面共付着物及び変色あり	
26-28			土製品	ロクロ かわらけ(中)	3/4	(11.8)	6.7	3.1	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
26-29			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	11.2	6.2	3.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:内外面付着物及び赤茶色に一部変色	
26-30			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(11.8)	(7.4)	3.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:内外面共付着物及び変色あり	
26-31			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(10.8)	(6.6)	3.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 小石 粗土 c:橙色 e:良好	
26-32			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.2)	(7.0)	2.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c:黄橙色 e:良好	
26-33			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.0)	(6.6)	3.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:内外面付着物及び所々褐色に変色	
26-34			土製品	ロクロ かわらけ(特大)	2/3	(17.8)	10.8	4.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c:橙色 e:良好	
26-35			土製品	ロクロ かわらけ(特大)	2/3	17.2	10.6	4.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好	
26-36			土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	(13.4)	8.4	3.9	a:内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:楕円形に歪んでいる 最大口径13.7 最小底径8.0	
26-37			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	12.9	8.0	3.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
26-38			土製品	ロクロ かわらけ(大)	完形	13.1	7.5	3.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 良土 c:黄橙色 e:良好	
26-39			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(13.3)	8.4	3.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c:黄灰色 e:やや弱い	
26-40			土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	13.0	7.8	3.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:橙色 e:良好	
26-41			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.5)	(7.4)	3.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c:橙色 e:良好	
26-42			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.2)	(8.0)	3.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:ごく強い	
26-43			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.6)	7.3	3.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:	
26-44			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/5	(11.8)	(7.0)	3.1	a:内底ナデ b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:茶橙色 e:良好	
26-45			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.1)	(6.9)	3.0	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c:黄橙色 e:良好	
26-46			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	11.7	6.1	2.9	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
26-47			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(12.4)	(7.0)	3.0	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目 a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
						口径	底径	器高	重	
26-48	4a面	212	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(11.8)	(6.2)	3.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
26-49			土製品	ロクロ かわらけ(中)	完形	11.4	7.6	3.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
27-50			土製品	ロクロ かわらけ(中)	3/4	(12.2)	(7.4)	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好	
27-51			土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	(14.2)	8.0	3.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面に付着物あり	
27-52			土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	(13.8)	8.2	3.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面に付着物及び変色あり	
27-53			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(13.4)	(7.4)	3.2	a: 内底ナデ やや強めのナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内底に淡暗褐色の変色あり	
27-54			土製品	ロクロ かわらけ(大)	ほぼ完形	13.2	8.2	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 礫粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
27-55			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	12.6	7.8	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面に付着物及び変色あり	
27-56			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(12.8)	(8.6)	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面に付着物あり	
27-57			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(11.4)	(7.6)	3.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面に付着物あり	
27-58			土製品	ロクロ かわらけ(中)	4/5	11.8	7.4	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面付着物あり	
27-59			土製品	ロクロ かわらけ(中)	3/4	(11.4)	(7.0)	3.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 赤色粒若干多め	
27-60			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	(12.8)	(6.6)	3.7	a: 内底やや強めのナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面に付着物及び変色あり 外面一部特に厚めに付着	
27-61			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.2)	(7.2)	3.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
27-62			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	(12.6)	7.4	3.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面付着物あり	
27-63			土製品	ロクロ かわらけ(中)	4/5	11.8	7.3	3.35	a: 内底やや強めのナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内面に付着物及び変色あり 内底スス付着	
27-64			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.8)	(7.4)	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好	
27-65			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(11.8)	(6.8)	3.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
27-66			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(11.4)	(7.0)	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面付着物あり	
27-67			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(12.8)	(7.2)	3.2	a: 内底やや強めのナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面付着物	
27-68			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	(11.6)	(7.6)	2.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内外面に付着物	
27-69			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	10.6	6.0	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 粉質 c: 肌色 e: 良好 f: 口縁部スス付着	
27-70			土製品	ロクロ かわらけ(大)	ほぼ完形	13.4	8.0	3.4	a: 内底やや強めのナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒少量 ○ c: 橙色 ○ c: 淡橙色 e: 良好 f: 底部やや反り気味	
27-71			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	(12.8)	(7.4)	3.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 ○ c: 淡橙色 e: 良好	
27-72			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	(10.2)	(5.2)	2.6	a: 内底かなり強いナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
27-73			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	9.8	5.2	2.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒ごく少量 良土 c: 肌色 e: 良好 f: 底部の中心歪	
27-74			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	(12.8)	(8.4)	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
27-75			土製品	ロクロ かわらけ(中)	4/5	10.8	6.7	3.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
27-76			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.0)	7.6	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好	
27-77			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	(11.8)	7.1	3.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 微砂 雲母 泥岩粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好	
27-78			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.7)	(8.0)	3.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 b: 赤色粒 海綿骨針 雲母 良土 c: 橙色 e: 良好	
27-79			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.9)	6.5	2.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 海綿骨針 雲母 良土 c: 橙色 e: 良好	
27-80	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.0)	8.0	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 海綿骨針 雲母 微砂 やや粗土 c: 橙色 e: 良好			
27-81	土製品	ロクロ かわらけ(中)	3/4	11.8	7.0	3.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 雲母 微砂 泥岩粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好			
27-82	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.8)	9.0	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 雲母 海綿骨針 泥岩粒 良土 c: 橙色 e: 良好			
27-83	土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	12.9	8.8	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 海綿骨針 雲母 良土 c: 橙色 e: 良好			
27-84	土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	11.7	7.6	3.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 b: 赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好			
27-85	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.0)	7.6	3.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 雲母 海綿骨針 微砂 良土 c: 橙色 e: 良好			
27-86	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.8)	(7.0)	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕(不明瞭) b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好			

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
						口径	底径	器高	重	
27-87	4a面	212	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(11.4)	7.2	2.8	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 微砂 雲母 海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
27-88			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.2)	6.0	3.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 微砂 雲母 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:黄橙色 e:良好	
27-89			土製品	ロクロ かわらけ(大)	ほぼ完形	13.5	8.3	3.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 微砂 海綿骨針 雲母 良土 c:橙色 e:良好	
27-90			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.4)	(7.0)	4.0	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
27-91			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	11.9	7.2	3.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:黄橙色 e:良好	
27-92			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.8)	(6.5)	3.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕(不明瞭) b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c:黄橙色 e:良好	
27-93			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(11.7)	(6.8)	2.7	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや弱い f:内底面一部被熱	
27-94			土製品	ロクロ かわらけ(中)	完形	11.5	7.0	3.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 海綿骨針 雲母 良土 c:橙色 e:良好	
27-95			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.0)	(7.2)	3.7	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 微砂 良土 c:橙色 e:良好	
27-96			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.6)	6.0	3.1	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
27-97			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.0)	(7.0)	2.9	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:泥岩粒 赤色粒 微砂 海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好	
27-98			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	7.8	4.4	2.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
27-99			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.8)	(4.0)	2.1	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	
27-100			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	(4.2)	2.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 ○ c:黄橙色 e:良好 f:内面付着物あり	
27-101			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	8.2	5.0	2.7	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
27-102			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.6	5.0	2.4	a:内底やや強めのナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c:橙色 e:良好	
27-103			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(8.4)	(5.4)	2.4	a:外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:内面付着物あり 器表荒れている	
27-104			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.6)	(5.8)	1.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:外底~側面灰色に変色	
27-105			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(7.2)	(5.2)	1.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:内外面黒色に変色	
27-106			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	7.9	5.4	2.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
27-107			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.6)	4.6	2.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c:橙色 e:良好	
27-108			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.4	5.1	2.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c:橙色 e:良好	
27-109			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.6)	(3.6)	2.4	a:内底ナデ 外底回転糸切り b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
27-110			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.8)	(3.6)	2.4	a:内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c:橙色 e:良好	
27-111			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.8)	(4.6)	2.1	a:内底ナデ 外底回転糸切り b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
27-112			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(5.2)	1.8	a:内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c:橙色 e:良好 f:外面の一部淡橙色に変色	
27-113			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	(7.2)	4.4	1.8	a:内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c:橙色 e:良好	
27-114			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.8)	(5.8)	1.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:赤橙色 e:良好	
27-115			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(8.0)	(5.8)	1.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	
27-116			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(8.0)	(4.8)	2.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色(肌色に近い) e:良好 f:内面付着物	
27-117			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.4)	(3.8)	2.0	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好	
27-118			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(8.2)	(5.0)	2.0	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c:黄橙色(肌色に近い) e:良好	
27-119	土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(7.4)	(5.6)	1.4	a:内底強めのナデ 外底回転糸切 強い板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 良土 c:赤橙色 e:良好			
27-120	土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.6	5.0	1.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好			
28-121	土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	8.3	4.9	2.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:体部×付着?			
28-122	土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.9	5.1	2.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好			
28-123	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.4)	(4.1)	2.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c:黄橙色 e:やや弱い			
28-124	土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	8.0	4.6	2.7	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 雲母 やや粗土 c:黄橙色 e:良好			
28-125	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.0)	4.9	2.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 海綿骨針 赤色粒 雲母 良土 c:黄橙色 e:良好			
28-126	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.9)	(4.7)	2.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 b:赤色粒 微砂 雲母 泥岩粒 やや粗土 黄灰色 c:橙色 e:やや甘い			

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
						口径	底径	器高	重	
28-127	4a面	212	土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.8	4.5	2.4		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c: 橙色 e:良好 f:口縁部に2付着
28-128			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.0)	(5.2)	2.3		a:内底ナデ 外底回転糸切 b:微砂 赤色粒 雲母 海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
28-129			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.4	4.8	2.3		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 微砂 海綿骨針 良土 c: 橙色 e:良好
28-130			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	8.3	5.2	2.6		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:泥岩粒 海綿骨針 赤色粒 雲母 やや粗土 c: 橙色 e:良好
28-131			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	8.3	4.5	2.6		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:泥岩粒 赤色粒 雲母 やや粗土 c:黄灰色 e:良好
28-132			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	8.4	4.8	2.5		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 海綿骨針 微砂 良土 c:黄灰色 e:やや甘い
28-133			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	8.1	5.1	1.9		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c: 橙色 e:良好
28-134			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	8.2	5.1	2.4		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:泥岩粒 海綿骨針 雲母 良土 c:黄灰色 e:良好
28-135			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	8.2	5.0	2.7		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 泥岩粒 雲母 良土 c: 橙色 e:良好
28-136			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	8.1	5.1	2.3		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 泥岩粒 海綿骨針 雲母 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
28-137			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.9)	5.3	2.6		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 赤色粒 雲母 海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
28-138			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.9	5.2	2.4		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:良好
28-139			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.5)	(4.4)	2.3		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 海綿骨針 雲母 やや粗土 c: 橙色 e:良好
28-140			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.7	5.3	2.1		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 泥岩粒 赤色粒 雲母 海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
28-141			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.6	5.2	2.3		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 微砂 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好
28-142			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	8.0	5.0	2.2		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 赤色粒 海綿骨針 雲母 粗土 c: 橙色 e:良好
28-143			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.9	5.0	2.3		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 海綿骨針 赤色粒 雲母 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:口縁部スス付着
28-144			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.2)	4.9	2.4		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 海綿骨針 雲母 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好
28-145			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	7.8	5.0	2.3		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
28-146			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.8	5.0	2.4		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
28-147			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.8	5.3	2.3		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 泥岩粒 良土 c: 橙色 e:良好
28-148			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.7)	(4.5)	2.0		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 泥岩粒 雲母 微砂 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
28-149			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.3)	(5.6)	1.4		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 微砂 やや粗土 c: 橙色 e:良好
28-150			磁器	青磁 蓮弁文碗	口縁部小片	-	-	[3.0]		a: b:灰白色 精良緻密 c: d:灰青色半透明釉 釉層やや薄め
28-151			磁器	白磁 口几皿	口縁部片	-	-	[2.3]		a: b:灰白色 精良 c: d:灰色半透明釉 釉層ごく薄い 口縁部釉剥ぎ
28-152			陶器	瀬戸 御皿	口縁部片	-	-	[2.3]		b:淡黄色 やや粗 d:白色~淡緑灰色釉ハケヌリ f:古瀬戸中期前半
28-153			陶器	瀬戸 柄付片口	1/4	(14.0)	-	[7.5]		b:灰白色 砂粒少量 良土 d:緑灰色釉ナガシカケ(又はツケガケ) 釉層厚い f:古瀬戸中期後半~後期
28-154			土製品	土器質 火鉢	口縁部片	-	-	[3.6]		b:明赤褐色 微砂 雲母 赤色粒 角閃石 緻密 c:明赤褐色 f:内面割れ口は二次焼成?により黒色に変色
28-155			土製品	ロクロ かわらけ	-	-	8.0	[2.7]		a:ロクロ成形 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 c:黄灰色 e:良好 f:打ち欠きあり
28-156			土製品	土錘	長 3.8	幅 1.7	厚 1.7	孔径 10.4		b:土器質 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 緻密 c: 橙色 e:強い
28-157			土製品	平瓦	小片	-	-	厚 [2.1~2.3]		a:凹面離れ砂 凸面斜格子の叩き目 b:灰白色 白色粒 礫粒 良土 粘質 c: 灰色 d: e:良好
28-158			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(13.8)	(8.4)	3.5		a:内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 粗土 c:黄灰色 e:良好
28-159			土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	(13.0)	7.8	3.3		a:内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好
28-160			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/5	(13.4)	(8.0)	3.4		a:内底ナデ 外底回転糸切 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c: 黄灰色 e:良好
28-161			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(13.2)	(8.6)	3.5		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c:黄灰色 e:良好
28-162			土製品	ロクロ かわらけ(大)	ほぼ完形	13.3	7.3	3.7		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 良土 c:黄灰色 e:良好
28-163	土製品	ロクロ かわらけ(中)	3/4	(12.8)	(7.4)	3.5		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好		
28-164	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(12.8)	(7.0)	3.4		a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c:黄灰色 e:良好		
28-165	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/5	(12.6)	(7.0)	3.5		a:内底ナデ 外底回転糸切 b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c: 黄灰色 e:良好		
28-166	土製品	ロクロ かわらけ(中)	4/5	10.0	6.4	2.2		a:内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕? b:微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好		

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)			観察項目
						口径	底径	器高	
28-167	4a面	212	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(8.4)	(4.6)	2.0	a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: 内底ナデ 外底回転系切り b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
28-168			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.8	5.4	2.2	a: 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
28-169			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(8.0)	(5.6)	2.7	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 白色粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
28-170			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	8.2	4.8	2.5	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 淡橙色(肌色) e: 良好 f: 内面回転ナデの痕2条残る
28-171			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.0)	(4.4)	2.0	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 (ごく少量) 良土 c: 黄橙色 e: 良好
28-172			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.4)	(4.8)	2.2	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒(少量) 良土 c: 黄橙色 e: 良好
28-173			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(8.4)	(5.0)	2.4	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 淡橙色(肌色) e: 良好
28-174			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	(4.2)	(4.8)	2.3	a: 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
28-175			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.2)	(7.8)	3.4	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
28-176			土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	(13.0)	7.6	3.6	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 内底スス付着 灯明皿?
28-177			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.4)	(8.0)	3.2	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 粗土 c: 橙色 e: 良好
28-178			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/5	(11.9)	(7.7)	3.7	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 粗土 c: 橙色 e: 良好
28-179			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.4)	(7.0)	3.1	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 橙色 e: 良好
28-180			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.8)	(7.4)	3.2	a: 内底ナデ 外底回転系切 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
28-181			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.8)	(7.0)	3.1	a: 内底ナデ 外底回転系切 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒多い 粗土 c: 橙色 e: 良好
28-182			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(11.6)	(7.8)	3.5	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 少し大きめの(0.2~0.4cm大)赤色粒 粗土 c: 橙色 e: 良好
28-183			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(8.9)	(5.1)	2.2	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
28-184			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.3)	(5.9)	2.3	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内底スス若干付着
28-185			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(8.2)	(6.0)	2.2	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: やや弱い
28-186			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.5)	(4.3)	2.3	a: 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
28-187			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片	-	-	[4.9]	a: 粘土紐輪積み技法 貼り付け高台 外面回転ケズリ b: 灰色 砂粒 白色粒多量 粗土 c: 灰色 d: e: 良好 f: 内面摩擦顕著
29-188			土製品	ロクロ かわらけ(特大)	1/3	(16.2)	(9.8)	4.3	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 橙色 e: 良好
29-189			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.9)	8.2	3.9	a: 内底ナデ 外底回転系切 b: 微砂 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好
29-190			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.1)	7.8	3.2	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
29-191			土製品	ロクロ かわらけ(大)	底部完形	(13.2)	8.0	3.5	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 泥岩粒 赤色粒 雲母 微砂 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
29-192			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(12.9)	(7.5)	3.5	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 赤色粒 雲母 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
29-193			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.0)	(4.8)	1.9	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
29-194			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.7)	(4.8)	2.2	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 赤色粒 泥岩粒 雲母 良土 c: 黄橙色 e: 良好
29-195			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	4.4	2.2	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好
29-196			陶器	常滑 甕研磨片	-	長 8.5	幅 5.8	-	f: 胴部片の割れ口を研磨
29-197			鉄製品	釘	-	長 [6.2]	幅 [0.5]	厚 [0.3]	
29-198			木製品	箸	-	長 [13.5]	幅 0.5	厚 [0.4]	
29-199			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	11.6	7.9	3.1	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
29-200			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.1)	(5.0)	2.3	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
29-201			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	8.2	4.9	2.1	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 黄橙色 e: やや弱い
29-202			土製品	内折 かわらけ(極小)	1/6	(4.4)	(3.4)	0.8	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 精緻 c: 橙色 e: 良好
29-203			磁器	青磁 劃花文碗	口縁部片	-	-	[2.2]	b: 灰白色 精良堅緻 d: 緑灰色半透明釉 釉厚厚い f: 貫入あり
29-204			陶器	常滑甕	肩部片	-	-	[3.4]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 黒色 砂粒 白色粒 緻密 c: 灰褐色 e: 良好 c: 黄灰白色 f: 凝灰岩中砥 4面使用 木口1ヶ所残る
29-205			石製品	砥石	-	長 [4.4]	幅 3.5	厚 2.3	
29-206			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.0)	7.4	3.5	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c: 橙色 e: 良好
29-207			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.4)	(7.6)	3.5	a: 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 赤色粒 微砂 雲母 海綿骨針 良土 c: 黄橙色 e: 良好

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
						口径	底径	器高	重	
29-208	4a面	211	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(11.4)	(7.5)	3.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 良土 c:橙色 e:良好	
29-209			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.4)	(7.6)	3.0	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c:黄橙色 e:良好	
29-210			土製品	ロクロ かわらけ(中)	5/6	11.7	6.5	3.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 微砂 雲母 海綿骨針 良土 c:黄橙色 e:良好	
29-211			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	(11.1)	7.0	3.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好	
29-212			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(10.1)	(5.0)	2.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:黄橙色 e:良好	
29-213			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.0)	(4.6)	2.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 微砂 海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:やや甘い	
29-214			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.7	4.6	2.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 微砂少量 良土 c:橙色 e:良好	
29-215			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.2)	(5.4)	2.3	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや弱い	
29-216			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.8	4.8	2.2	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c:黄橙色 e:良好	
29-217			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	8.1	4.9	2.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c:黄橙色 e:良好	
29-218		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	5.4	1.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c:橙色 e:良好		
29-219		磁器	青磁 碗	底部片	-	-	[2.9]	b:灰白色 精良堅緻 d:淡緑灰色不透明釉 釉層厚い 貫入あり 畳付釉はぎ		
29-220		陶器	瀬戸 折縁中皿	底部完形	-	9.5	2.2	a:外底回転糸切 b:灰白色 精良土 c: d:外面上部部～内面全体に淡緑灰色釉ナガシカケ 釉層厚い e:良好・軟質 f:古瀬戸中期後半か 破片になっから被熱 断面にスス付着		
29-221		陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	-	-	[5.1]	a:粘土紐輪積み技法 b:橙色 砂粒 白色粒 やや粗土 堅緻 c:橙色 e:良好 f:7～8型式か		
29-222		土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.4	8.1	3.7	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好		
29-223		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(8.0)	(4.7)	1.8	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 泥岩粒 角閃石 e:やや弱 f:灯明皿		
29-224		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.4)	(5.4)	1.7	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c:黄橙色 e:良好		
29-225		土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/5	(13.3)	(7.7)	3.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好		
29-226		土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	(13.0)	7.2	3.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c:黄橙色 e:良好		
29-227		土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.0)	(7.0)	3.1	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c:橙色 e:良好		
29-228		土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/5	(11.4)	(7.5)	2.9	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好		
29-229	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(10.2)	(5.8)	3.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 良土 c:橙色 e:良好			
29-230	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.2)	(6.3)	1.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや弱い			
29-231	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(8.1)	(5.8)	1.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 赤色粒 雲母 海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好			
29-232	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(8.0)	(5.9)	1.5	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好			
29-233	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(5.8)	1.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c:橙色 e:良好			
29-234	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(5.6)	1.4	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好			
29-235	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.5)	(5.3)	1.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:灯明皿			
29-236	磁器	青磁 蓮弁文碗	口縁部片	-	-	[2.0]	b:白色 精良堅緻 d:淡緑色不透明釉 釉層厚い f:龍泉窯 貫入あり			
29-237	磁器	青磁 折縁皿	口縁部片	-	-	[1.7]	b:灰白色 精良堅緻 d:緑灰色透明釉 釉層やや厚い f:龍泉窯 貫入あり			
29-238	磁器	白磁 口兀皿	口縁部片	-	-	[1.5]	b:灰白色 精良堅緻 d:灰白色半透明釉 釉層薄い 口縁部釉剥ぎ f:釉剥ぎ部に漆付着			
29-239	磁器	青白磁 梅瓶(蓋)	口縁部	上部径 (4.9)	-	[2.6]	b:白色 精良堅緻 d:明水青色透明釉 釉層薄い f:景德鎮窯 口縁露胎 内面無釉 貫入あり			
29-240	磁器	青白磁 梅瓶(蓋)	口縁部片	-	-	[1.4]	b:白色 黒色粒 精緻 d:明水青色透明釉 釉層薄い 内面施釉 f:景德鎮窯 露胎部口縁部外面は橙色を呈す			
29-241	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片	-	-	[2.3]	a:粘土紐輪積み技法 b:灰色 砂粒 白色粒多量 粗土 c:灰色 d:口縁～外面に白い斑点状の自然釉降灰 e:良好 f:5～6a型式か			
29-242	石製品	砥石	-	長 [2.5]	幅 [1.4]	厚 [0.4]	c:赤褐色 f:真岩製仕上砥 1面使用 木口1面残存か			
29-243	石製品	碁石	-	長 1.8	幅 1.5	厚 0.5	c:黒色			
32-1	5面	214	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	12.8	7.4	3.0	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 粗土 c:橙～黄灰色 e:ムラあり	
32-2			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.2)	(7.4)	3.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 粗土 c:黄灰色 e:良好	
32-3			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.1)	(5.6)	1.7	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c:橙色 e:良好	
32-4			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(7.6)	(4.9)	1.6	a:内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 粗土 c:橙色 e:良好	

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)			観察項目	
						口径	底径	器高		重
32-5	5面	215	土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	8.2	5.5	1.8	a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い	
32-6		221	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	5.7	1.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
32-7		224	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.2)	(8.5)	3.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 口縁~下部スス付着 灯明皿	
32-8			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	5.4	1.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
32-9		225	陶器	黄釉鉄絵盤	底部~底部	-	-	[5.2]	b: 黄灰色 白色粒 黒色粒 砂粒 粗土 堅緻 c: 灰黄色 d: 黄釉(緑灰 色) ハケスリ 外面無釉 f: 泉州産 鉄絵は発色が悪く白化	
32-10		226	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	(6.1)	1.5	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤 色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 口縁部 1カ所スス付着 灯明皿	
32-11		227	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	5.4	1.5	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色 粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 橙色 e: 良好	
32-12			磁器	青白磁 合子(蓋付壺?)	底部1/4	-	(5.2)	[1.1]	b: 白色 精良 d: 水青色透明釉 釉層薄い 内面のみ施釉 f: 景德鎮窯 貫入あり 気泡あり 気孔あり	
32-13		陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部小 片	-	-	[9.2]	a: 粘土紐輪積み技法 内外面ヨコナデ ハケナデ後ヨコナデ 縦方向のナ デ b: 灰色 白色粒 精緻 c: 外面暗灰黄色 外面口縁部付近~内面灰褐 色 d: 内面緑灰色~白色釉降灰 e: 良好 f: 6a 型式		
32-14		228	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.5)	(6.0)	1.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕(不明瞭) b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い	
32-15		237	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.8)	(8.6)	3.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
32-16			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	8.2	5.8	1.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
32-17			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.0)	(6.2)	1.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c: 橙色 e: 良好	
32-18			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.9)	(5.6)	1.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 内面スス付着 灯明皿?	
32-19			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片	-	-	[4.4]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰色 砂粒 白色粒 小石粒 粗土 c: 灰色 e: 良好 f: 5~6a 型式か	
32-20			243	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片	-	-	[3.2]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰白色 砂粒 白色粒 黒色粒 やや粗土 c: 灰 白色 d: 内面やや緑灰色を帯びた自然釉降灰 e: 良好
32-21			245	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(8.0)	(6.1)	1.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 良土 c: 黄橙色 e: 良好
32-22		245	磁器	青白磁 梅瓶蓋か	口縁部片	-	-	[1.2]	b: 灰白色 精良堅緻 d: 水青色釉 内面無釉 f: 景德鎮窯	
32-23		247	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.5)	(9.0)	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
32-24			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(12.4)	8.0	3.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
32-25			土製品	ロクロ かわらけ(中)	4/5	12.1	7.8	3.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 ナデ? b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: にぶい橙色 e: 良好	
32-26			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.0)	(8.1)	2.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い	
32-27			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(12.5)	7.6	3.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 粗土 c: 橙色 e: 良好	
32-28			土製品	ロクロ かわらけ(中)	3/4	11.8	7.7	3.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: にぶい橙色 e: 良好	
32-29			土製品	ロクロ かわらけ(中)	2/3	12.0	8.2	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い	
32-30			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.0)	(7.0)	3.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: やや弱い	
32-31			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.0)	8.0	3.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 内面被熱 灯明皿か	
32-32			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	10.9	6.5	3.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好	
32-33			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(12.1)	(8.6)	3.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 外面全体~内面器壁スス付着か	
32-34			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	11.8	6.8	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い	
32-35			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.5	5.2	1.8	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
32-36			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	7.2	4.1	2.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c: 橙色 e: 良好 f: 灯明皿	
32-37			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	7.8	5.9	1.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
32-38			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	(8.0)	6.2	1.8	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: にぶい橙色 e: 良好	
32-39			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.2)	(6.2)	1.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 口縁部にスス付着 灯明皿	
32-40			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.6	5.4	1.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 泥岩粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
32-41			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.6	5.6	1.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 口縁部1カ所スス付着 灯明皿	
32-42			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	7.8	5.1	2.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 黄橙色 e: 良好	
32-43			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.0)	5.5	1.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)			観察項目
						口径	底径	器高	
32-44	5面	247	土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.9	5.7	2.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 橙色 e: 良好
32-45			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	8.0	5.3	1.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
32-46			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	8.1	4.5	2.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 灯明皿
32-47			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.1)	5.0	1.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: やや弱い
32-48			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.4	5.3	1.8	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
32-49			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.0)	(4.6)	1.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い
32-50			土製品	内折 かわらけ(極小)	ほぼ完形	4.5	4.0	0.9	a: 内底ヨコナデ 外底回転糸切 板状ではない不明圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 良土 c: 黄灰色~黄橙色 e: 良好 f:
32-51			磁器	青磁 連弁文碗	1/3	(9.3)	-	[3.6]	b: 灰白色 精良堅緻 気孔わずかにあり d: 淡緑色半透明釉 釉層やや薄い f: 龍泉窯 貫入あり
32-52			陶器	器種不明	口縁部 1/6	(7.4)	-	[2.0]	b: 橙色 精緻 c: 橙色 d: 口縁部に白色釉降灰
32-53			陶器	施釉陶器 黄釉鉄絵盤	口縁部片	-	-	[3.4]	b: 灰黄色 白色粒 黒色粒 砂粒 粗土 堅緻 d: 黄釉(緑灰色)ハケヌリ f: 泉州産 口縁部付近釉ムラ無釉に近い 残存部鉄絵なし
32-54			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	-	-	[3.1]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 粗土 c: 灰色 d: 口縁部付近に無色釉極ごく少量降灰 e: 良好 f: 5~6a型式
32-55			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部 1/6	-	(12.3)	[6.2]	a: 粘土紐輪積み技法 外面ヨコナデ b: 灰色 砂粒 白色粒 精緻 c: 灰色 d: 内面緑灰色釉降灰 e: 良好 f: 内面降灰するが摩滅著しい
32-56			土製品	瓦質 火鉢か	口縁~底 部片	-	-	7.0	a: 内面ヨコナデ 外面ヨコナデ ナデ b: 橙色 砂粒 赤色粒 白色粒 小石粒 緻密 c: 灰色 e: 良好
32-57			石製品	砥石	-	長 [5.4]	幅 2.4	厚 [0.5]	f: 天草産中砥 頁岩製 1面使用 裏面は自然剥離
32-58			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.0)	(8.4)	3.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
32-59			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.0)	8.4	2.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: やや弱い
32-60			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	8.0	6.1	1.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
32-61			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	8.1	5.8	1.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い
32-62			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.9	5.9	1.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
32-63			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.7)	(5.8)	1.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い
32-64			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.5)	(4.8)	1.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕(不明瞭) b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 粗土 c: 橙色 e: 良好
32-65			陶器	瀬戸 片口鉢	口縁部片	-	-	[5.7]	b: 灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 堅緻 c: 灰色 d: 内面明緑灰色釉降灰 f: 内面下部摩耗
32-66			石製品	砥石	-	長 [5.9]	幅 3.8	厚 0.8	c: 灰橙色 f: 頁岩製仕上砥 2面使用 両側面生産地加工痕
32-67			石製品	砥石	-	長 [6.0]	幅 3.9	厚 1.0	c: 黄灰色 f: 頁岩仕上砥 2面使用 木口1ヶ所 両側面イキ
32-68			土製品	平瓦	-	長 [6.3]	幅 [5.4]	厚 1.8	a: 凹面糸切り痕 凸面糸切痕 縄目 離れ砂付着 b: 灰白色 白色粒少量 精緻 c: 灰白色 d: 良好
33-69			土製品	平瓦	-	長 [13.5]	幅 [16.7]	厚 2.9	a: 凹面布目痕 ナデ 凸面斜格子叩き b: 灰白色 砂粒 粗土 c: 灰色 e: 良好 f: 穿孔した穴有り(焼成前)
33-70			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.2)	(6.0)	1.5	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い
33-71			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.0)	(5.2)	1.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: にぶい橙色 e: 良好 f: 二次焼成
33-72			土製品	瓦質 火鉢	口縁~底 部小片	-	-	[5.5]	a: 内面ヨコナデ 外面ヨコナデ ナデ b: 灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 緻密 c: 外面暗灰色 内面灰色 e: 良好 f: 外面炭素吸着か? 硬質
33-73			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.8)	(9.8)	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 粗土 c: 橙色 e: 良好
33-74			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.0)	(8.6)	3.0	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
33-75			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.0)	(7.0)	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 精緻 c: 橙色 e: 良好 f: 内面スス付着(灯明皿?)
33-76			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(12.4)	(7.0)	2.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い
33-77	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(11.2)	(6.6)	3.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好		
33-78	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(11.0)	(6.0)	2.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精緻 c: 黄橙色 e: 良好		
33-79	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.6)	(6.2)	1.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い		
33-80	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.1)	(5.8)	1.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e: 良好		
33-81	磁器	青磁 無文碗(環?)	口縁部片	-	-	[3.6]	b: 白色 精良堅緻 d: 暗緑灰色透明釉 釉層厚い f: 龍泉窯 気泡あり		
33-82	磁器	白磁 玉縁碗?	底部 1/6	-	(5.8)	[2.0]	b: 白色 精良堅緻 d: 灰白色透明釉 釉層薄い f: 高台置付~高台内露胎		
33-83	石製品	砥石	-	長 [14.9]	幅 [3.7]	厚 [5.2]	c: 橙色 f: 天草産中砥 4面使用 木口1ヶ所残る 部分的に被熱による 変色 スス付着あり 5面溝 19? 上層No.288 と接合		

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目 a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
						口径	底径	器高	重	
33-84		248	鉄製品	釘	-	長 [5.4]	幅 [0.3]	厚 [0.2]		
33-85			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	11.0	6.6	3.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕(不明瞭) b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 黄橙色 e: 良好	
33-86			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	5.4	1.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い	
33-87			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.9)	5.8	1.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 やや粗土 c: 橙~灰色 e: やや弱い f: 二次焼成	
33-88			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.8)	(6.0)	1.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c: 橙色 e: 強い	
33-89			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.5)	(5.4)	1.8	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕(不明瞭) b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
33-90			磁器	青磁 鍋蓮弁文碗	口縁部片	-	-	[5.1]	b: 灰白色 精良堅緻 d: 淡緑灰色不透明釉 釉層厚い f: 龍泉窯 貫入あり	
33-91			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.8	5.7	1.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f:	
33-92			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.9	6.0	1.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 粗土 c: 黄灰色 e: やや弱い	
33-93			石製品	玉石	-	長 3.1	幅 2.0	厚 1.2	f: 花崗岩製玉石	
33-94			磁器	青磁 蓮弁文折縁鉢	口縁部片	(20.5)	-	[3.2]	b: 浅黄橙色 精良 ややしり悪 d: ぶい黄褐色(米色)半透明釉 釉層薄い f: 龍泉窯 貫入あり イ-506と同一個体とみられる	
33-95			土製品	ロクロ かわらけ(中)	ほぼ完形	12.6	7.5	3.9	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 微砂 雲母 海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
33-96			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.6	5.9	1.3	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 砂粒 泥岩粒 赤色粒 雲母 粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い	
33-97			磁器	白磁 口元皿	口縁部片	-	-	[3.2]	b: 白色 黒色粒少量 精良堅緻 d: 灰白色不透明釉 釉層薄い f: 口縁部 釉はぎ 貫入あり	
33-98			磁器	青磁 鍋蓮弁文碗	口縁部片	-	-	[2.7]	b: 白色 精良堅緻 d: 淡緑青色半透明釉 釉層やや厚い f: 龍泉窯	
33-99	5面		磁器	白磁 口元皿	口縁部片	-	-	[2.8]	b: 白色 精良堅緻 d: 灰白色不透明釉 釉層薄い f: 口縁部はぎ部分にスス付着	
33-100			磁器	白磁 口元皿	口縁部片	-	-	[3.0]	b: 白色 精良堅緻 d: 灰白色透明釉 釉層薄い	
33-101			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片	-	-	[8.9]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰色 砂粒 白色粒 小石粒 粗土 c: 灰色 d: 口縁部のみ淡緑灰色の自然釉降灰 e: 良好	
33-102			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.9	5.1	1.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 粗土 c: 橙色 e: 良好	
33-103			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.0)	(6.0)	1.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 粗土 c: 橙色 e: 良好	
33-104			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.8)	(5.8)	1.5	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 内面墨書か?	
33-105			磁器	青磁 折縁鉢	口縁部片	-	-	[1.8]	b: 白色 精良堅緻 d: 淡緑色半透明釉 釉層厚い f: 龍泉窯 気泡あり	
33-106			土製品	平瓦	-	長 [6.9]	幅 [5.6]	厚 1.9	a: 凹面縦位のナデ? 凸面離れ砂付着 b: 灰白色 砂粒 小石粒 精緻 c: 灰色 e: 硬質	
34-107			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.0)	(8.0)	3.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
34-108			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	8.0	5.9	1.9	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 微砂 雲母 海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
34-109			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.2)	(5.9)	1.7	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 赤色粒 微砂 雲母多量 粗土 c: 橙色 e: 良好	
34-110			磁器	青磁 鍋蓮弁文碗	口縁部小片	-	-	[4.4]	b: 灰色~浅黄橙色 精良 d: 明緑灰色不透明釉 釉層薄い f: 龍泉窯 気泡多い 貫入あり	
34-111			陶器	常滑 甕	口縁部片	-	-	[5.6]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰色 白色粒少量 c: 暗赤褐色 d: 外面頸部黄灰色の自然釉降灰 e: 良好	
34-112			陶器	常滑 広口壺か	肩部小片	-	-	[21.5]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰白色 砂粒 白色粒 小石粒 やや粗土 堅緻 c: 褐色 d: e: 良好 f: 緑灰色の自然釉降灰するも殆ど剥落	
34-113			陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部小片	-	-	[7.1]	a: 粘土紐輪積み技法 内面ヨコナデ 外面ヨコナデ ナデ(指頭+縦方向ハケ) b: 灰色 小石粒 堅緻 c: ぶい褐色 内面褐色 d: 内面緑灰色~白色釉降灰 e: 良好 f: 5型式か	
36-1			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(12.5)	(8.2)	3.1	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 角閃石 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
36-2			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	(12.9)	(8.2)	3.3	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 赤色粒 雲母 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好	
36-3			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.8)	(5.6)	1.6	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 角閃石 粗土 c: 橙色 e: 良好	
36-4			磁器	青白磁 梅瓶(蓋)	天井部 1/2	天井部 5.5	-	1.8	b: 白色 黒色粒少量 精良堅緻 d: 水青色透明釉 釉層薄い 内面無釉 f: 貫入あり	
36-5			木製品	○	-	長 34.3	幅 2.4	厚 2.1	f: 先端杭状	
37-1			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/5	(12.1)	(6.2)	3.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好 f: スス付着(灯明皿?・二次焼成?)	
37-2			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/5	(10.9)	(6.0)	3.4	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 灯明皿 器表は摩滅著しい	
37-3			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.9)	(5.3)	2.2	a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 灯明皿	
37-4			陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	-	-	[4.5]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰色 砂粒 白色粒 小石粒 やや粗土 c: ぶい褐色 口縁部にぶい赤褐色 e: 良好 f: 10~11型式か	
37-5			陶器	常滑 甕	底部片	-	-	[5.6]	a: 粘土紐輪積み技法 b: 黄灰色 砂粒 白色粒 粗土 c: 外面暗灰黄色 内面褐色 d: 内面灰色釉降灰 e: 良好	

出土面		3b面										4面																						
種別		ピット					土坑					ピット																						
遺構名		106	109	110	111	112	113	114	115	116	構成土	117	118	119	120	121	122	123	126	128	130	131	132	134	135	136	137	138	142	143	144	145	146	149
かわらけ	大								1	3		3											1											
	中						1		1	2																								
	小				2				2	2				1									1	1										1
	小片	6	2		1	2	1	5	3	16	32	10	7	8	11	2	5	1	1	7		1	16	4	1	3	4	11		1	7	1	3	
国産	常滑			1						2	1			1						1			1											
	瀬戸									2																								
	青磁									1																		1						
	土器質火鉢							1																										
	瓦質火鉢									1													1											
	鉄釘				1					1											1													
	石																						1											
	合計	6	2	1	2	4	2	6	4	19	47	11	10	8	13	2	5	1	1	7	2	1	19	7	1	3	4	12	1	1	7	1	3	1

出土面		4面																														
種別		ピット														土坑										溝				遺構外	構成土	
遺構名		150	151	152	153	154	155	156	158	159	161	165	166	167	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	183	184			
かわらけ	大		1	1	1											1						4			1	4		4	23	1		
	中															1	2									1		5	47	1		
	小			4						1	3				1	2		2	3		1				1	2	2	7	239	1	18	
	小片	1	3	5	2	1	4	1		2	1		6	15	20	4	3	4	7	2	16	6	11	3	18	77	11	178	1146	91	168	
国産陶磁器	甕														1		1				1				1	3		8	18	5	10	
	壺																															
	I類														1		1									3		7	1	3		
	II類														1										1	1?						
	磨り常滑																								1							
	瀬戸									1				1							2		2	1		4	1	5	6	2	3	
舶載陶磁器	青磁													1			1		1				1					1	5	2	1	
	白磁																										1	1	1		1	
	青白磁																									1	1	2				
	黄釉・緑釉																												1			
	不明																														1	
	土器質火鉢																												1			
	不明土製品																											1	4			
瓦質	火鉢									1																1	1		11	1	5	
	瓦																												6	1	1	
金属製品	銭																												1	1		
	釘				1										1														3	1	2	
	不明																												2			1
石製品	砥石																											1		1		
	硯																									1				1		
	滑石																													1		
	基石													1																1	1	
木製	漆器椀																												1			
	部材																												5			
	箸																												1			
自然遺物	加工品																	1														
	獣骨																					1				1		2	2		5	
	石				1										1	1										2	1		2		3	
	炭化物																												1			
	合計	1	4	10	5	1	4	1	1	6	2	1	10	17	27	7	4	8	11	3	25	6	14	4	24	101	14	226	1528	112	222	

出土面		4a面																	5面														
種別		ピット									溝								ピット														
遺構名		185	186	196	198	203	205	206	207	208	209	212 -38	212 -40	212 上層	212 中層	212 下層	212 ①	212 ②	212 ③	212 ④	212 ⑤	213	構成土	214	215	217	220	221	223	224	225	226	227
かわらけ	大										19	15	9	6	23	1	9	3	2	9	1	10	1		1							1	
	中										16	9	1	10	65		18	8	3	36	1	2	4					1	1				
	小				1			1			116	13	70	18	123		7	8	2	20	33	36	4	2			2		2		2	1	
	極小														1																		
	小片	2	1	6	4	2		3		2	5	502	195	502	193	657	1	61	18	5	77	262	154	3		4		11		9	4	5	9
	白かわらけ										3																						
国産陶磁器	常滑																																
	壺							1			7	1	1		3		2					13	7			1							
	I類										2	2	1		2						1	2											
	II類										2										2											1	
	磨り常滑												1																				
	瀬戸										3				1						2	1											
	渥美																																
	不明										1																						
舶載陶磁器	青磁										4	2			3						3	10							1				
	白磁											1									1	2										1	
	青白磁																				1	1											
	黄釉・緑釉																				1										1		
	不明										1																						
土製品	火鉢					1								1																			
	土鍾										1																						
	不明																1																
画質	瓦器													1																			
	火鉢										5		1		4		1			1	2												
	瓦										1	1					1				1	1											
	釘											1																					
石製品	砥石											1			1							1											
	滑石																											2					
	碁石																					1											
木製	部材												1																				
	箸												1																				
	不明																										1						
	獣骨													1							8												
	石										1					1					1	1											
	炭化物																			1													
	合計	2	1	6	4	3	1	4	1	2	6	683	240	590	227	886	2	101	38	12	144	333	232	12	2	6	1	13	1	13	5	7	13

出土面		5面																			6面		表土	廃土山	試掘時	攪乱		
種別	遺構名	ビット					土坑					溝		石台					井戸	249								
		228	229	232	233	237	239	240	242	243	244	245	246	247	248	溝20?	周辺	台上	面直下	赤色土内	深堀	構成土	5a面炭層内					
かわらけ	大		1	1								3	11		7		1				1	2	4	8				
	中				3							11	16		3		1	3				1	2	1	5	2	2	
	小	1		1	6	1	2				1	43	92	7	14	1	16	6	8			11	2	1	6		3	2
	極小												3															
	小片	1	4		1	12	18	3	2	1	3	7	176	247	15	91	4	79	12	14	16	21	2	7	105	5	26	16
	白かわらけ																1		2									
国産陶磁器	甕											1	9	3	1		2	2	1	1	5			3	2		2	1
	壺																											
	I類				1					1				9	1	1						1		1				
	II類																											1
	不明																		1									
舶載陶磁器	瀬戸					1							1				1									2		2
	不明																											3
	青磁												15		4		6		1	1	1					1		
	白磁														1	1	2	1	1									
	青白磁												1											1				
土製品	黄釉・緑釉											4					1				2							
	不明										1				1													
	火鉢																											
	鞆の羽口											1																
	吉備系土師器												1															
瓦質	不明														2													
	瓦質火鉢												7				1											1
	瓦												2							1								
	鉄釘																											
	砥石												4		1													
木製	玉石																											
	部材																										1	
	箸																										1	
	獣骨												7															
	石															1												2
近代遺物																												12
合計		2	5	2	1	22	20	5	2	2	3	9	235	429	27	129	5	114	24	28	20	40	4	20	143	7	40	19

種別		総計
かわらけ	大	369
	中	290
	小	1083
	極小	19
	小片	7051
	手づくね小	1
	白かわらけ	10
	特殊	1
	不明	20
	甕	196
国産陶磁器	壺	3
	I類	46
	II類	18
	磨り常滑	2
	不明	1
	瀬戸	103
	渥美	1
	備前	2
	山茶碗不明	1
	不明	8
舶載陶磁器	青磁	81
	白磁	16
	青白磁	9
	黄釉・緑釉	10
	天目	1
	不明	4
	火鉢	6
	鞆の羽口	2
	吉備系土師器	1
	磨りかわらけ	1
土製品	土錘	1
	土鍋	1
	不明	10

種別		総計
瓦質製品	瓦器	1
	火鉢	77
	風炉	1
	瓦	18
	銭	8
金属製品	釘	28
	不明	6
石製品	砥石	13
	硯	2
	滑石	3
	碁石	8
	玉石	1
木製	漆器椀	1
	部材	7
	箸	3
	不明	1
	加工品	1
自然遺物	獣骨	37
	人骨	2
	石	29
	炭化物	2
	近代遺物	13
合計		9630

表3 出土自然遺物観察表

no.	出土面	出土地点	種類	数	備考	
1	1面	遺構14	肋骨	2		
2		構成土	歯	1	ウマか	
3		遺構15	歯	1	ウマか	
4	2面	構成土	歯	1	ウシか	
5		2a面	構成土	歯	1	ウマか
6	3面	構成土	歯	1	ウマか	
7		肋骨片	1			
8	3a面	遺構70	大腿骨か	1		
9			足根中足骨	1	キジ類	
10			遺構173	鹿角加工骨	1	
11	4面	遺構175	不明	1		
12		遺構179	基節骨	1	ウマ	
13			不明	10		
14		遺構180	下顎骨	1	タヌキか	
15			遺構183	不明	2	
16		遺構184	肋骨片か	1		
17			不明	1		
18		4a面	遺構212	下顎骨	1	タヌキか
19				下顎骨	1	タヌキか
20		5面	遺構247	寛骨か	1	
21	不明			5		

積善遺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

積善遺跡（鎌倉市十二所字積善に所在）は、鎌倉市北東部の丘陵地帯に位置する。今回、遺構が構築された頃および埋積する過程で周囲に存在した植生や植物の利用を検討する上で有効な花粉化石や植物珪酸体の含有が期待された。今回は、これらの産状を調べて植生や農耕に関する情報を得るために、花粉分析と植物珪酸体分析を実施した。

1. 試料

遺構覆土から採取され、分析調査用に選択された土壌試料6点（東59, 東79, 西13, 南30, 南60, 北18）である。分析の際は、同一試料を各分析項目で分割して用いた。

これらの試料は、東59が黒色砂質シルト、東79が黒褐色砂質シルト、西13が黒褐色砂質シルト、南30が黒色砂質シルト～粘土、南60が黒色礫混じり砂質シルト、北18が黒褐色礫混じり砂質シルトからなる。

2. 分析方法

(1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中村（1980）、三好ほか（2011）などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。

(2) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2010）の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を計量し、乾土1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を乾土1gあたりの個数に換算）を求める。

また今回の試料では、珪化組織片が見られた。植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列な

どの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や攪乱などの影響によって分離し単体となる。しかし、植物が燃えた後の灰や炭化物には組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い(例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社,1993)。そのため、珪化組織片の産状により当時の燃料材などの種類が明らかになると考えられる。そのため、今回は珪化組織片の産状にも注目した。

結果は、検出された植物珪酸体の分類群と植物珪酸体含量および珪化組織片の産状の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め(100単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

3. 結果

(1) 花粉分析

結果を表1に示す。各試料で検出される花粉化石数は少なく、定量分析を行うだけの個体数は得られない。全体的に保存状態は普通～やや悪く、花粉外膜が破損あるいは溶解しているものも認められる。

花粉化石群集は、いずれも草本花粉が多い傾向にある。検出された木本花粉にはマツ属、サワグルミ属、

表1. 花粉分析結果

種 類	遺構覆土					
	東59	東79	西13	南30	南60	北18
木本花粉						
マツ属複維管束亜属	-	4	1	5	-	2
マツ属(不明)	1	2	3	8	-	1
サワグルミ属	-	-	-	-	-	1
ハンノキ属	-	-	-	1	-	-
コナラ属アカガシ亜属	-	-	1	1	-	-
クリ属	-	-	1	-	-	-
草本花粉						
イネ科	7	3	3	26	-	3
カヤツリグサ科	-	-	1	1	-	-
クワ科	-	-	-	3	-	-
アカザ科	1	1	8	7	-	3
ナデシコ科	-	-	2	-	-	1
アブラナ科	-	1	3	5	-	-
ツリガネニンジン属-ホタルブクロ属	-	1	-	-	-	-
ヨモギ属	-	1	-	1	-	-
タンポポ科	-	1	-	-	2	-
不明花粉						
不明花粉	1	2	1	-	-	-
シダ類孢子						
シダ類孢子	-	11	15	7	2	6
合 計						
木本花粉	1	6	6	15	0	4
草本花粉	8	8	17	43	2	7
不明花粉	1	2	1	0	0	0
シダ類孢子	0	11	15	7	2	6
合計(不明を除く)	9	25	38	65	4	17
寄生虫卵						
回虫卵	-	-	-	17	-	-
鞭虫卵	-	1	-	45	-	-
肝吸虫卵	-	-	-	3	-	-

ハンノキ属、コナラ属アカガシ亜属、クリ属、草本花粉にはイネ科、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科、ナデシコ科、アブラナ科、タンポポ亜科などが認められる。

なお東79と南30からは、寄生虫卵も確認される。特に南30では、回虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵が検出され、産出個体数も多い。

(2) 植物珪酸体分析

結果を表2、図1に示す。

分析試料のうち、東79試料を除いて、珪化組織片が産出する。

特に東59試料は非常に多く検出され、イネ属やメダケ属、ススキ属の短細胞列が目立つ。他の試料でも、これらが見られ、西13試料ではイネ属短細胞列、南30試料ではイネ属短細胞列とメダケ属短細胞列が多い。

単体の植物珪酸体でもイネ属などが見られ、イチゴツナギ亜科も稀に認められる。

表2. 植物珪酸体含量 (個/g)

分類群	遺構覆土					
	東59	東79	西13	南30	南60	北18
イネ科葉部短細胞珪酸体						
イネ属	9,500	-	300	<100	<100	-
メダケ属	1,400	-	-	200	<100	<100
タケ亜科	2,400	<100	300	500	100	<100
ススキ属	51,800	-	-	600	100	-
イチゴツナギ亜科	-	-	-	100	<100	-
不明	36,100	<100	<101	1,100	300	100
イネ科葉身機動細胞珪酸体						
イネ属	5,700	-	400	200	200	<100
メダケ属	1,900	-	100	400	400	<100
タケ亜科	1,400	<100	200	300	300	100
ススキ属	2,400	-	200	300	200	-
不明	10,000	100	500	1,200	700	200
合計						
イネ科葉部短細胞珪酸体	101,300	<100	600	2,600	800	200
イネ科葉身機動細胞珪酸体	21,400	200	1,500	2,500	1,800	400
植物珪酸体含量	122,700	300	2,100	5,100	2,600	600
珪化組織片						
イネ属短細胞列	***	-	**	**	*	*
メダケ属短細胞列	***	-	*	**	*	*
ススキ属短細胞列	***	-	*	*	*	-

含量は、10の位で丸めている(100単位にする)
 合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている
 <100:100個/g未満
 -:未検出,* :含有,** :多い,*** :非常に多い

4. 考察

試料からは花粉化石が検出されるもの、全体的に検出個数が少なく、古植生推定のための定量解析を行うことはできなかった。一般的に花粉やシダ類胞子は、腐蝕に対する抵抗性が種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。検出された種類の花粉は、比較的分解に強いものあるいは分解が進んでも同定可能なものが多い。そのため、現代までに経年変化を受けても分解に強い花粉が選択的に残されたと考えられる。

検出された種類を見ると、マツ属は林縁や二次林などの要素、コナラ属アカガシ亜属は暖温帯性常緑広葉樹林の主要構成要素であることから、当時の周辺丘陵上などにマツ属やアカガシ亜属、クリ属などが生育していた可能性がある。またサワグルミ属やハンノキ属は溪谷沿いや河畔に生育することから、丘陵を開析する谷や周辺河川沿いなどに生育していた可能性がある。

草本類は、イネ科、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科、ナデシコ科、アブラナ科、タンポポ亜科など、いずれも開けた明るい場所に生育する種を含むことから、当時の調査区内やその周辺の草地植生に由来すると思われる。植物珪酸体で検出された分類群からは、イネ科の中にイネ属やメダケ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科が含まれていたと考えられる。

また、東59ではイネ属やメダケ属、ススキ属の短細胞列が目立った。東59は、黒色を呈し、炭化物が

多量に混入していた。これらを考慮すれば、遺構内の東 59 や近傍ではイネ属などの植物が燃やされた後の灰や炭化物が多量に混入していた可能性が高い。試料中には焼土が認められないことから、東 59 の採取地点やその付近で植物が燃やされたのではなく、他の場所から持ち込まれた可能性が考えられる。また東 79 を除いた他の試料からも珪化組織片が産出したことから、遺構内に灰が混入していたと

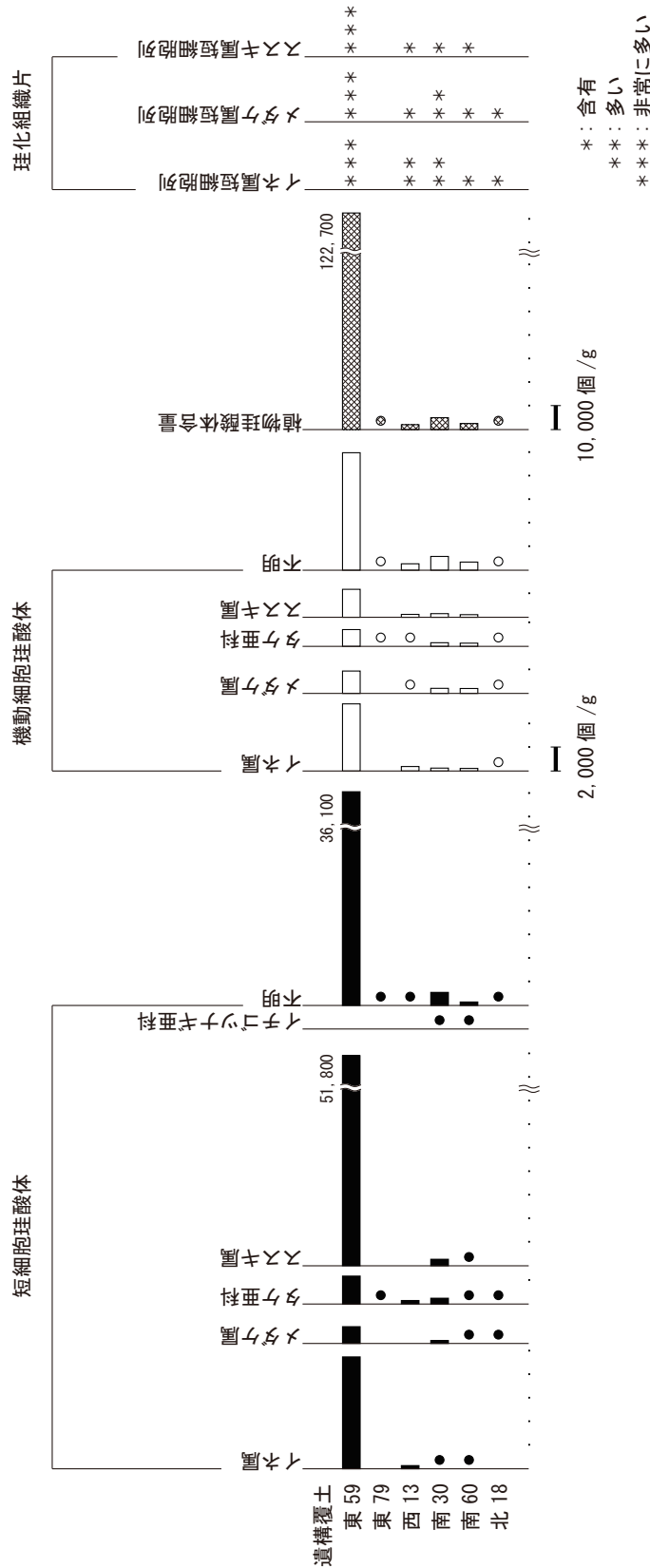


図 1. 積善遺跡 1 の植物珪酸体含量
乾土 1g あたりの個数で示す。植物珪酸体含量の ⊗ は 1,000 個未満、
他の ●○ は 200 個未満を定性的に示す。

考えられる。

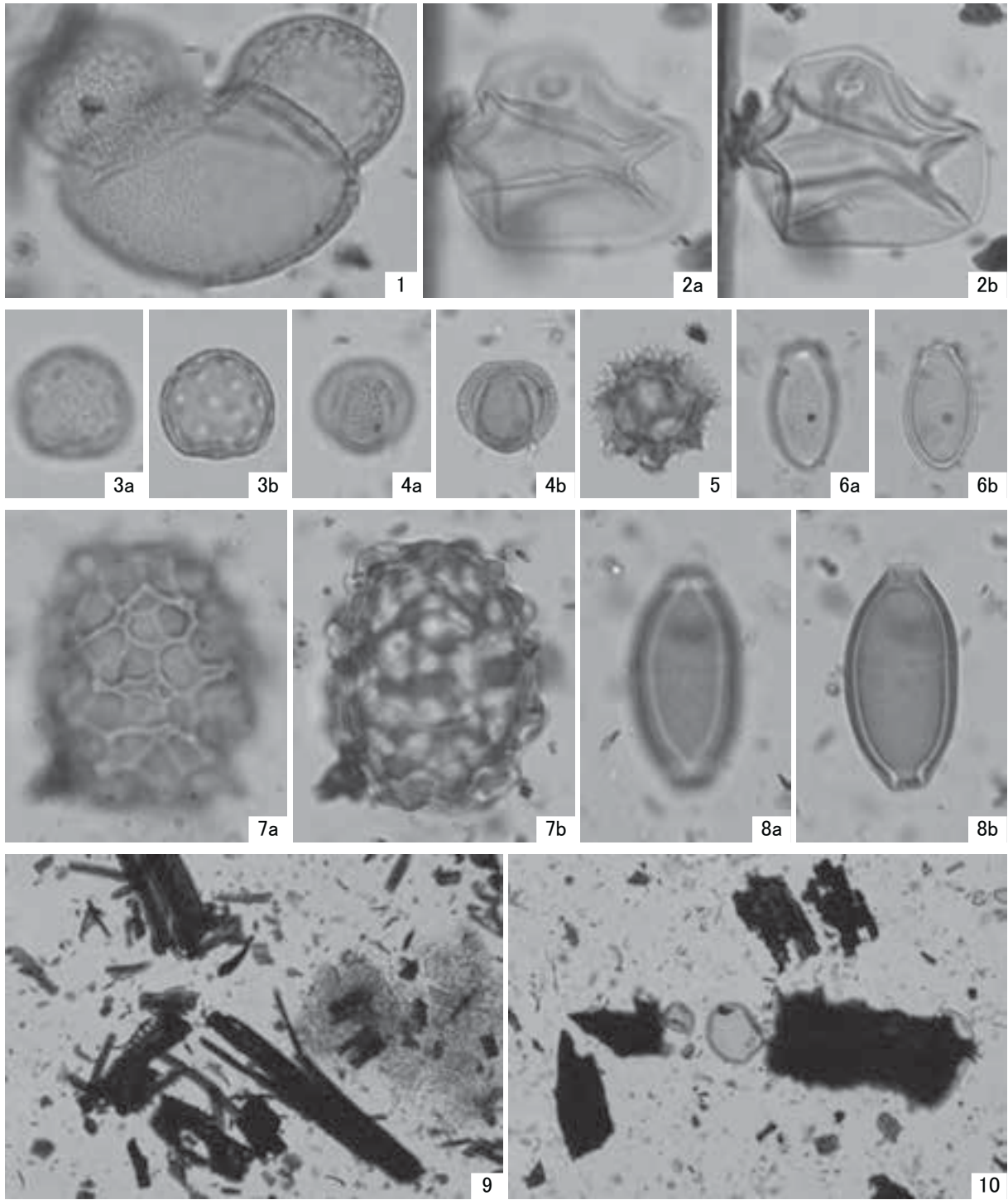
また、寄生虫卵が検出された試料もあり、特に南 30 からは寄生虫の卵である回虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵が検出された。一般に、寄生虫卵は糞便などの堆積物で多産することが知られているが（例えば金原・金原,1992,1993; 金原ほか,1995 など）、ある程度の人口密度のある集落などでは普通の土壌中からも低密度で検出されるとされている（金原ほか,1995）。また、寄生虫卵の分解に対する抵抗性が花粉化石と同程度とされている（黒崎ほか,1993）。今回の花粉化石の産状が悪いことを考慮すれば、寄生虫卵も分解の影響を受けている可能性が高いが、それでも花粉化石より多く検出されている点を見ると、本来は寄生虫卵が堆積物中に極めて多く含まれていたことが考えられる。以上を踏まえると、寄生虫卵の検出個体数と種類数が多い南 30 の採取地点やその付近では糞便などの混入があった可能性が指摘される。

このように、今回調査した試料は珪化組織片や寄生虫卵の特徴的な産状が見られた。この要因については、遺構の検出状況や埋積状態が現段階で不明であるため明確にならない。今後さらに土壌中での寄生虫卵の密度を検討する寄生虫卵分析を改めて実施するとともに、可食植物などの種実遺体を調査する微細物分析、リン酸成分など生物起源物質の富化を調べる土壤理化学分析、糞便に含まれるコプロスタノールなどの有無などを明らかにする脂肪酸分析などを行い、発掘調査所見を含めて遺構の用途を検討することが望まれる。

引用文献

- 金原正明・金原正子,1992,花粉分析および寄生虫・藤原京跡の便所遺構－右京七条一坊西北坪－,奈良国立文化財研究所,12-15.
- 金原正明・金原正子,1993,史跡松江城二ノ丸番所跡 SK-04 内堆積土の分析・史跡松江城発掘調査報告書,松江市教委区委員会,51-56.
- 金原正明・金原正子・中村亮仁,1995,大宮坊跡(厠跡)における自然科学的分析・史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ,石川県鹿島町教育委員会,51-70.
- 近藤鍊三,2010,プラント・オパール図譜・北海道大学出版会,387p.
- 黒崎 直・松井 章・金原正明・金原正子,1993,糞便堆積物の分析－特に寄生虫卵分析について－.日本文化財科学会第 10 回大会研究発表要旨集,日本文化財科学会,115-115.
- 三宅 尚・中越信和,1998,森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態・植生史研究,6,15-30.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子,2011,日本産花粉図鑑・北海道大学出版会,824p.
- 中村 純,1967,花粉分析・古今書院,232p.
- 中村 純,1980,日本産花粉の標徴 I II (図版).大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第 12,13 集,91p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1993,自然科学分析からみた人々の生活(1).慶應義塾藤沢校地理蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡 第 1 巻 総論」,慶應義塾,347-370.
- 島倉巳三郎,1973,日本植物の花粉形態・大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第 5 集,60p.
- 徳永重元・山内輝子,1971,花粉・胞子・化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.

図版1 花粉化石・寄生虫卵



50 μm

50 μm

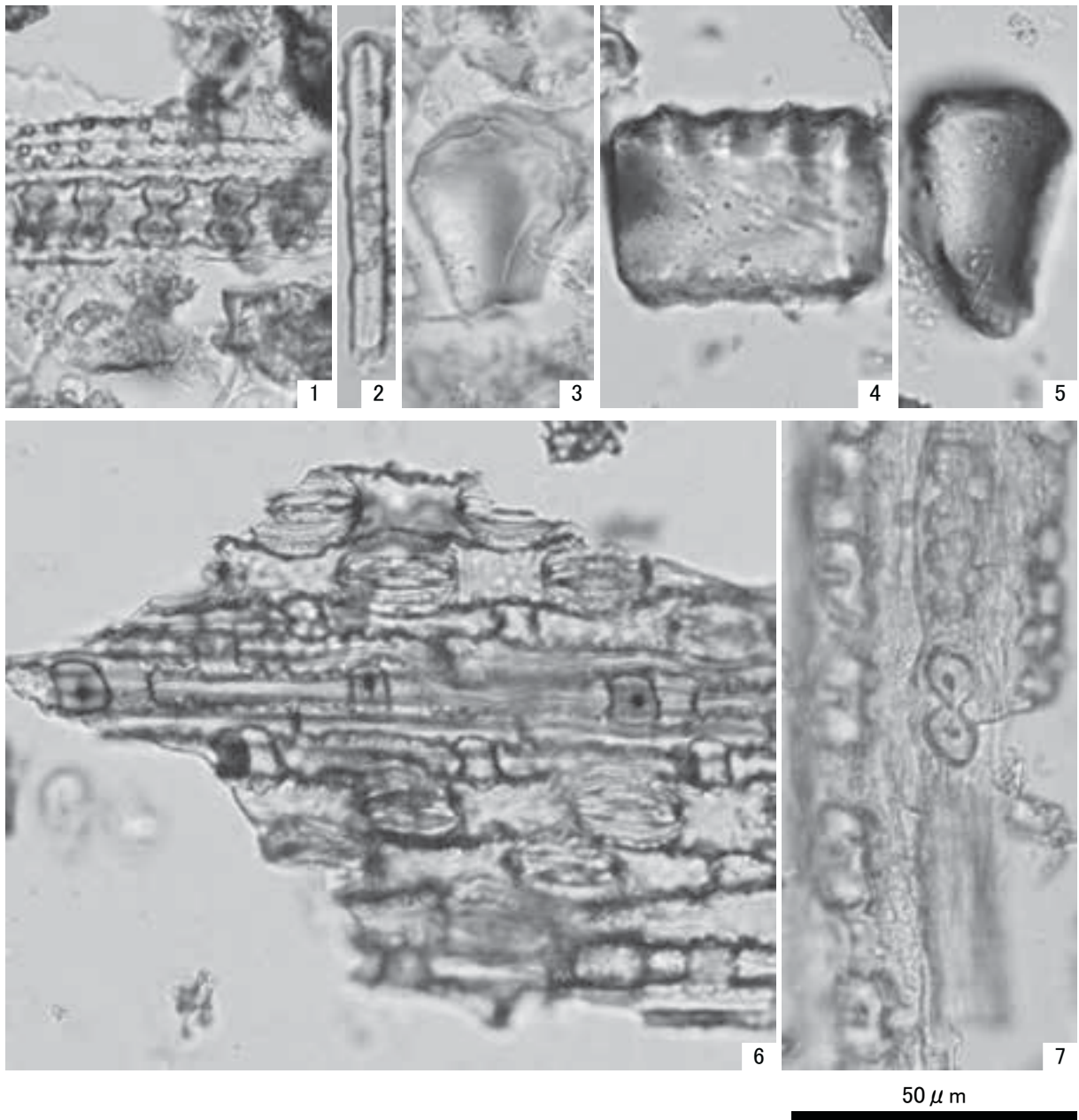
(1-8)

(9,10)

1. マツ属(遺構覆土;南30)
3. アカザ科(遺構覆土;西13)
5. タンポポ亜科(遺構覆土;東79)
7. 回虫卵(遺構覆土;南30)
9. 分析プレパラート内の状況(遺構覆土;東59)

2. イネ科(遺構覆土;東59)
4. アブラナ科(遺構覆土;南30)
6. 肝吸虫卵(遺構覆土;南30)
8. 鞭虫卵(遺構覆土;南30)
10. 分析プレパラート内の状況(遺構覆土;南30)

図版2 植物珪酸体



- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1. イネ属短細胞列(遺構覆土;東59) | 2. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(遺構覆土;南30) |
| 3. イネ属機動細胞珪酸体(遺構覆土;東59) | 4. メダケ属機動細胞珪酸体(遺構覆土;東59) |
| 5. ススキ属機動細胞珪酸体(遺構覆土;東59) | 6. メダケ属短細胞列(遺構覆土;南30) |
| 7. ススキ属短細胞列(遺構覆土;東59) | |



1. 第1面全景（東から）



2. 第2面全景（東から）



3. 第2a面全景（東から）



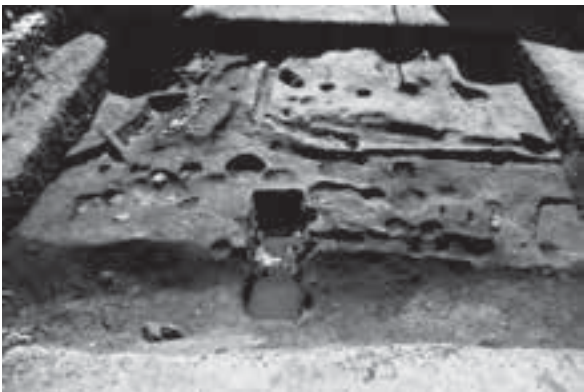
4. 第3面全景（東から）



5. 第3面全景（北から）



6. 第3a面全景（北から）



7. 第3a面全景（北から）



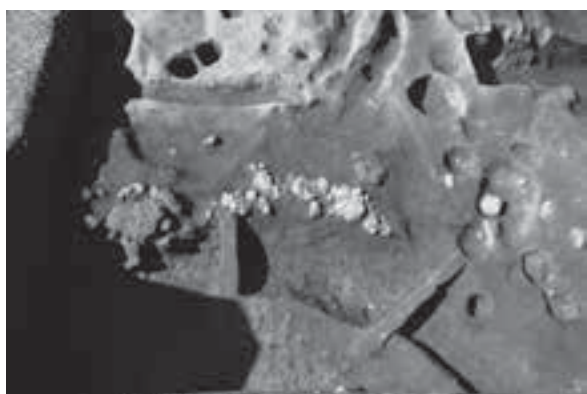
8. 第3a面全景（北から）



1. 第3面遺構70内石組(北から)



2. 第3面遺構70(西から)



3. 第3面遺構103(東から)



4. 第4面全景(北から)



5. 第4面遺構180、184(西から)



6. 第4面遺構183(南から)



7. 第4a面全景(北から)



8. 第4a面玉砂利敷(南から)



1. 第 4a 面遺構 212 (南から)



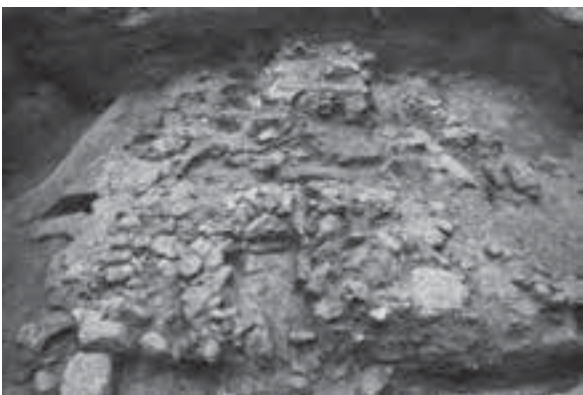
2. 第 4a 面遺構 212 (南から)



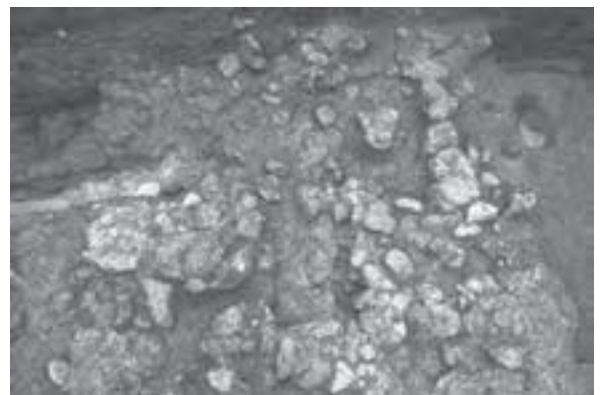
3. 第 4a 面遺構 212 (北から)



4. 第 5 面全景 (北から)



5. 第 5 面遺構 249 (北から)



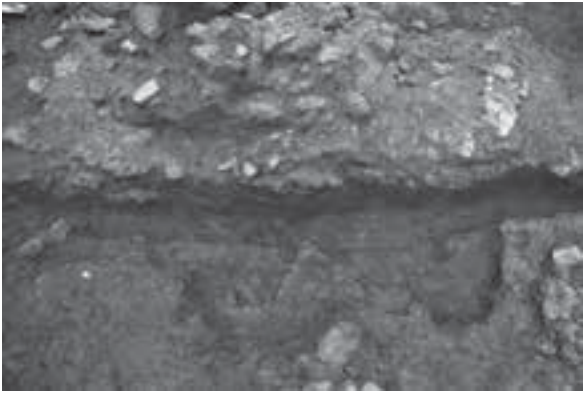
6. 第 5 面遺構 249 (南から)



7. 第 5 面遺構 249 (北から)



8. 第 5 面遺構 249 下セクション (南から)



1. 第5面遺構 249 (北から)



2. 第6面遺構 250 (北から)



3. 第6面遺構 250 完掘 (北から)



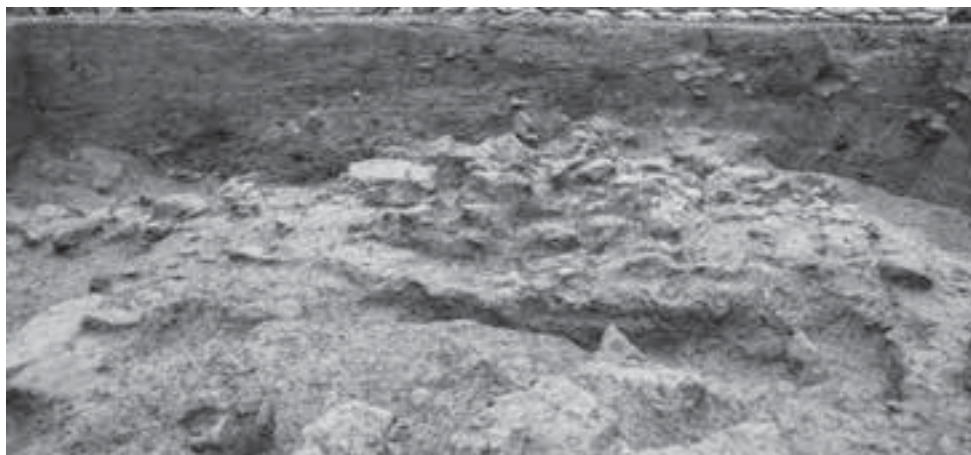
4. 第6面遺構 250 覆土 (東から)



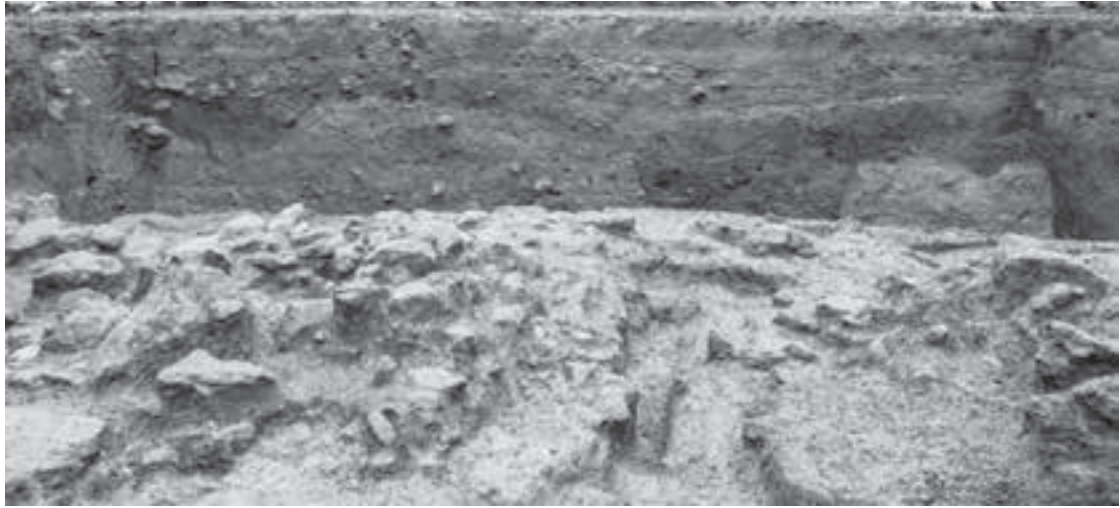
5. 第6面遺構 250 内部 (北から)



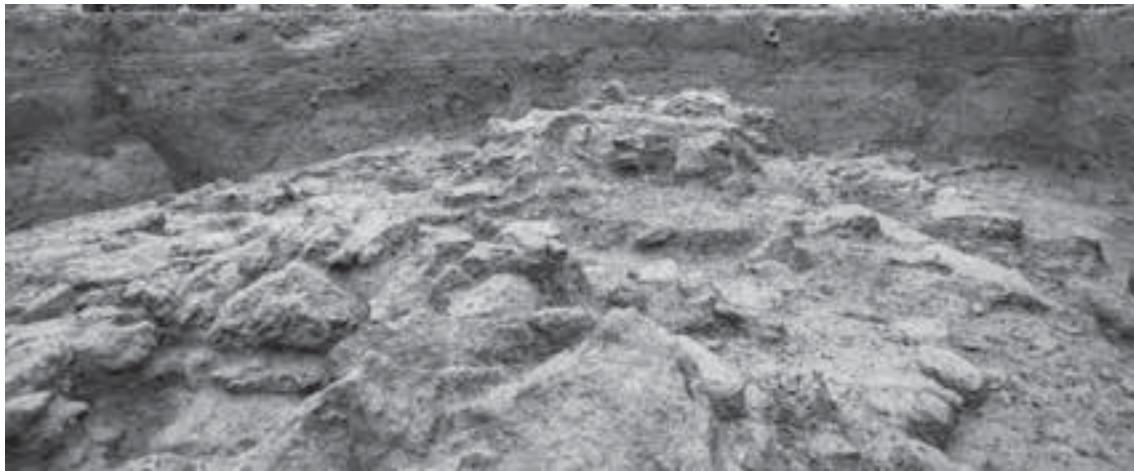
6. 第6面遺構 250 井戸枠 (東から)



7. 北壁セクション (南から)



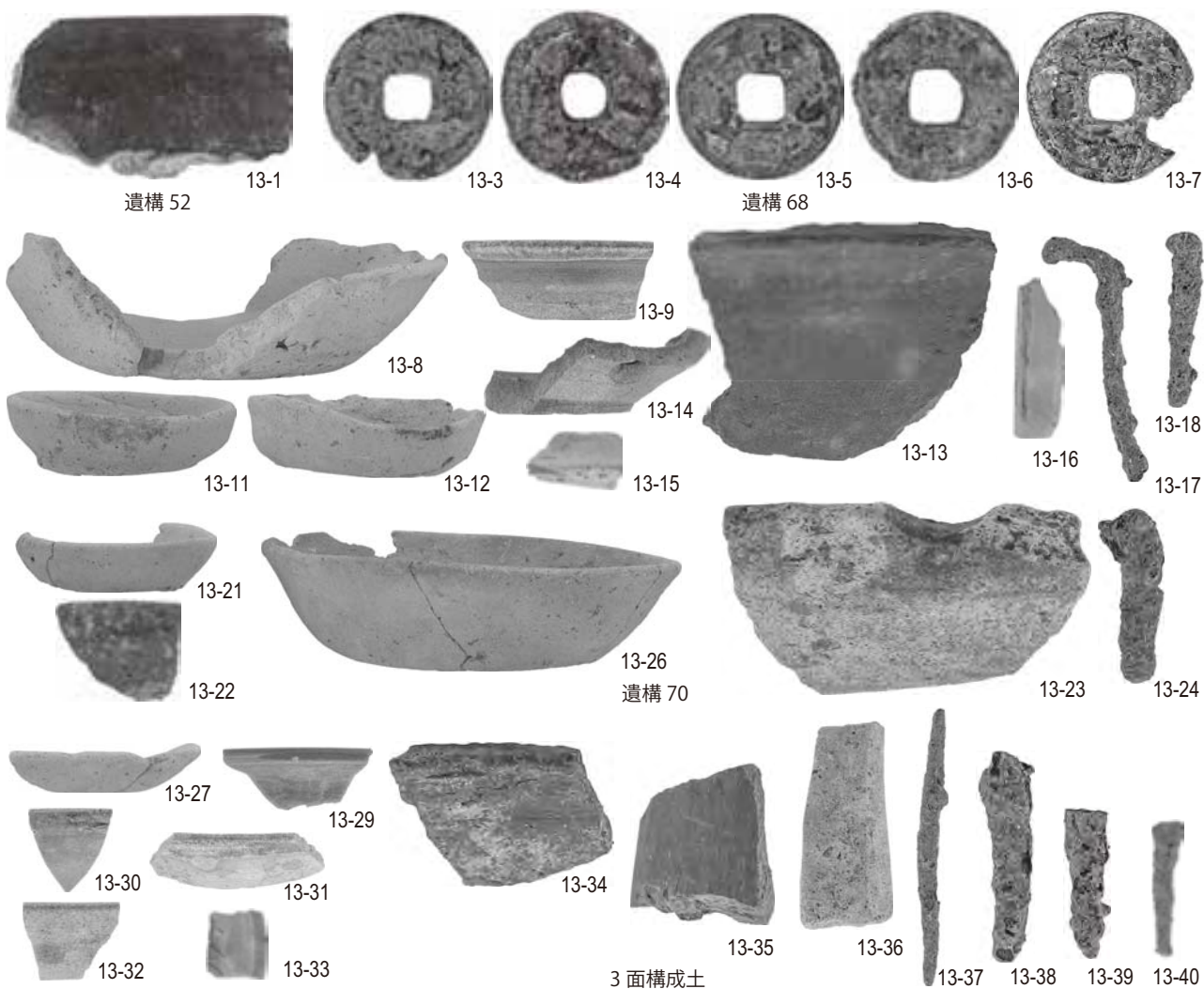
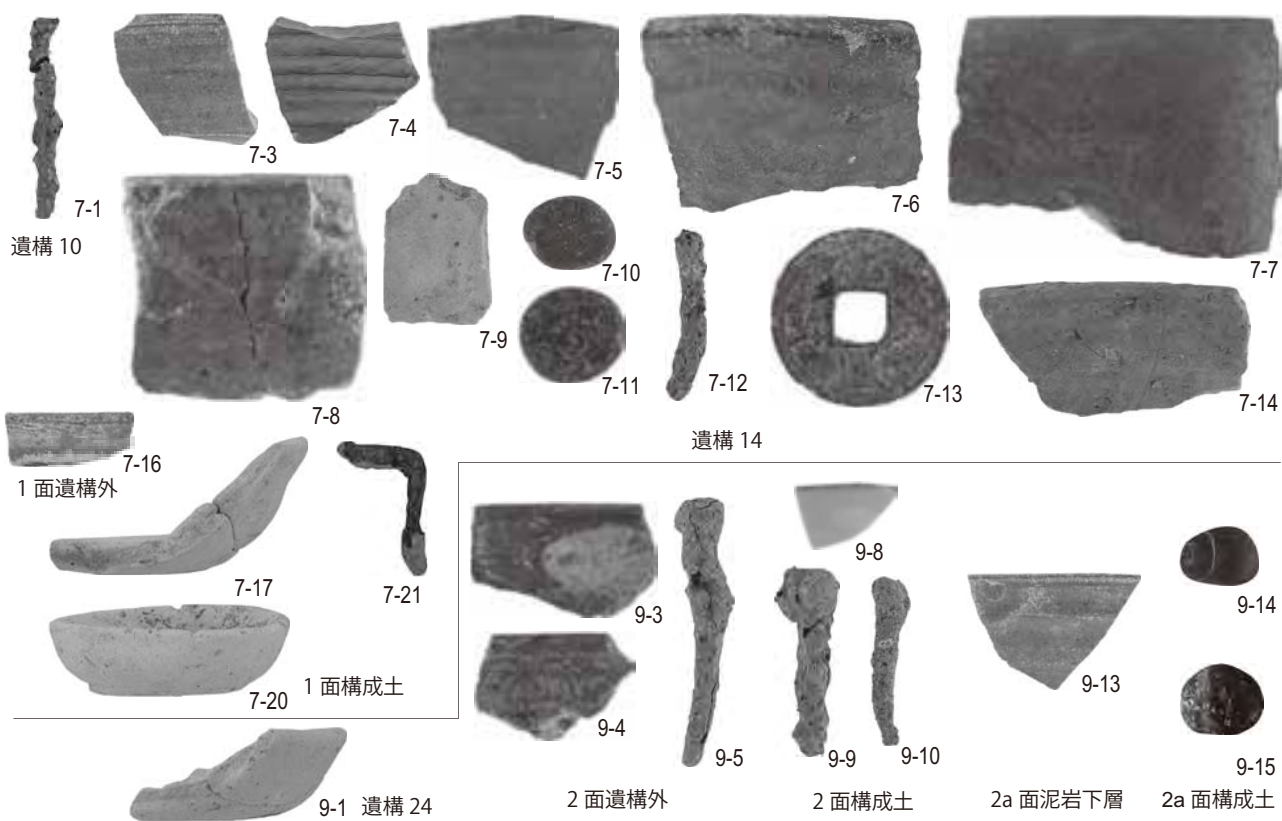
1. 東壁セクション（西から）

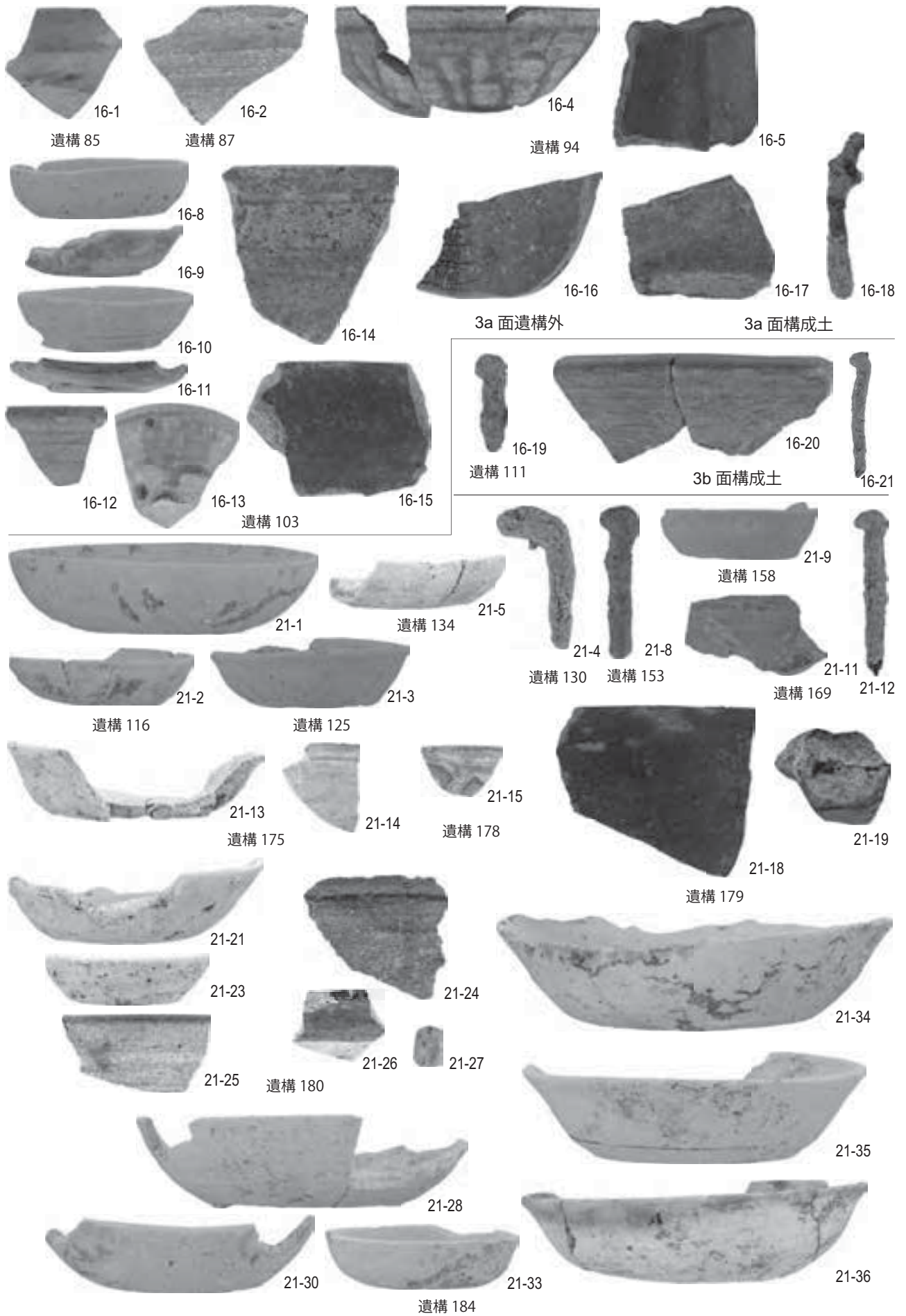


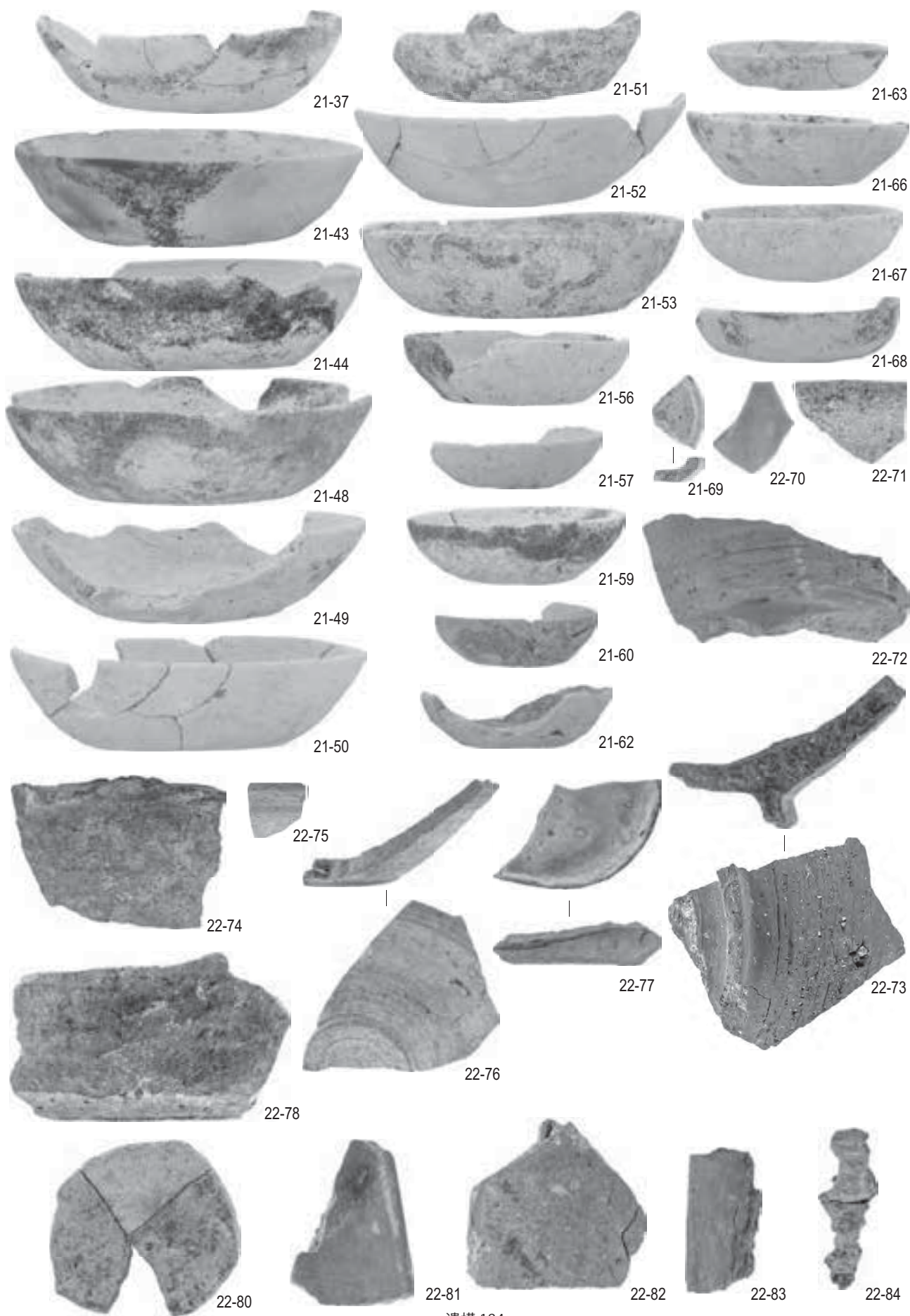
2. 南壁セクション（北から）



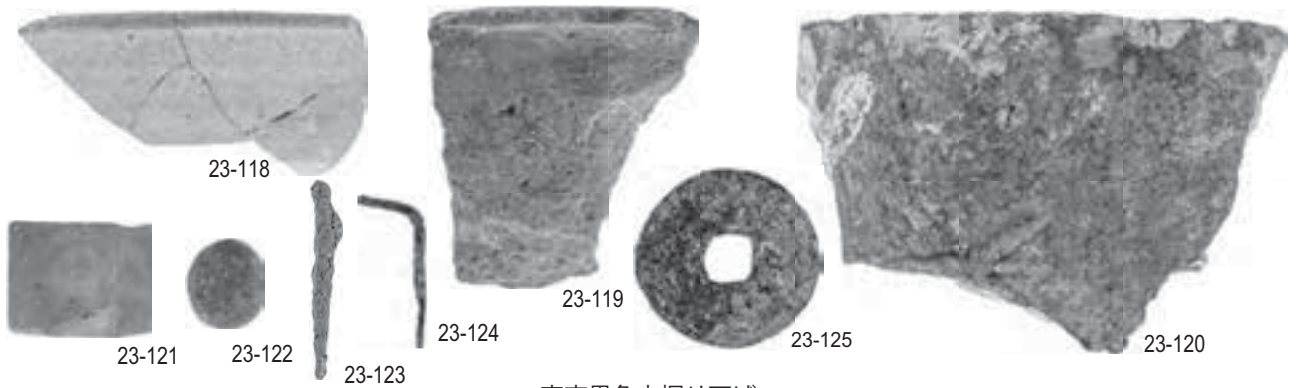
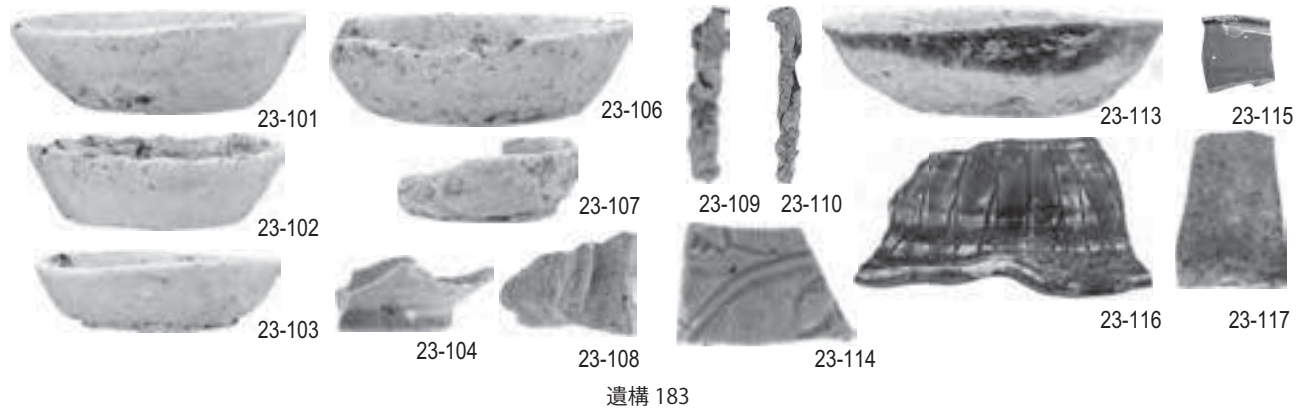
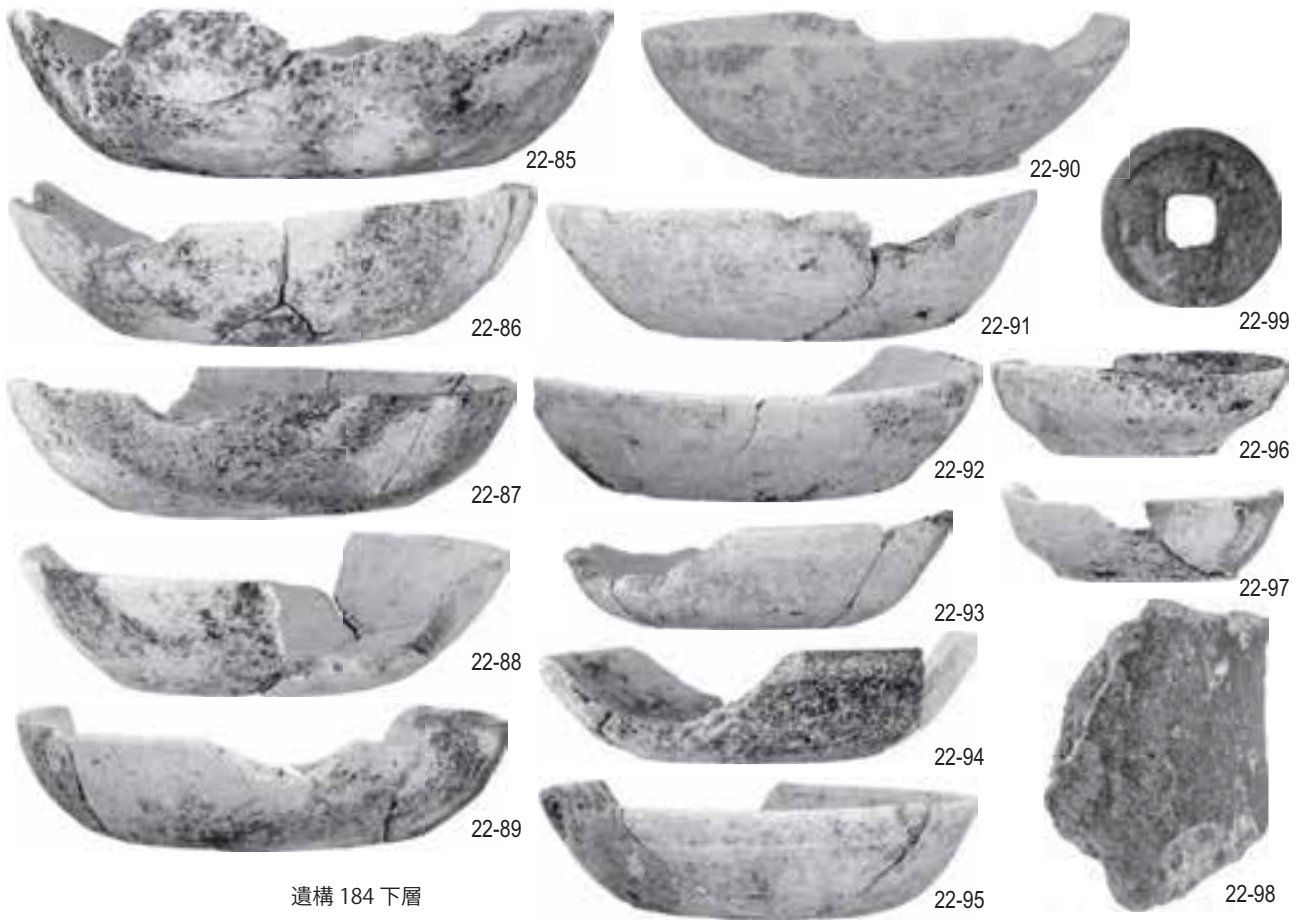
3. 西壁セクション（東から）







遺構 184





23-126



23-127



23-134



23-136

4面構成土



26-2



23-129



23-135



26-4



23-130



26-5



26-15



26-6



26-16



26-7



26-18



26-9



26-22



26-10



26-23



26-13



26-28



26-14



26-29



26-30

遺構 212



26-34



26-35



26-36



26-37



27-52



27-54



27-55



27-59



27-58



27-62

遺構 212



26-38



26-40



26-43



26-46



26-49



27-63



27-69



27-70



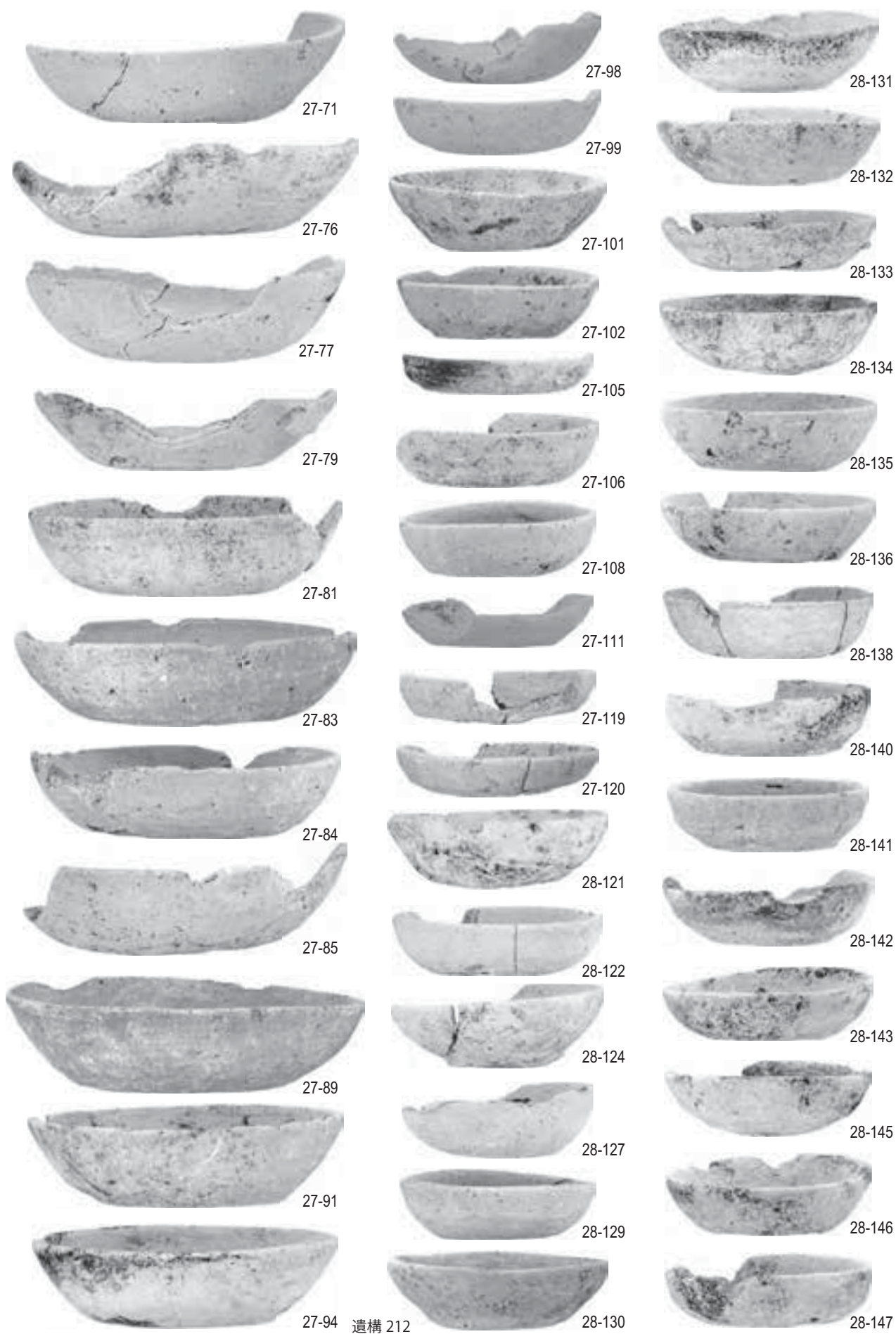
27-73



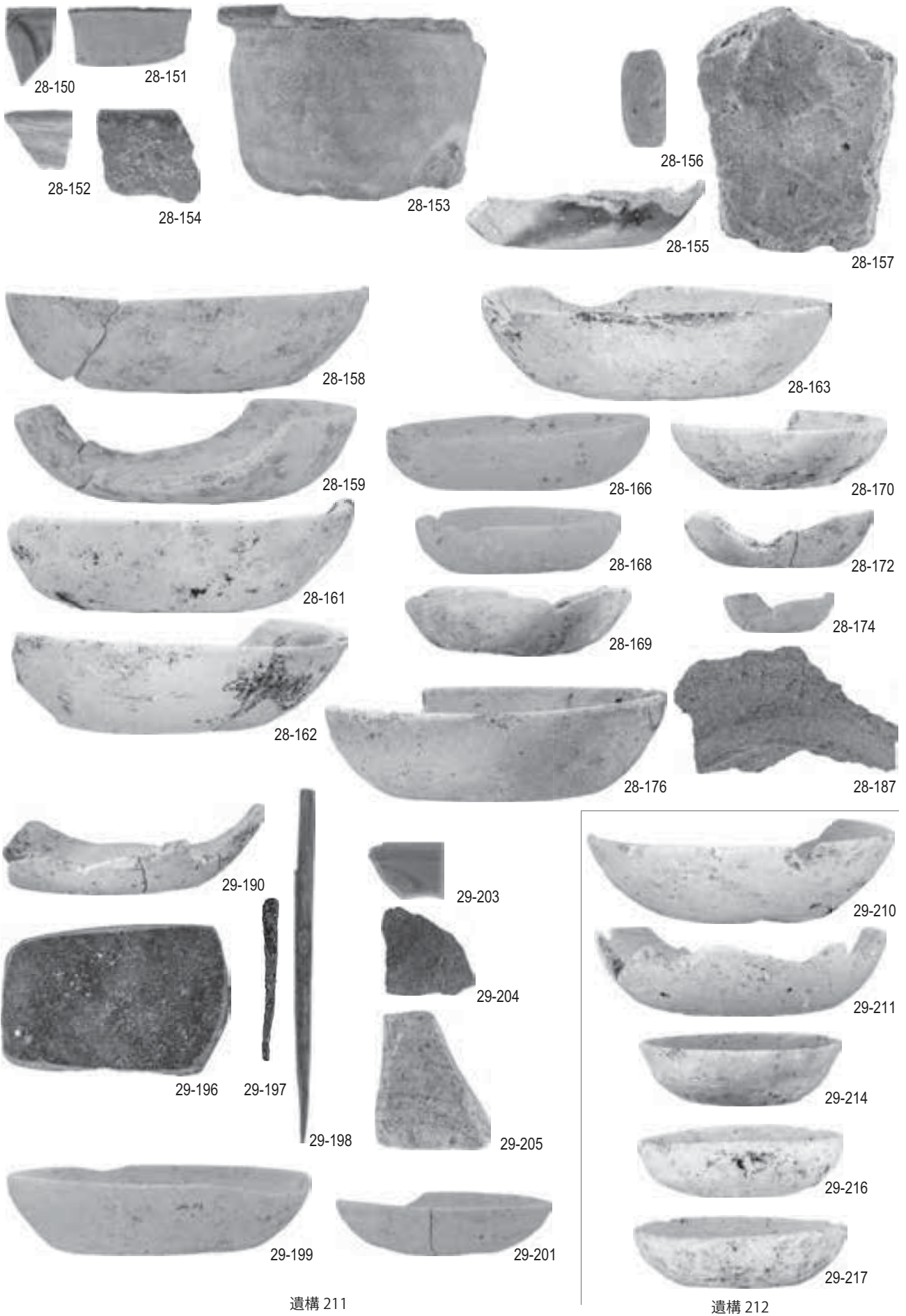
27-74

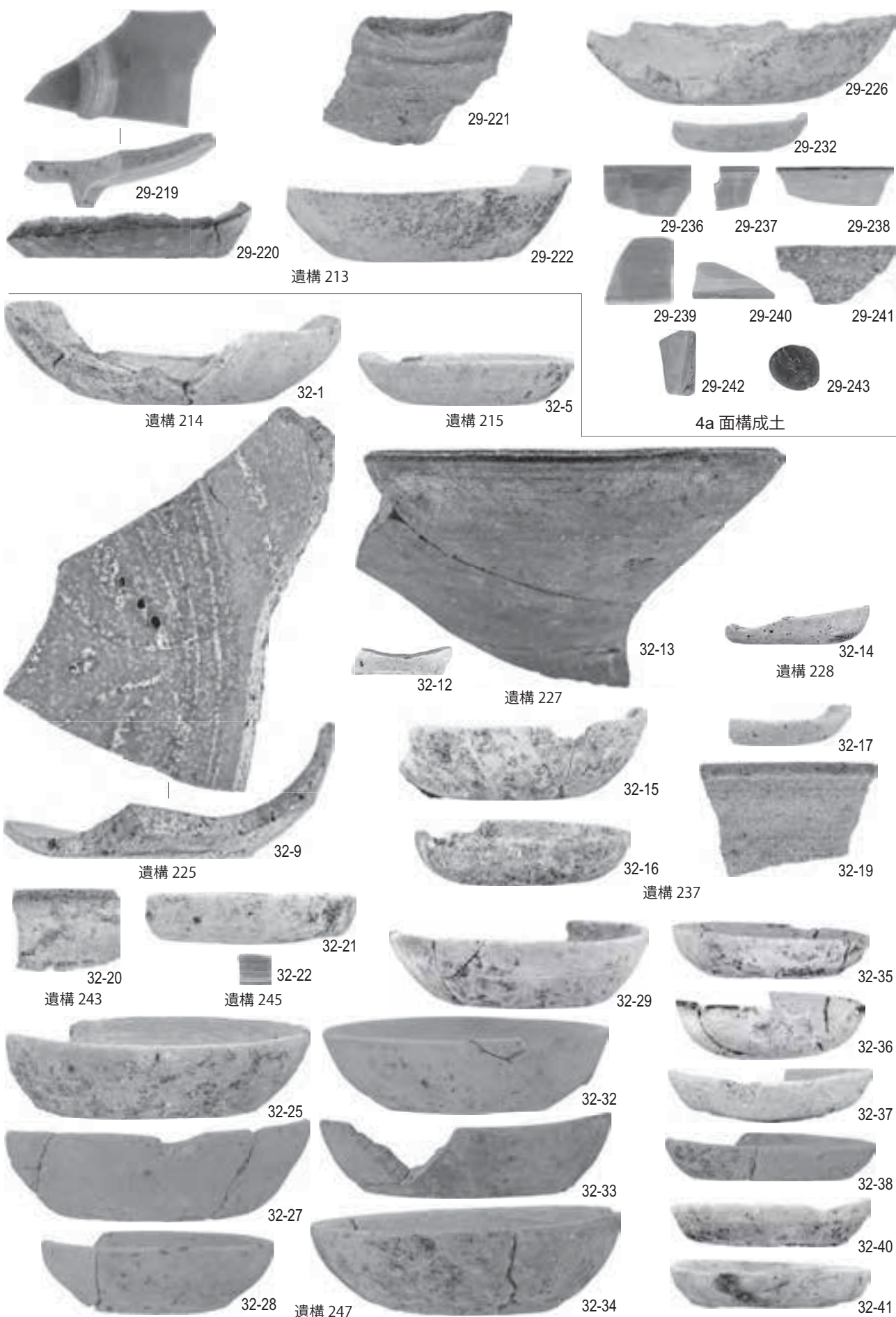


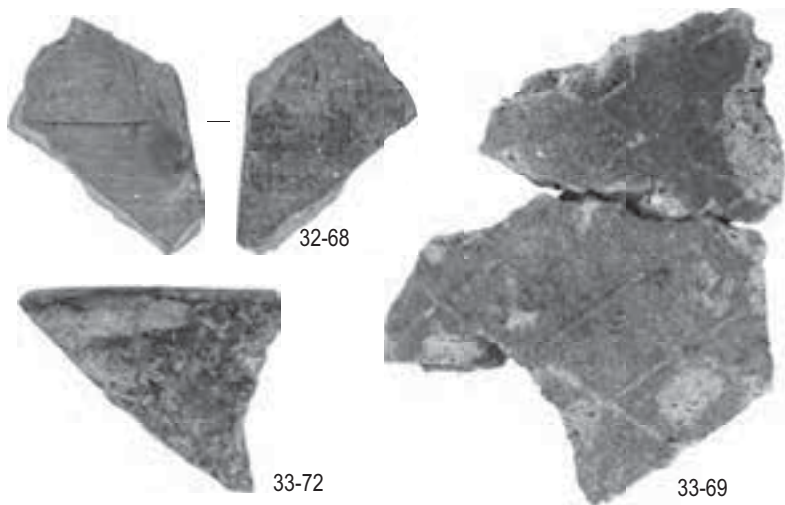
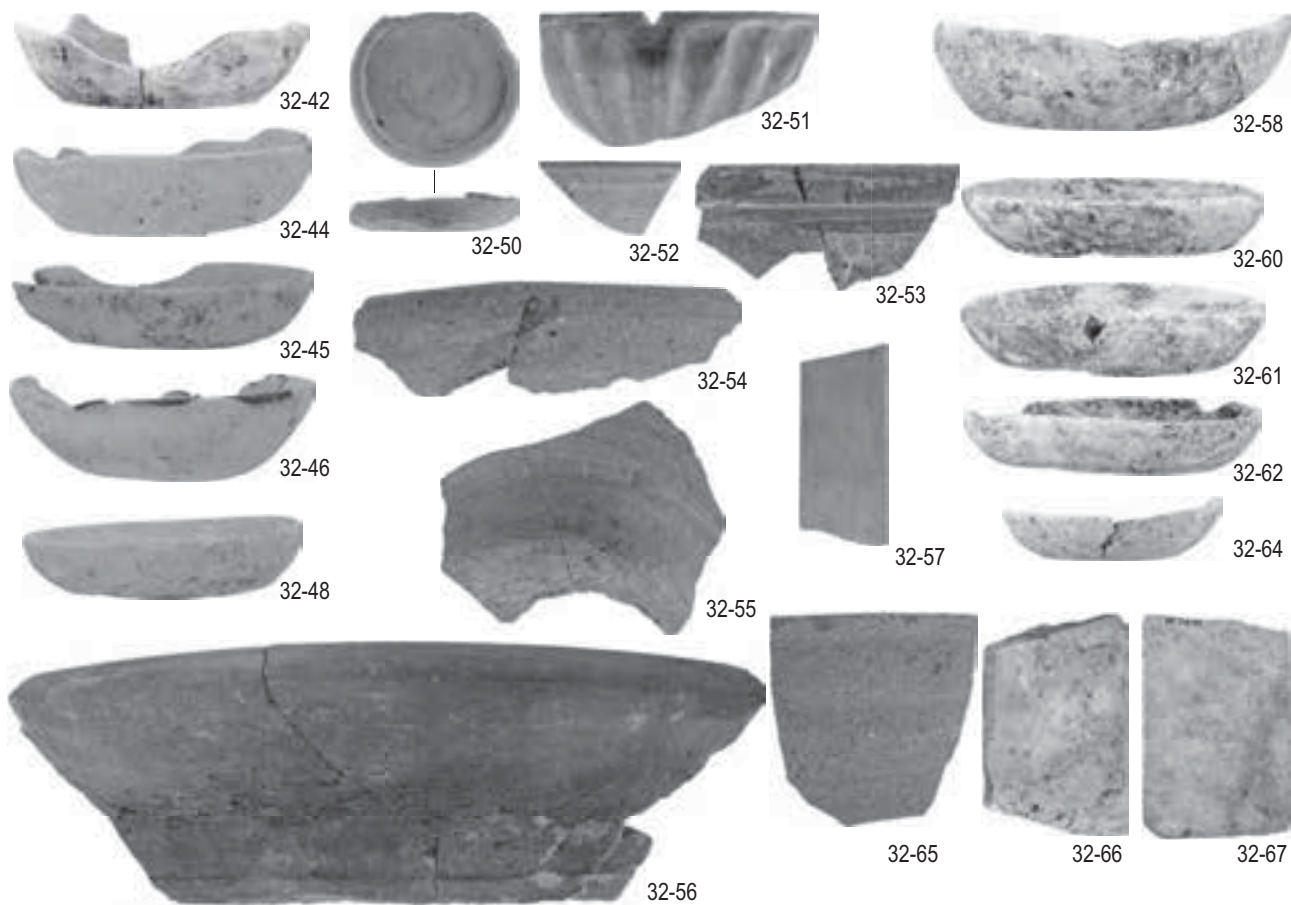
27-75



写真図版 13



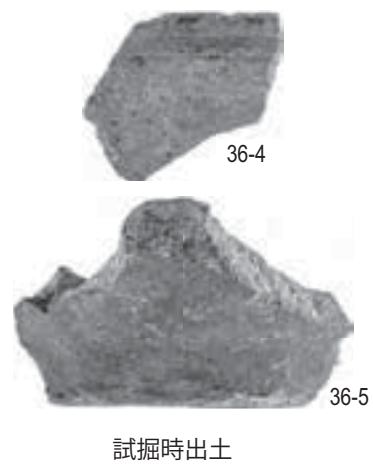
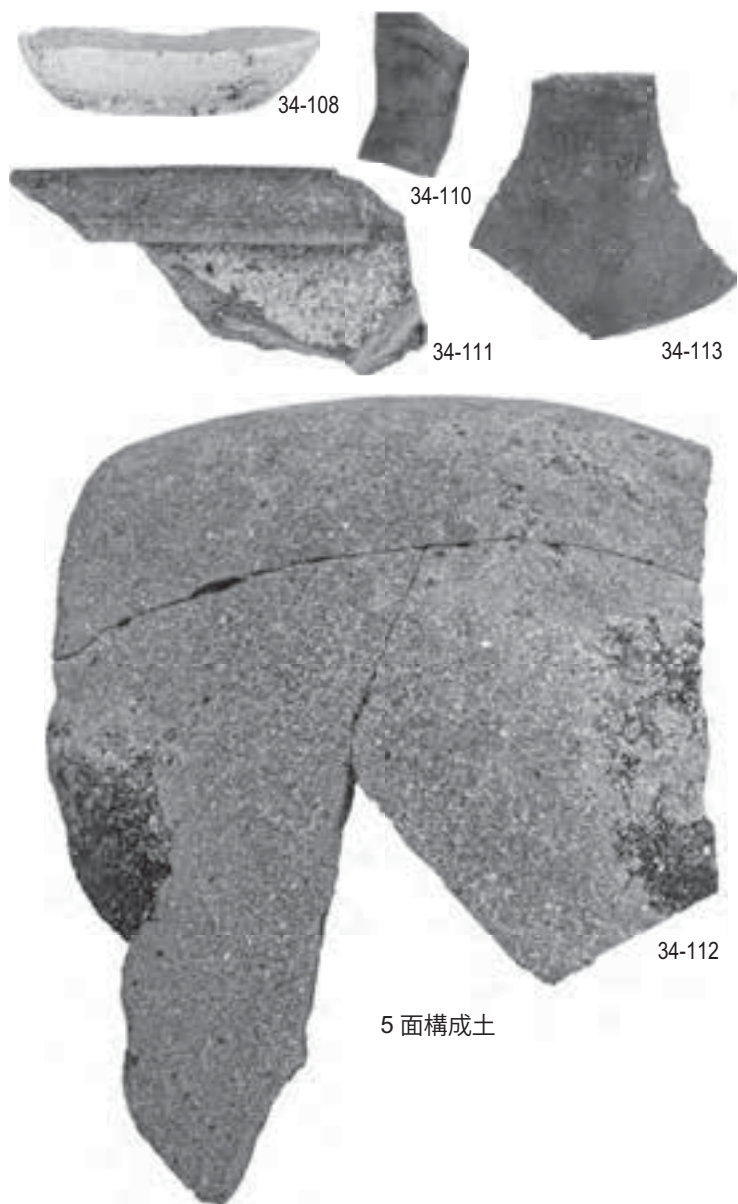
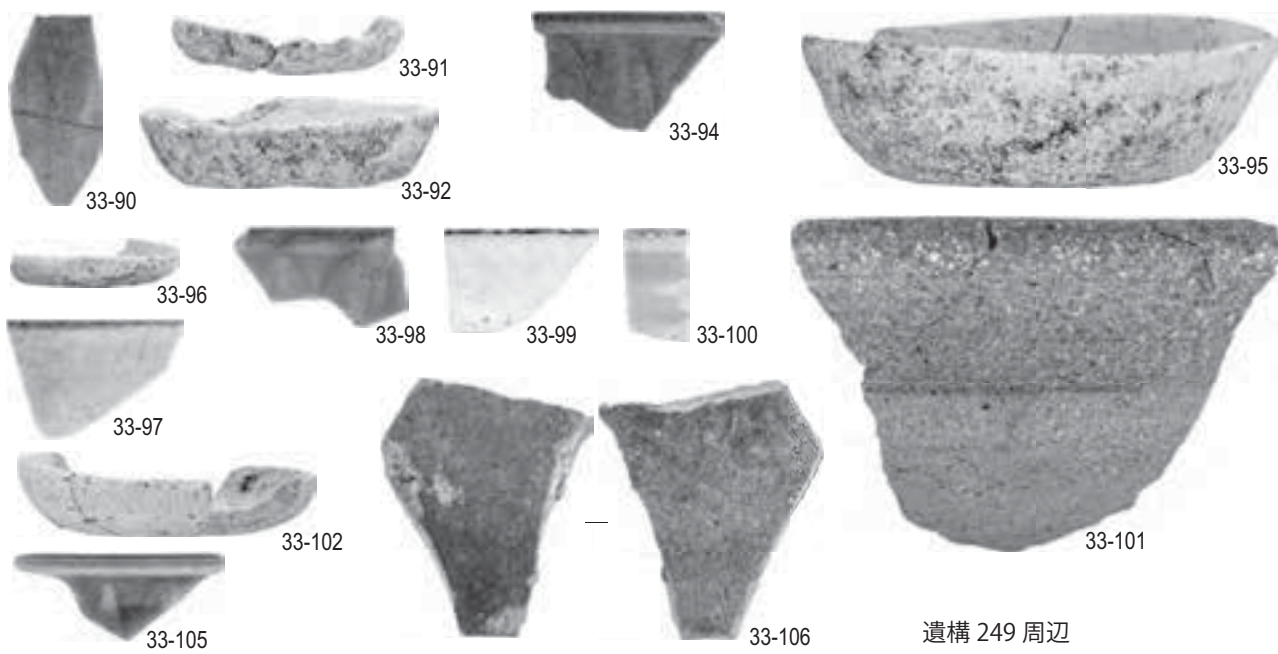




遺構 247



遺構 248



写真図版 17

